七尾市

国　分　遺　跡

2010

石　川　県　教　育　委　員　会

(財)石川県埋蔵文化財センター

国分遺跡

2010

石川県教育委員会
(財)石川県埋蔵文化財センター

国分遺跡と国分尼塚古墳群（中央左奥）（北東から）

国分遺跡と七尾湾（南から）

巻頭図版２

第１次調査　４号溝　土器（Ａ - １・２群）出土状況

第３次調査　旧河道下層１　土器群出土状況

例　　言

1　本書は国分遺跡の発掘調査報告書である。

2　遺跡の所在地は七尾市国分町地内である。

3　調査原因は広域河川改修工事二級河川御祓川（平成８・９年度は御祓川中小河川改修事業、平成10・11年度は御祓川広域基幹河川改修事業）であり、同事業を所管する石川県土木部河川課が石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。

4　調査は、以下の機関が各年度に各機関から依頼･委託を受け、平成８(1996)年度から平成21(2009)年度にかけて実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書刊行である。

調査年次　第１次調査［平成８年度］
担当機関　石川県立埋蔵文化財センター（石川県土木部河川課より依頼）
調査年次　第２次調査［平成９（1997）年度］
担当機関　石川県立埋蔵文化財センター（石川県土木部河川課より依頼）
調査年次　第３次調査［平成10（1998）年度］
担当機関　（財）石川県埋蔵文化財センター（石川県教育委員会より委託）
調査年次　第４次調査［平成11（1999）年度］
担当機関　（財）石川県埋蔵文化財センター（石川県教育委員会より委託）

5　調査に係る費用は石川県土木部河川課が負担した。

6　現地調査は平成８年度及び平成11年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者(当時)は下記のとおりである。

⑴第１次調査
期　　間　平成８年10月21日～平成９年１月13日
面　　積　1,000㎡
担当機関　石川県立埋蔵文化財センター
担 当 課　調査第二課
担 当 者　垣内光次郎（主任主事)、中西洋司（主事）

⑵第２次調査
期　　間　平成９年10月13日～平成９年12月４日
面　　積　1,200㎡
担当機関　石川県立埋蔵文化財センター
担 当 課　調査第二課
担 当 者　松山和彦（主任主事)、中西洋司（主事）

⑶第３次調査
期　　間　平成10年10月１日～同年12月24日
面　　積　1,000㎡
担当機関　（財）石川県埋蔵文化財センター
担 当 課　調査部調査第３課
担 当 者　浜崎悟司（課主査)、和田龍介（主事）

⑷第４次調査

期　　間　平成 11 年４月 13 日～同年５月 31 日

面　　積　860㎡

担当機関　㈶石川県埋蔵文化財センター

担 当 課　調査部調査第３課

担 当 者　安中哲徳（主事）、加藤克郎（主事）

7　出土品整理は、平成 19（2007）年度は企画部整理課が担当し、平成 20（2008）年度は調査部特定事業調査グループが担当し実施した。

8　報告書刊行は平成 21 年度に実施し、調査部特定事業調査グループが担当した。執筆分担は下記のとおりである。編集は浜崎悟司（調査部特定事業調査グループ主幹）が行なった。

第１章：加藤克郎（調査部特定事業調査グループ主任主事）

第２章：中泉絵美子（調査部特定事業調査グループ嘱託）

第３章第１節・第４節、第４章：浜崎

第３章第２節・第３節：松山和彦（調査部県事業調査グループ主幹）

第３章第５節：安中哲徳（調査部国事業調査グループ主任主事）

図版作成：加藤

9　調査には下記の機関・個人の協力を得た。（五十音順、敬称略）

石川県土木部河川課、石川県中能登土木総合事務所、七尾市教育委員会

10　調査に関する記録と出土品は (財) 石川県埋蔵文化財センターで保管している。

11　本書についての凡例は下記のとおりである。

⑴方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標（日本測地系）Ⅶ系に準拠した。

⑵水平基準は海抜高であり、Ｔ．Ｐ．（東京湾平均海面標高）による。

⑶出土遺物番号は挿図、一覧表、写真とで対応する。

目　　次

第１章　調査の経緯と経過 …… 1
　第１節　遺跡発見の経緯 …… 1
　第２節　調査の経緯と経過 …… 1

第２章　遺跡の位置と環境 …… 3
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3

第３章　調 査 の 結 果 …… 5
　第１節　概　　要 …… 5
　第２節　第１次調査の遺構と遺物 …… 6
　第３節　第２次調査の遺構と遺物 …… 22
　第４節　第３次調査の遺構と遺物 …… 28
　第５節　第４次調査の遺構と遺物 …… 45

第４章　総　　括 …… 69

挿図目次

第 1 図　国分遺跡の調査箇所 …… 1
第 2 図　周辺の遺跡 …… 4
第 3 図　調査区の概要 …… 5
第 4 図　第１次調査遺構図１ …… 6
第 5 図　第１次調査遺構垂直写真 …… 7
第 6 図　第１次調査遺物実測図１ …… 8
第 7 図　第１次調査遺物実測図２ …… 9
第 8 図　第１次調査遺物実測図３ …… 10
第 9 図　第１次調査遺物実測図４ …… 11
第 10 図　第１次調査遺物実測図５ …… 12
第 11 図　第１次調査遺物実測図６ …… 13
第 12 図　第１次調査遺物実測図７ …… 14
第 13 図　第１次調査遺物実測図８ …… 15
第 14 図　第１次調査遺物実測図９ …… 16
第 15 図　第１次調査遺物実測図 10 …… 17
第 16 図　第１次調査遺物実測図 11 …… 18
第 17 図　第１次調査遺物実測図 12 …… 19
第 18 図　第１次調査遺物実測図 13 …… 20
第 19 図　第１次調査遺物実測図 14 …… 21
第 20 図　第１次調査遺物実測図 15 …… 22
第 21 図　第１次調査遺構図２ …… 22
第 22 図　第２次調査建物跡遺構図１ …… 23
第 23 図　第２次調査建物跡遺構図２ …… 24
第 24 図　第２次調査遺構図１ …… 25
第 25 図　第２次調査遺構図２ …… 26
第 26 図　第２次調査遺物実測図 …… 27
第 27 図　第３次調査遺構図１ …… 28
第 28 図　第３次調査遺構図２ …… 29
第 29 図　第３次調査遺構図３ …… 30
第 30 図　第３次調査遺物実測図１ …… 31
第 31 図　第３次調査遺物実測図２ …… 32
第 32 図　第３次調査遺物実測図３ …… 33
第 33 図　第３次調査遺物実測図４ …… 34
第 34 図　第３次調査遺物実測図５ …… 35
第 35 図　第３次調査遺物実測図６ …… 36
第 36 図　第３次調査遺物実測図７ …… 37

第37図　第３次調査遺物実測図８ …… 38
第38図　第３次調査遺物実測図９ …… 39
第39図　第３次調査遺物実測図10 …… 40
第40図　第３次調査遺物実測図11 …… 41
第41図　第３次調査遺物実測図12 …… 42
第42図　第３次調査遺物実測図13 …… 43
第43図　第３次調査遺物実測図14 …… 44
第44図　第４次調査建物跡遺構図１ …… 46
第45図　第４次調査建物跡遺構図２ …… 47
第46図　第４次調査建物跡遺構図３ …… 48
第47図　第４次調査遺構図１ …… 50
第48図　第４次調査遺構図２ …… 51
第49図　第４次調査遺構図３ …… 52
第50図　第４次調査作業状況（Ｃ区）…… 52
第51図　第４次調査遺物実測図１ …… 53
第52図　第４次調査遺物実測図２ …… 54
第53図　木製品実測図 …… 56
第54図　建物跡の位置 …… 57
第55図　遺構変遷案 …… 69

表　目　次

第１表　建物跡一覧 …… 57
第２表　土器一覧 …… 58~65
第３表　石製品など一覧 …… 66
第４表　木製品一覧 …… 66
第５表　臼玉一覧 …… 67
第６表　臼玉の法量分布 …… 68

図版目次

図版１　遺構 第１次調査
図版２　遺構 第１次調査
図版３　遺構 第１次調査
図版４　遺構 第１次調査
図版５　遺構 第２次調査
図版６　遺構 第２次調査
図版７　遺構 第２次調査
図版８　遺構 第３次調査
図版９　遺構 第３次調査
図版10　遺構 第３次調査
図版11　遺構 第３次調査
図版12　遺構 第４次調査
図版13　遺構 第４次調査
図版14　遺構 第４次調査
図版15　遺物
図版16　遺物
図版17　遺物
図版18　遺物
図版19　遺物
図版20　遺物
図版21　遺物
図版22　遺物

付　図

付図１　国分遺跡調査区（第１次～第４次）全体図（1/500）
付図２　国分遺跡平面図（部分・1/300）

第１章　調査の経緯と経過

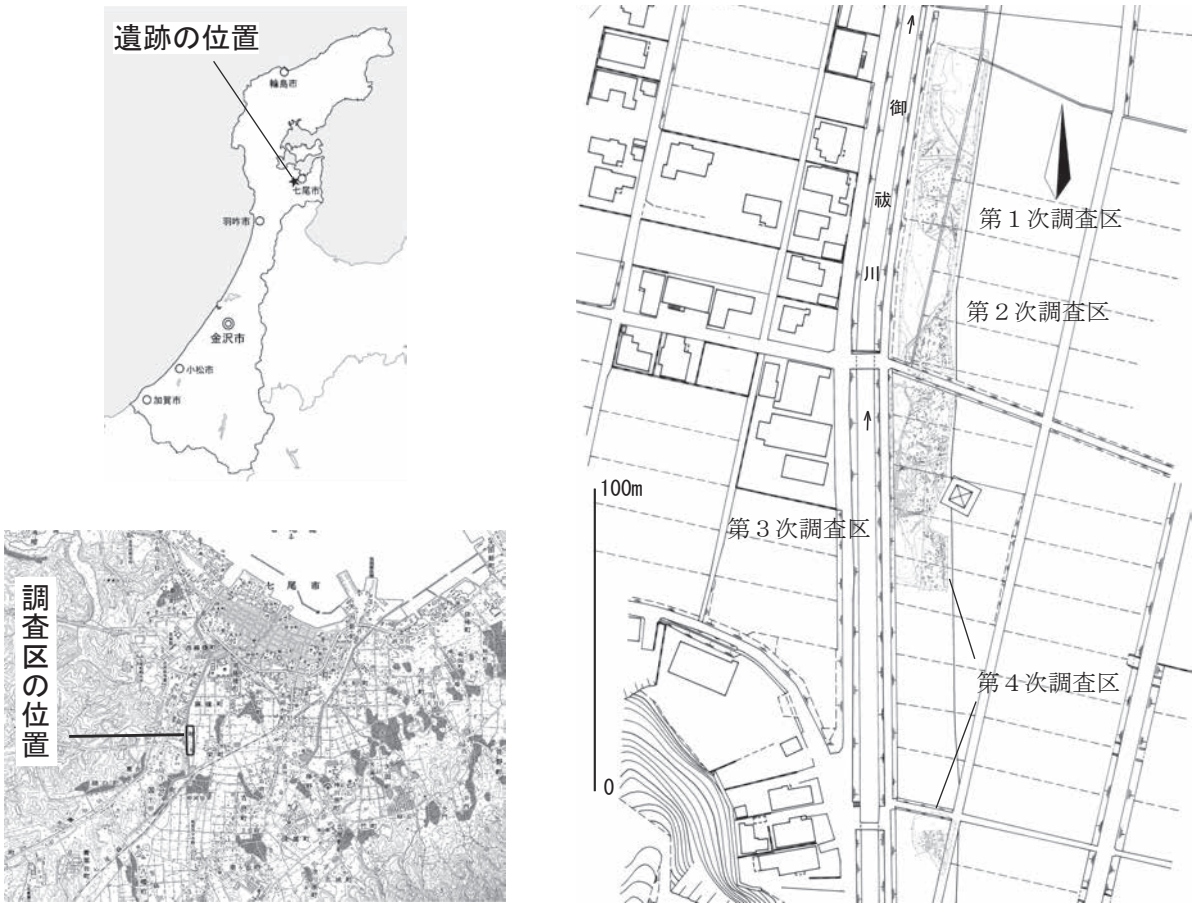
第１節　遺跡発見の経緯

本遺跡の発掘は、御祓川中小河川改修事業（平成 10・11 年度は、御祓川広域基幹河川改修事業）に伴うものである。これまで同事業で発掘調査された埋蔵文化財としては、県立埋蔵文化財センター（当時、以下県立埋文センター）による昭和 63 年度の分布調査において新規に確認され、平成元年度に発掘調査され多くの成果を挙げた藤橋遺跡がある。

平成５年度に至り、石川県七尾土木事務所（当時、以下七尾土木事務所）から県立埋文センターに対して、藤橋町地内から国分町地内における分布調査実施の依頼があり、５月 20 日に分布調査を実施した。その結果、事業地の一部において古墳時代の集落とみられる埋蔵文化財が確認され、国分町地内にあることから国分遺跡と命名された。事業予定地内の約 4,900㎡が調査対象と見込まれた。

第２節　調査の経緯と経過

平成８年６月６日付けで七尾土木事務所から県立埋文センターに調査依頼があり（依頼面積 2,000㎡）、初めて国分遺跡の発掘調査を実施することになった。



第１図　国分遺跡の調査箇所

４月当初の調査計画では、別遺跡の調査終了後、８月後半から国分遺跡に着手する予定であったが、進捗の状況により、国分遺跡の調査開始は10月中旬からとなった。10月９日七尾土木事務所にて、七尾土木事務所、文化財課、県立埋文センターの３者で協議を実施した結果、冬期を迎えることを勘案した河川保安上の理由から現況水田部分１,000㎡を当該年度に調査するものとし、当初の計画中にあった現況堤防下は次年度に調査を実施することになった。現地調査は、まず10月21日から28日にかけて重機による表土除去作業を実施、29日から作業員を投入した。11月６日からは、調査区中央に位置する４号溝の検出及び掘削作業を開始し、11月末までに終了した。12月３日からは、南半部の包含層掘削や遺構検出・掘削作業に着手し、並行して４号溝の土層精査等を実施した。12月17日には、空中写真測量を実施し、20日から25日には、個別遺構の写真撮影や土層断面図を作成した。平成９年１月７日から９日にかけて重機による調査区埋め戻しを行い、周辺整備の後13日に現地調査を終了した。

平成９年度には第２次調査を実施した。４月当初の計画では、第１次調査区西側の御祓川現況堤防下約500㎡及び南側の堤防背後地約700㎡、合計約1,200㎡を護岸撤去工事と並行して発掘調査を実施する計画であった。そこで七尾土木事務所から県立埋文センターに平成９年４月４日付けで調査依頼された。ところが、７月17日未明の能登地方での大雨による御祓川の増水により、調査区の約20ｍ下流対岸の市道が道幅いっぱいに崩落するなど、当地は甚大な被害に見舞われた。調査区沿いの御祓川堤防も随所で損壊し、堤防下調査予定地の調査着手は当分不能となった。その後の調整で、平成９年度は堤防後背地のみの1,200㎡調査を実施することになった。

現地調査は、まず10月13日から15日にかけて重機による表土除去作業を実施、仮設建物を設置後22日から作業員による作業を開始した。24日からは南区について、東西に分けて遺構検出作業と遺構掘削作業を並行して実施した。11月４日からは北区の調査にも着手し、11日には概ね掘削作業を終了し、遺構断面図作成や写真撮影等を実施した。19日に空中写真測量を実施し、翌日からは調査区東壁・西壁を精査し土層観察、断面図実測等を実施した。12月１日から３日にかけて重機による調査区埋め戻しを行い、４日に発掘機材等を返却し、現地調査を終了した。なお、第２次調査の結果、調査区西側に関しては近代の御祓川河道により遺跡が消滅していることが判明し、発掘調査不要区域となった。

平成10年度からは御祓川広域基幹河川改修工事を調査原因として、石川県教育委員会から財団法人石川県埋蔵文化財センター（以下、埋文センター）に発掘調査等が委託され実施されてきている。平成10年度は前年度調査区よりも上流側の川沿い部分1,000㎡を対象に発掘調査を実施した。

10月８日より表土除去を開始し、13日より作業員を投入。20日より旧河道の掘り下げ、併せて北から南方向に向けて遺構掘り下げ。12月４日空中写真測量実施。補足的な作業を行うとともに９日より０区（農道下）を調査。重機による調査区埋め戻しの後14日に撤収した。

平成11年度調査は第４次調査に当たり、最も上流側（南側）の860㎡が調査対象で、第３次調査区の東側隣接地（Ａ・Ｂ区）及び約70ｍ南側に隔った地点（Ｃ区）を調査した。

現地調査は、４月13日に調査区の排水作業から着手し、14日から15日にかけて重機による表土除去。22日から作業員による作業を開始し、Ａ・Ｂ区について遺構検出作業を月末までにおよそ終了し、連休明けから遺構掘削作業を開始した。Ｃ区は５月７日に遺構検出作業を終え、掘削作業を開始した。途中５月14日には、Ａ・Ｃ区の農道部分について、重機による表土除去作業を実施した。19日からは遺構の土層断面実測等を並行して行い、24日までに遺構を完掘し、25日に空中写真測量を実施した。27日に発掘調査機材の搬出を行い、31日には現地調査を終了した。

平成20年度の遺物整理事業として本書の執筆までの作業を行った。本書は以上の国分遺跡の発掘調査成果をまとめ、刊行するものである。

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

国分遺跡は、石川県七尾市国分町に所在し、御祓 (みそぎ) 川の下流域に広がる集落遺跡である。

七尾市は能登半島中央部の東海岸側に位置し、平成 16 年 10 月、近隣の田鶴浜町・中島町・能登島町と合併し、さらに市域面積を拡大した能登地方の中核都市である。その地形としては、南は石動山系が連なり、西は海抜 100m 未満の低い丘陵が連なり、中央には能登島を浮かべ日本海へと通ずる波穏やかな七尾湾がある。国分町は、この地に能登国分寺が所在していたことに由来する名前である。

羽咋から七尾湾へと山地と山地との間に低地平野部が続く邑知潟地溝帯は能登地方最大の穀倉地帯となっている。東側の石動山系は高くなだらかな丘陵が連続する山地であり、西側の眉丈山系は低いものの、山脈と平野部とでは大きな段差が存在している。

国分町を流れる御祓川は七尾最大の川であり、川の流れる平野部西側は東側に比べ低く、眉丈山系とは大きな段差を作り出している。今回の調査地は河口から約 1.7km 遡った地点の東岸にあたる。現況は水田であった。

第２節　歴史的環境

国分遺跡周辺の遺跡や古墳群は東西の丘陵地近辺に密集していることは古くから知られており、低地の平野部は遺跡が希薄かとみられていたが、近年、各種開発が及んだ結果、低地部でも遺跡の存在が確認されはじめている。国分遺跡周辺の遺跡の集中地区を考察すると、大別して３つのグループに分類することができる。西側の丘陵地帯を主とする西のグループ、国分・岩屋地区。東側の丘陵地帯を主とする東のグループ、矢田･万行地区。そして低地平野部を主体とする南のグループ、千野･国分･古府地区である。以下、古墳時代前後を中心として、このグループ別に概要を述べたい。

西グループでは、国分尼塚遺跡では縄文時代前期前葉、国分高井Ｂ遺跡では前期後葉の土器が出土し、細口源田山遺跡では弥生中期の方形周溝墓群が発見され、国分高井山遺跡は弥生後期の集落遺跡である。古墳群としては、古墳前期の前方後方墳の国分尼塚１号墳・２号墳、国分高井山古墳群、細口古墳群、国分火司神社古墳群、国分岩屋山古墳群等がある。円墳や、土着性が感じられる方墳や前方後方墳が多く、畿内の影響を受けている前方後円墳は少ない。

東グループでは、万行赤岩山遺跡で縄文時代前期後葉から古墳時代後期に至るまでの竪穴住居跡が多数発見されている。このグループでは、矢田中瀬古墳群、古墳中期の矢田古墳群、古墳中期の前方後円墳の矢田高木森古墳等の古墳群が所在している。矢田高木森古墳をのぞいては、ほとんどが円墳である。西グループの古墳群が古墳前期･中期に造営が盛況であったのに対し、こちらでは古墳中期･後期に造営された古墳が主体となっている。

この地域で特筆すべき遺跡は、国指定の史跡となっている万行遺跡である。縄文時代から中世にかけて断続的に集落が営まれた複合遺跡であるが、古墳時代初頭になって大型建物群や方形区画が営まれている。破格の規模と柱筋を整然と揃えた高い規格性とをもつこの大型の掘立柱建物群は、同時代においては日本であまり類例が見られないものであり、造営集団の母体の詳細は未だ不明ながらも、当地の歴史を考える上で特に注目される。

番号	遺跡名	時代
02279	国分遺跡	
02079	八幡神社古墳群	古墳
02082	細口源田山遺跡	弥生、奈良平安、室町
02083	細口遺跡	古墳前期
02084	細口 B遺跡	中世
02085	細口古墳群	古墳
02087	国分火司神社古墳群	古墳
02088	国分尼塚古墳群	古墳前期
02089	国分尼塚遺跡	縄文、弥生
02091	国分高井 B遺跡	縄文～中世
02092	国分高井山古墳群	古墳
02093	国分高井山遺跡	弥生前期末、後期末
02097	国分岩屋山古墳群	古墳
02098	藤橋遺跡	弥生～中世
02105	小丸山城跡	中世
02106	小島遺跡	古墳、中世

番号	遺跡名	時代
02109	藤橋ゼニガミネ古墳	古墳
02294	小島西遺跡	縄文～中近世
02176	能登国分寺跡附建物群跡	奈良平安
02177	古府 ・国分遺跡	奈良平安
02180	古府廃寺	古代
02182	七尾城跡	近世
02188	七尾城跡シッケ地区	近世
02190	藤野遺跡	弥生、中世
02295	栄町遺跡	弥生～中世
02205	矢田遺跡	弥生 、古墳 、平安
02195	矢田中瀬古墳群	古墳
02196	矢田天満宮古墳	古墳
02200	矢田古墳群	古墳
02206	矢田高木森古墳	古墳
02210	万行赤岩山遺跡	縄文～古墳
02211	万行遺跡	縄文中期後葉～中近世

第２図　周辺の遺跡

南グループでは、縄文、弥生時代ともに遺跡は希薄である。国分遺跡南西に所在する院内勅使塚古墳は、六世紀後半頃より古代能登郡を治めていた能登臣氏の首長墓と推定されている。

能登国分寺は定額大興寺を転用したものであり、この大興寺は古墳時代末期に能登臣氏が建立したとみられている。国分周辺は能登国衙や能登郡衙が所在していたと推定される古代能登国の中心地域であり、古府・国分遺跡、千野林田遺跡等、奈良・平安の遺跡が集中している。国分遺跡から東へ約250m に所在する栄町遺跡では、板塀で区画された掘立柱建物施設群が検出され、公的施設あるいは有力者の宅地の可能性が指摘されている。

西と東の各グループは古墳と集落が近接し、弥生時代から古代までの遺跡がたどれるが、南のグループは奈良・平安時代の遺跡が中心であり、それ以前の集落遺跡や古墳等の発見例は数少ないものである。首長墓を含む主要古墳の造営期、拠点的な集落遺跡の形成、そして古代における能登国衙推定地を総合すると、当地の政治的拠点が、古墳時代前期から古墳の造営があった西グループから、前期古墳時代後期には東グループへ、そして飛鳥時代には南グループへと移行したと推定される。

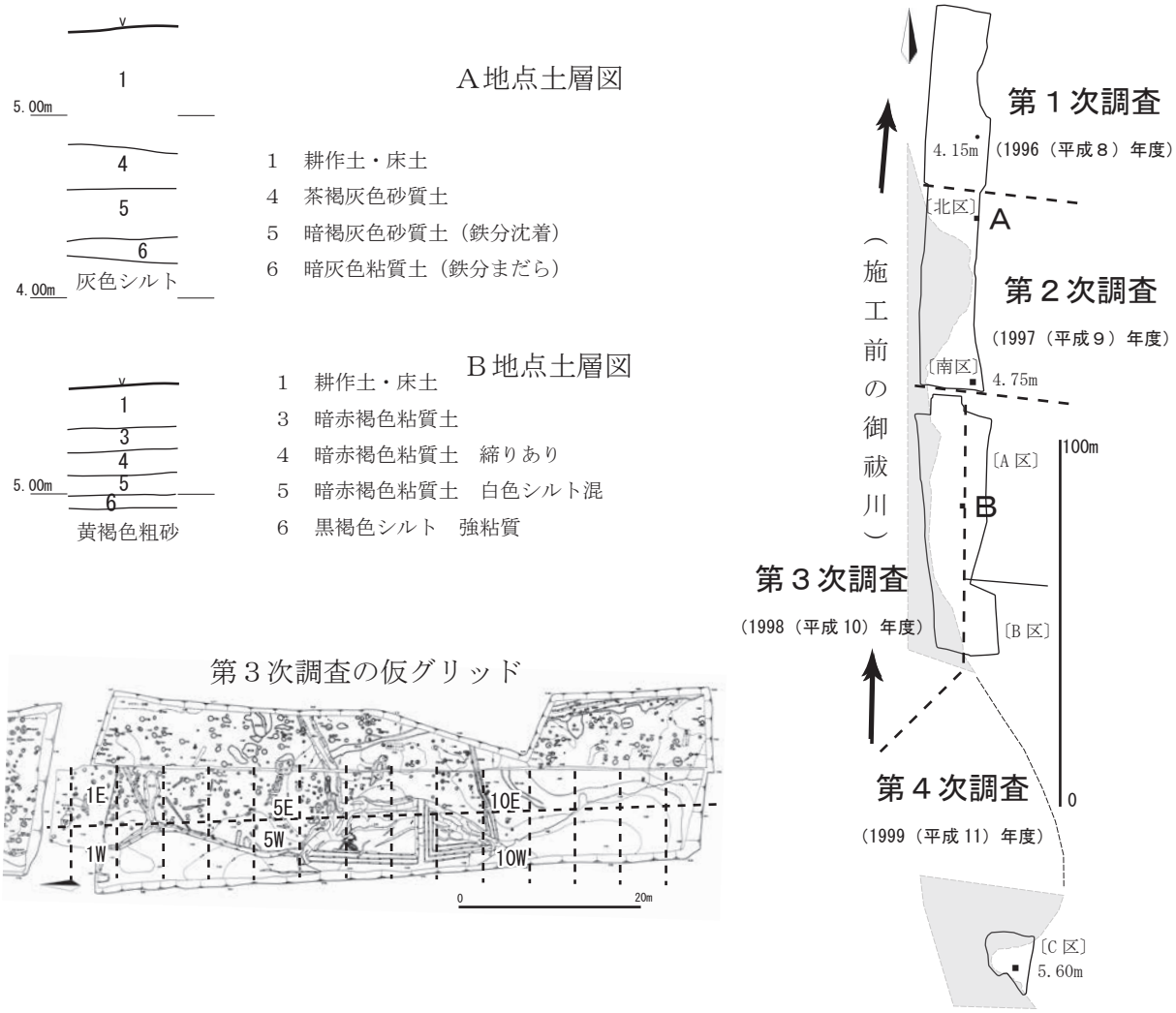
第3章　調 査 の 結 果

第1節　概　　要

調査箇所は御祓川右岸の河川改修工事にかかる範囲で、総延長約200ｍを調査した。実地の調査幅は平均的には20ｍ程度であるが、近代以降の御祓川河道の浸食により遺構面が消失している範囲がかなりあった。

一連の発掘調査では掘立柱建物18、土器集中２箇所をはじめとする遺構、土器類の他に少量の石製品、木製品、臼玉、鉄釘などの遺物が検出された。本書に掲載した土器の年代は弥生時代後期と古墳時代後期に集中しており、発掘調査で得られた遺物の時期別量比を反映したものとなっている。ただしこれは必ずしも見つかった遺構の年代別構成比を示すものではない点に留意する必要がある。

各年度の現地調査にあたって、地区割りを設けている場合がある。それらは、第２次調査の「北区」･「南区」、第３次調査の仮グリッド、第４次調査の「Ａ区」･「Ｂ区」･「Ｃ区」などであり、第３図に示す。

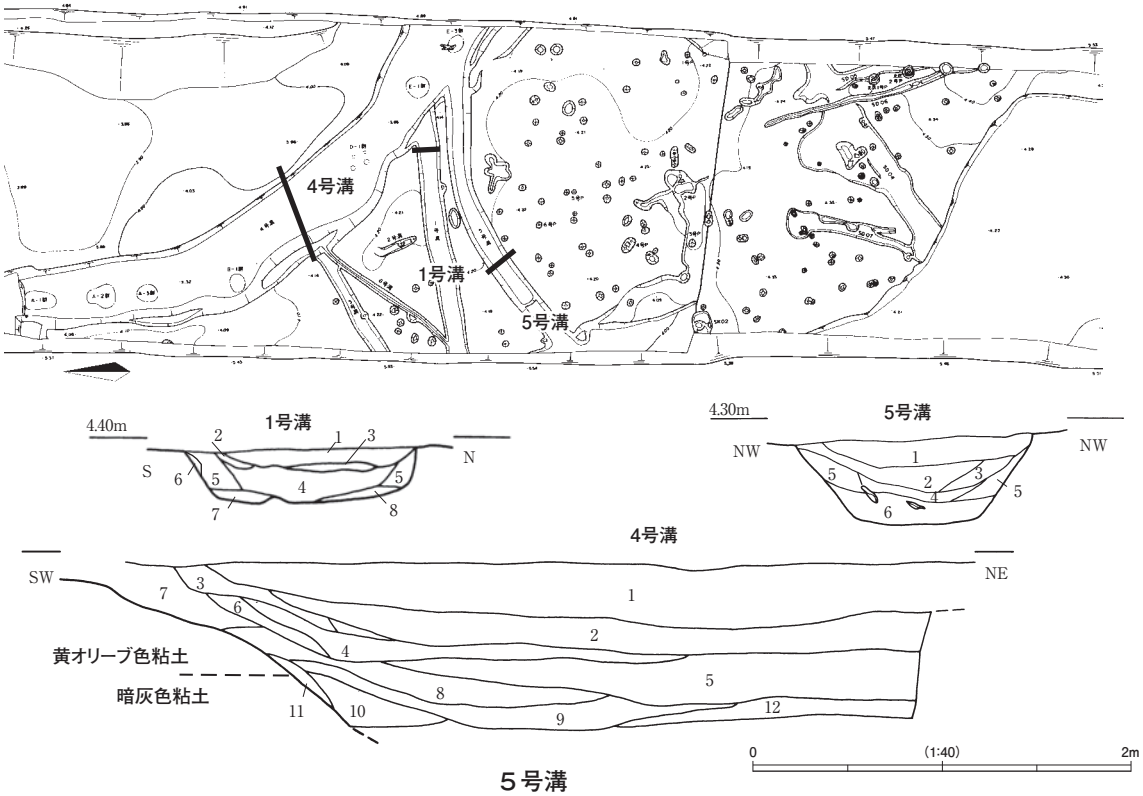


第３図　調査区の概要

調査地は事業着手前には水田であった。遺構検出面は耕作土下50～120cmの灰色砂～粘質土層であり、部分的には砂礫混じりの箇所もあった。また検出面の上位に旧地表土壌の遺存が認められた地点もある。検出面の標高は最も下流側で4.15m、中程の第２次調査区南端で4.75m、最も上流側の第４次調査Ｃ区で5.6m程度をそれぞれ測る。

第２節　第１次調査の遺構と遺物

第１次調査では、調査区北東側が古墳時代以降の旧流路であり遺構は検出されず、南西寄りの範囲で遺構を確認した。検出された遺構としては、溝状遺構７条とピット等がある。出土遺物の量はパンケース30箱余りであり、４号溝出土の土器がその９割以上を占める。



１号溝
1　茶褐色砂層　（鉄分沈着多）
2　明黄灰オリーブ色粘質土層
3　明茶褐色砂質土層
4　灰オリーブ粘質土層
5　明黄灰色粘質土層
（鉄分沈着少、全体的に地山土混入）
6　明灰オリーブ粘質土層
7　濁黄オリーブ粘質土層　（地山土混入）
8　灰オリーブ色砂層　（粗い粒子）

５号溝
1　茶褐色砂質土層　（締まり強い、鉄分沈着多）
2　濁灰オリーブ色砂層
（下半に地山の崩落土含む　場所により量のバラツキあり）
3　濁明黄灰色粘質土層　（地山土の流れ込み）
4　灰褐色粘土層　（この間層に土器片が入り込む）
5　暗茶褐色粘質土層　（強粘で１層に近い粘土層）
6　濁黄オリーブ色粘土層
（全体的に地山土の混入多く短期間に堆積している）

４号溝
1　茶褐色粘土層
（締まり強く砂粒を少量含む、鉄分の沈着多く土器片を含む）
2　明灰褐色粘土層　（粘性強く、砂粒と土器の混入少ない）
3　暗褐色粘土層　（炭粒と土器片の混入が多い）
4　淡灰褐色粘土層　（少量の炭粒を含む、鉄分の沈着が弱い）
5　明灰色粘土層　（混入物が少なく単一の粘土層）
6　暗茶褐色砂質土層　（土器片と炭化物を含む）
7　濁茶褐色粘質土層　（地山の風化土と砂粒を全体的に含む）
8　濁灰色粘土層
（炭粒と灰を全体に含み、大型の土器片が出土）
9　灰色粘土層
（地山の青灰粘土を全体に含む、炭化物は少ないが灰を含む）
10　暗灰色粘土層　（締まり強く炭粒と木片を含む）
11　濁黄オリーブ灰色粘土層　（地山の崩壊土か）
８・９層から土器大量出土

第４図　第１次調査遺構図１

第５図　第１次調査遺構垂直写真

１号溝　調査区を東西方向に直線的に横断する溝。幅 120cm、深さ 40cm 程度を測る。検出区間の西端付近で６号溝を切り込み、東側は４号溝によって切り込まれる。遺物は出土していない。

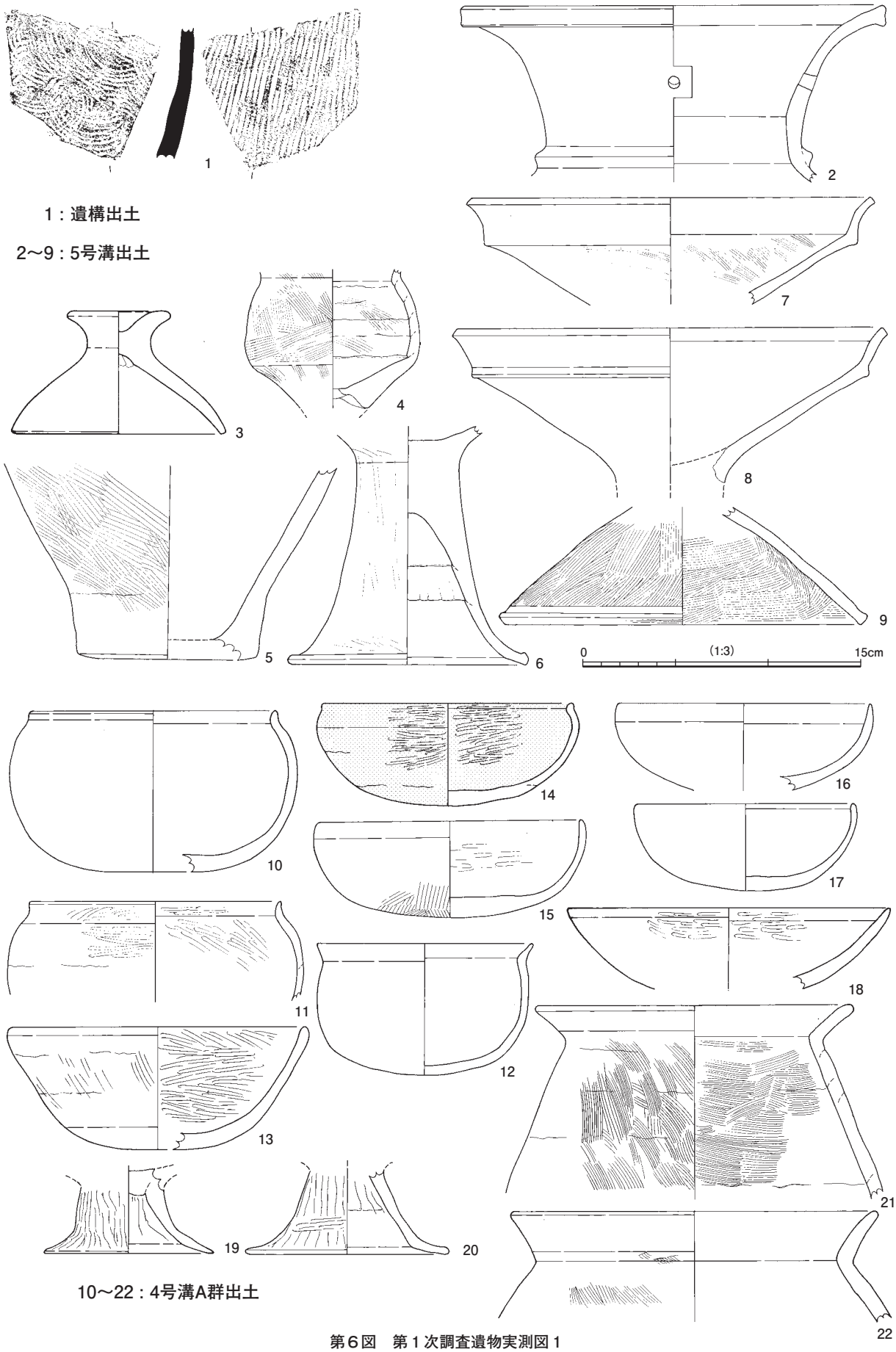
２号溝　南東－北西方向の細長い土坑状の落ち込みで、長さ 200cm、幅 40cm、深さ 5cm 程度を測る。溝底で検出面からの深さ 15cm 前後のピット２基を検出したがこの遺構に伴うものかどうかは不明。溝の北端は東に屈曲するように観察されている。埋土からは、図化できなかったが、古墳時代後期の土師器片が出土している。

３号溝　調査区を北東－南西方向に直線的に横断する溝。幅 70cm、深さ 10cm 程度を測る。遺物は出土していない。なお、４号溝の検出面ではこの溝の延長部は確認できなかった。

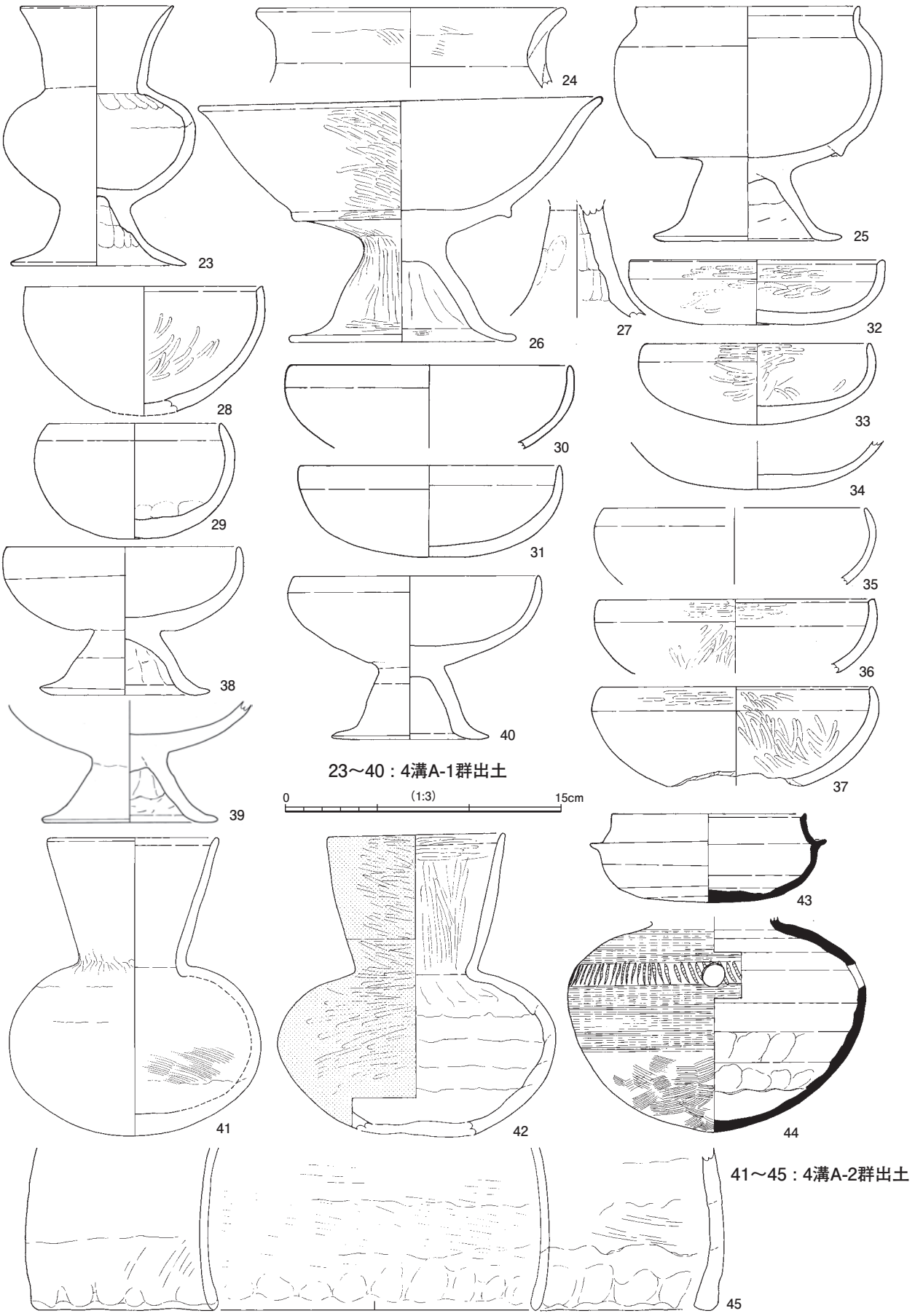
４号溝　南西方向に膨らみながら調査区を南東－北西方向に斜断する、旧河道への落ち込み部分である。深さ 110cm 以上を測る。岸寄りの検出面からの深さ 60 ～ 80cm 付近で古墳時代後期の土器類（10 ～ 227）が大量に出土した。土器類には完形、あるいはそれに近い状態で廃棄されたものが多く、焼成後の穿孔や打ち欠きが認められるものもあった。取り上げは平面的な纏まり毎にＡ～Ｆ群とし、群内をさらに小分けして行った（第４図上）。落ち込みからは石製品 (232~234・236~238)、木製品 (239・240) の出土もあった。D-1 群中、横位で潰れた状況で発見された土師器甕 180 の内部及び至近から滑石製臼玉 15 点が検出された (241~255)。今回報告の一連の調査区から臼玉が発見されたのはこの箇所だけである。金沢市畝田・寺中遺跡の古墳時代中後期の集落跡から検出された 1000 点余りの臼玉資料群法量表に重ねてみると、本遺跡例はやや小型の資料がほとんどであるが、やや大型の品 (449) も１点含まれている（第６表）。

５号溝とピット群　５号溝は調査区南部を北膨みの弧を描きながら東西方向に横断する溝で、幅 130cm 深さ 40cm 程度を測る。弥生後期中頃の土器が出土している。土層断面図によれば埋土中位において弧の内側・南西方向からの基盤層質土の流入（土層断面の３層）が観察されている。流入した基盤層質土について内側に積み上げられた溝掘削土と解すれば、遺構の規模・形状からみて竪穴系建物の外周溝であることも考えられる。しかし、第２次調査区との合成図においても外周溝の対辺が不明なこともあって建物内部の柱組等について明確に示すことができない。ピット群について平面図を提示し（第 21 図）検討に供したい。なお遺構名が付されたピットからはそれぞれ少量の土器片が出土している。２号Ｐ出土の採拓・図化された須恵器甕片 (1) 以外は全て土師質である。これらのピット群は古墳時代後期以前に属するものと考えられる。

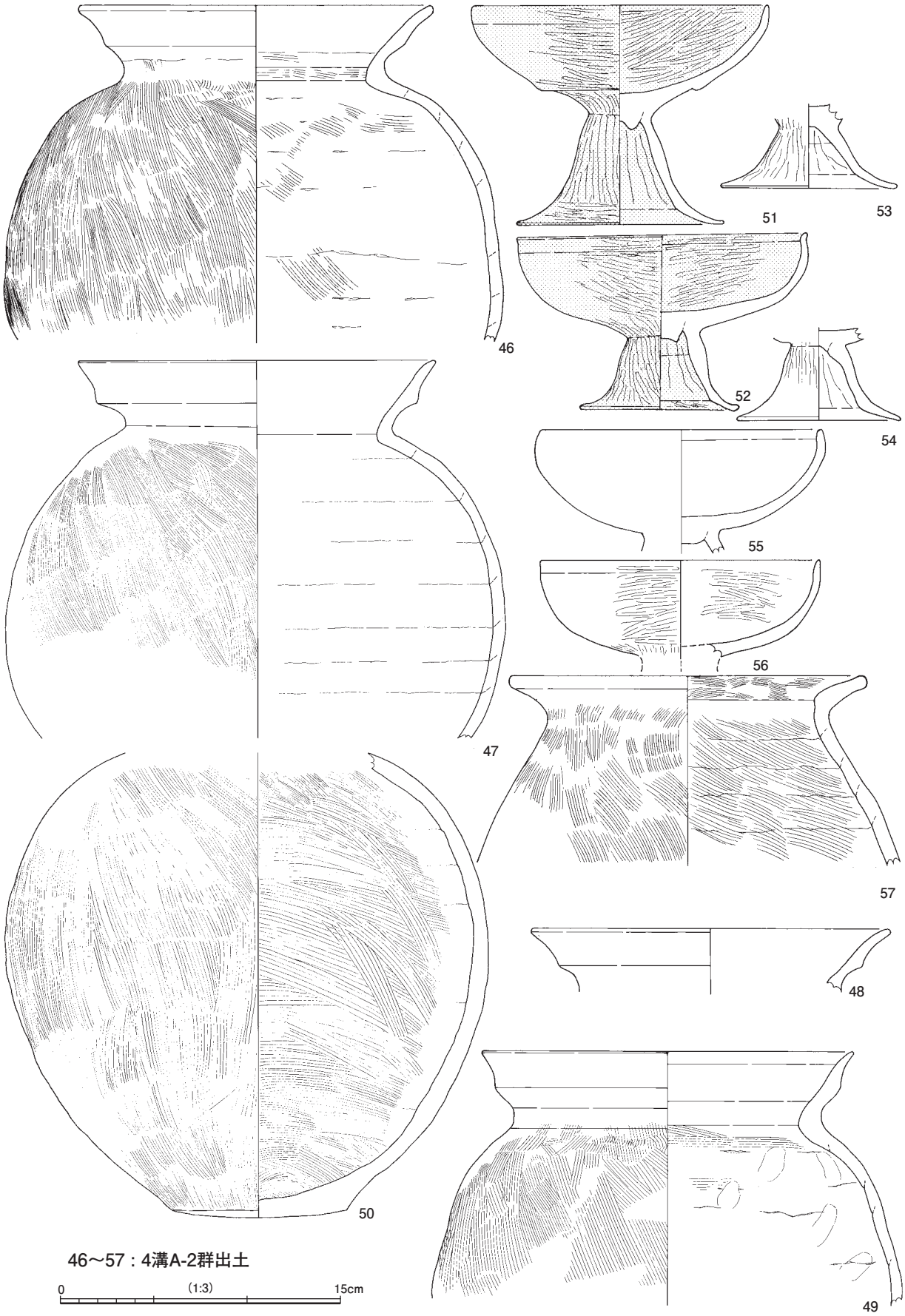
６号溝　幅 30cm、深さ 20cm を測る狭深形の溝。３号溝との先後は明らかではないが、１号溝及び４号溝に切り込まれる。調査者は弥生時代後期の遺構と判断している。



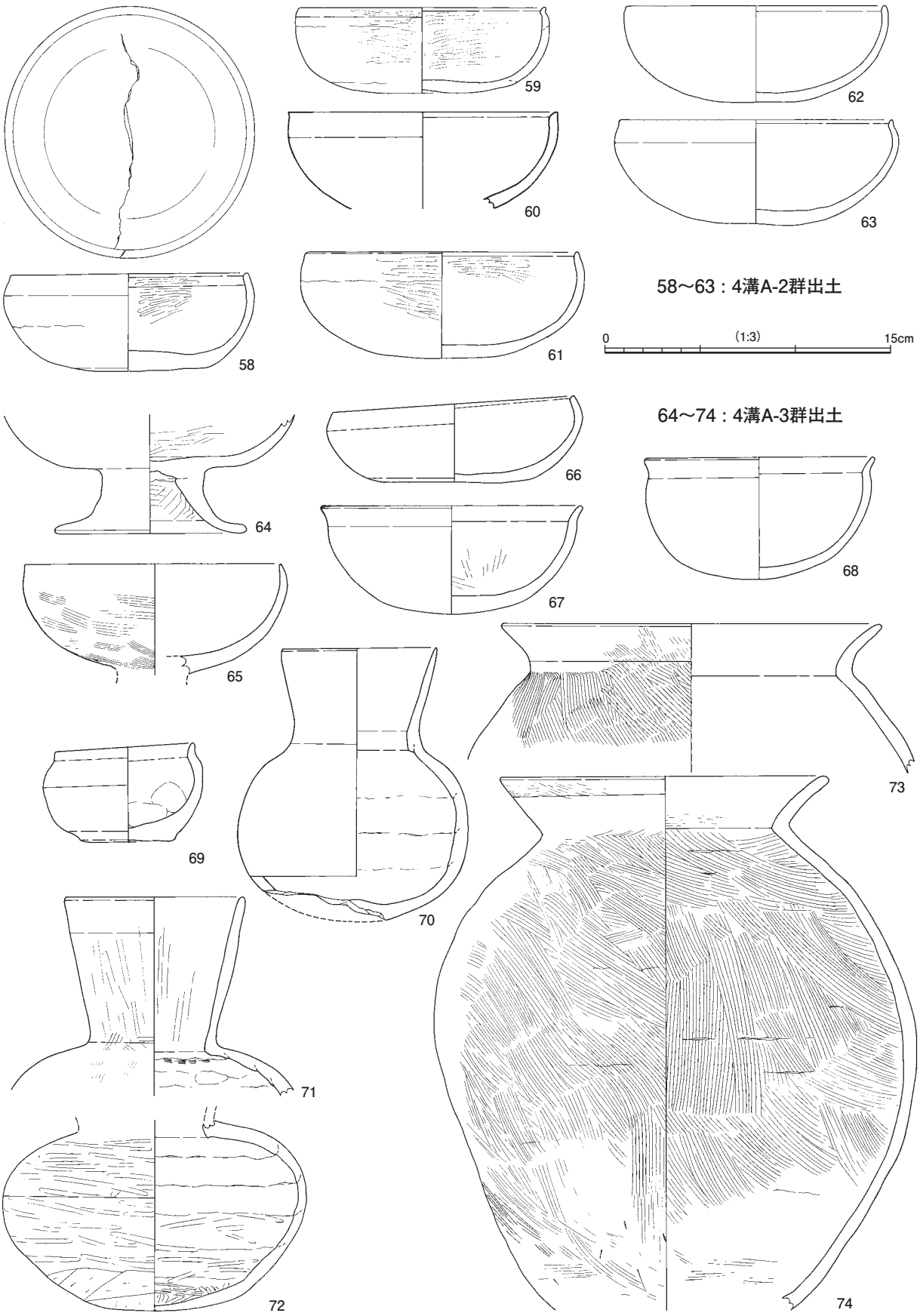
第６図　第１次調査遺物実測図１



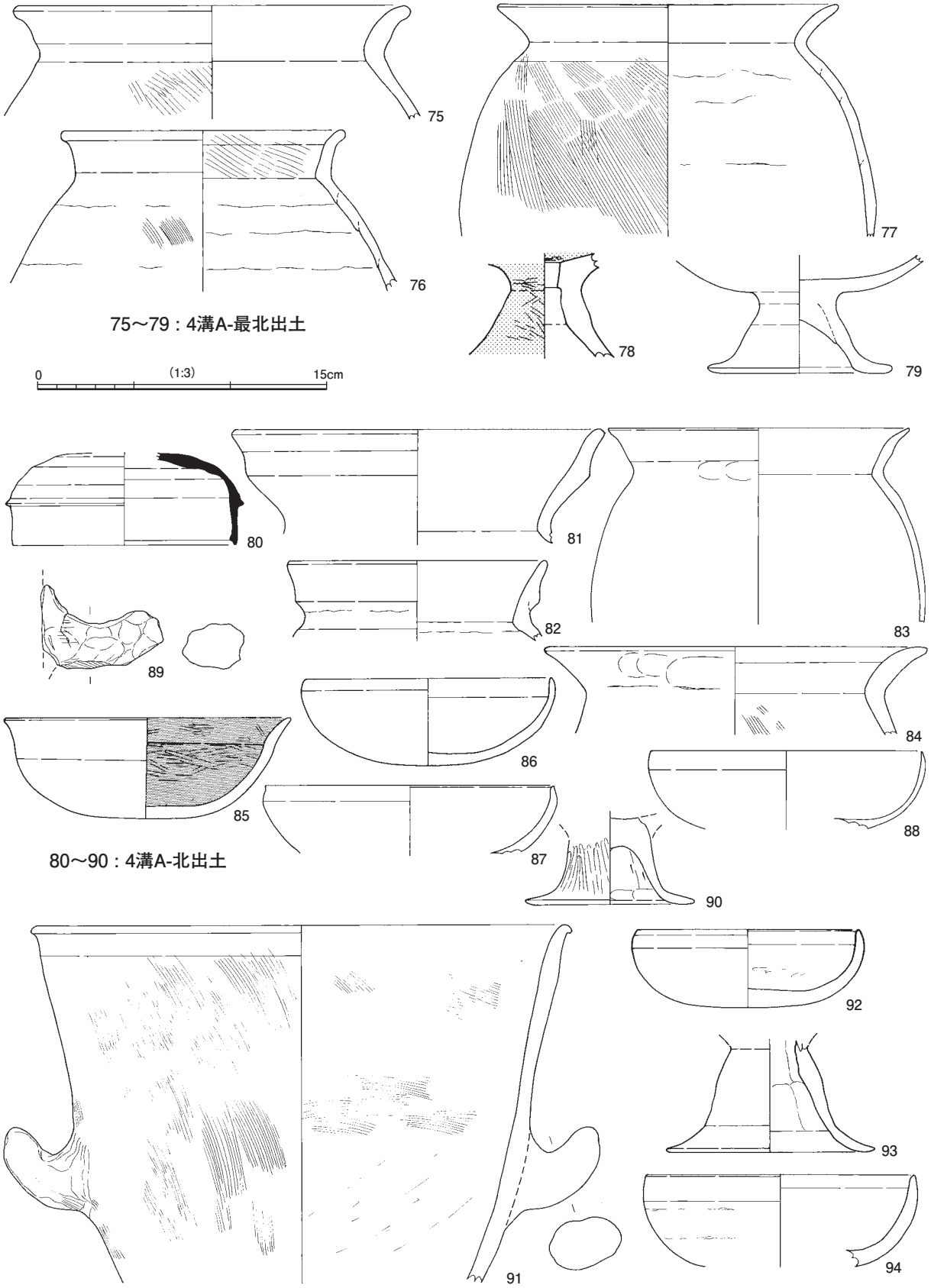
第７図　第１次調査遺物実測図２



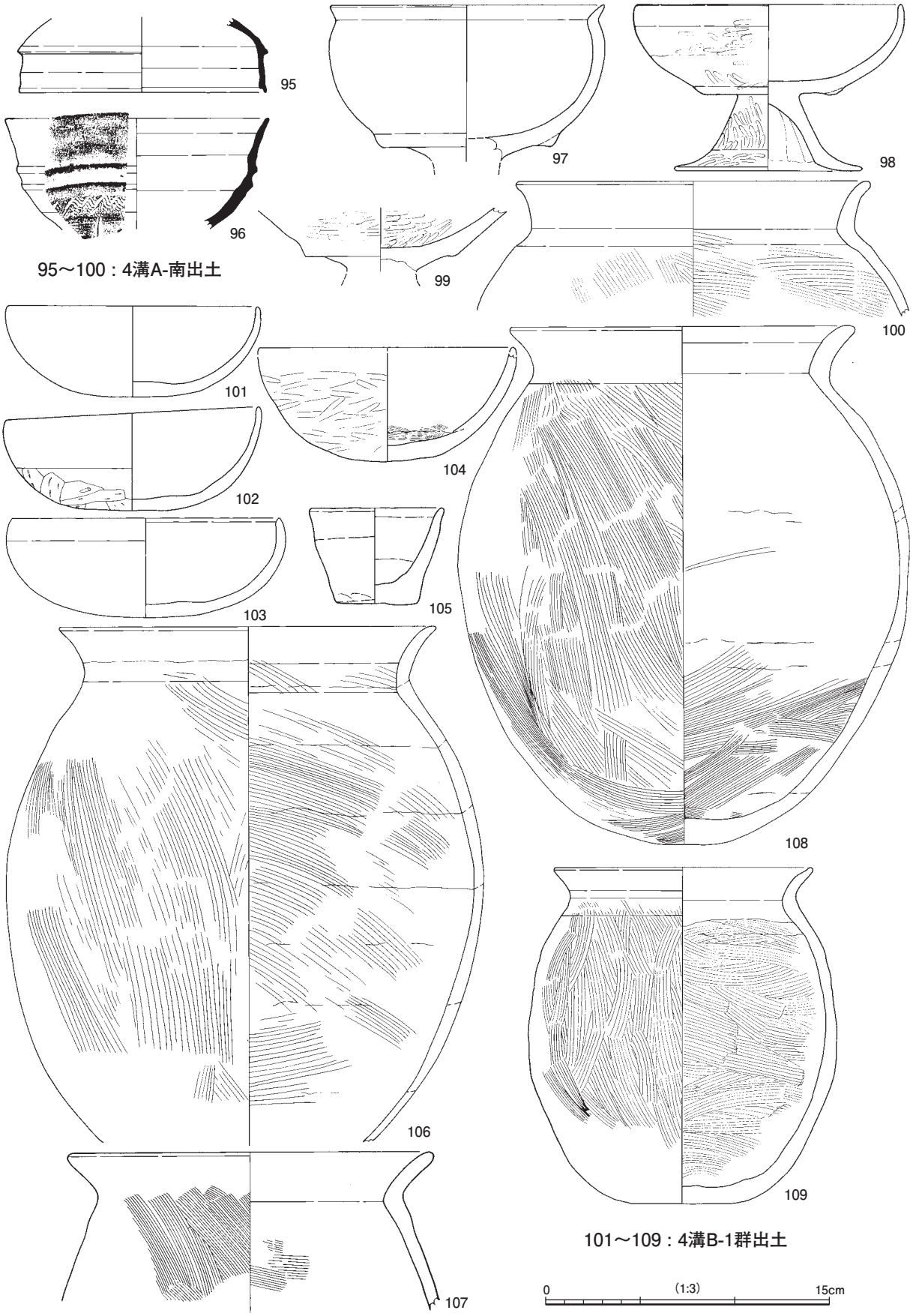
第８図　第１次調査遺物実測図３



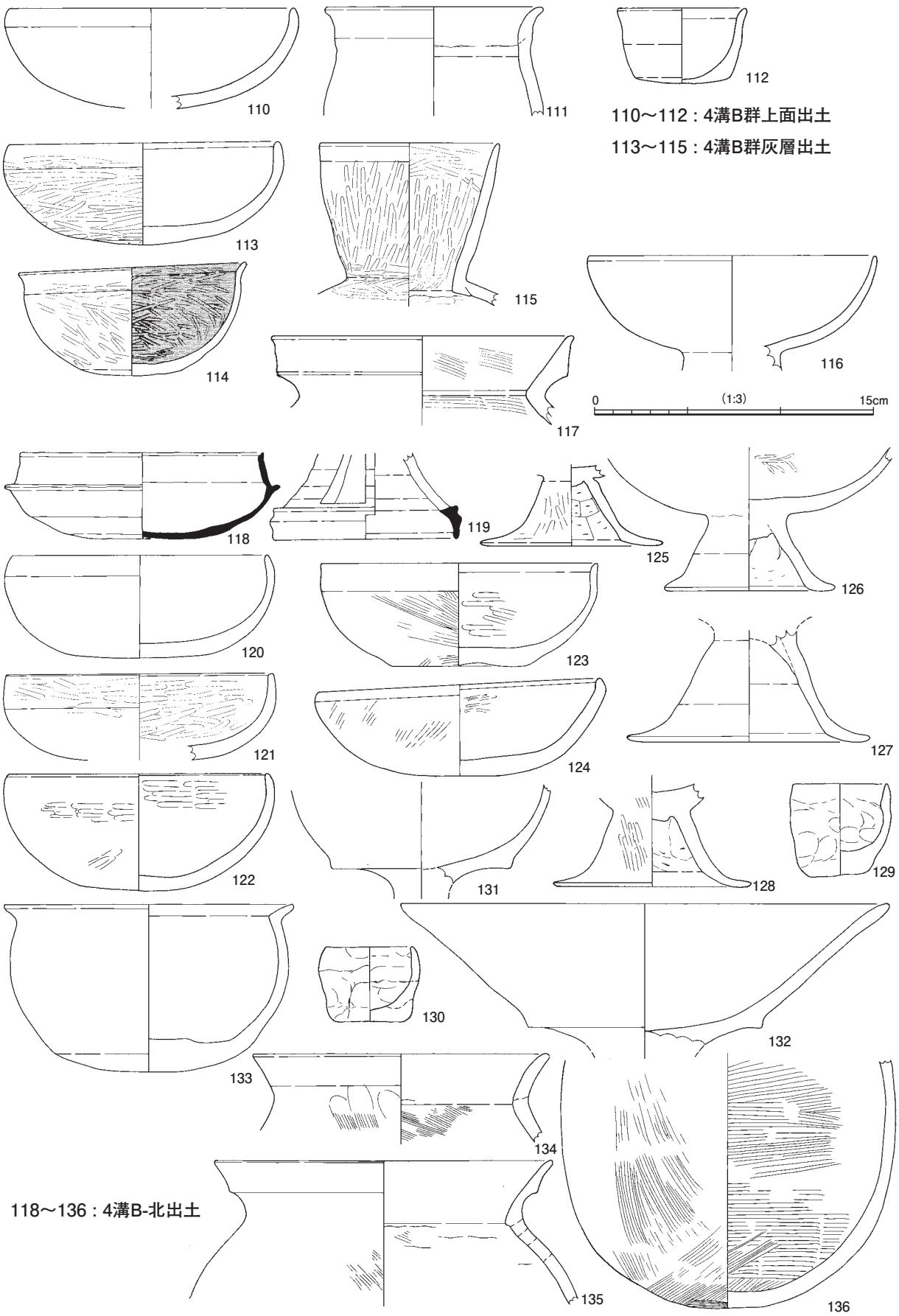
第９図　第１次調査遺物実測図４



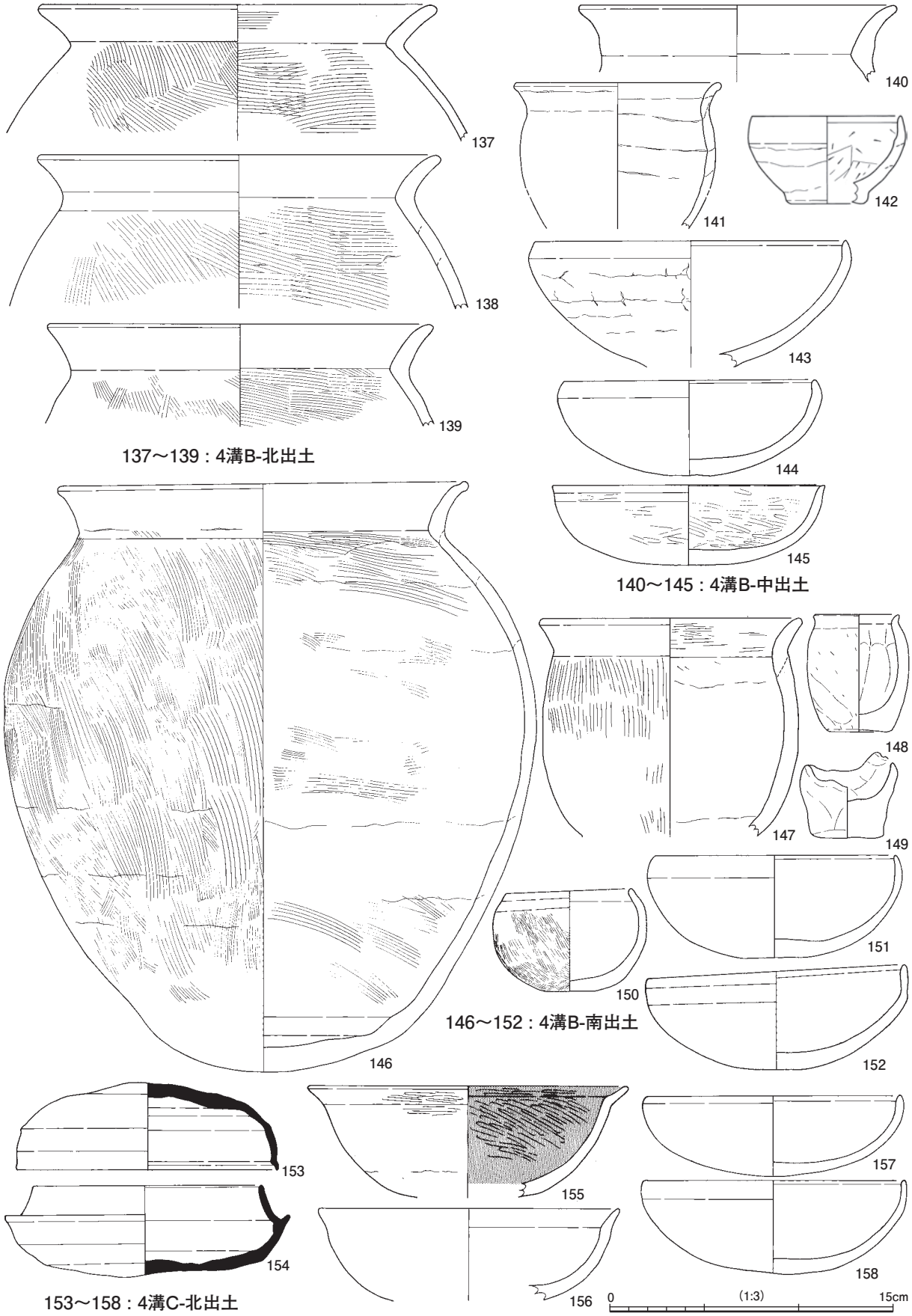
第 10 図　第１次調査遺物実測図５



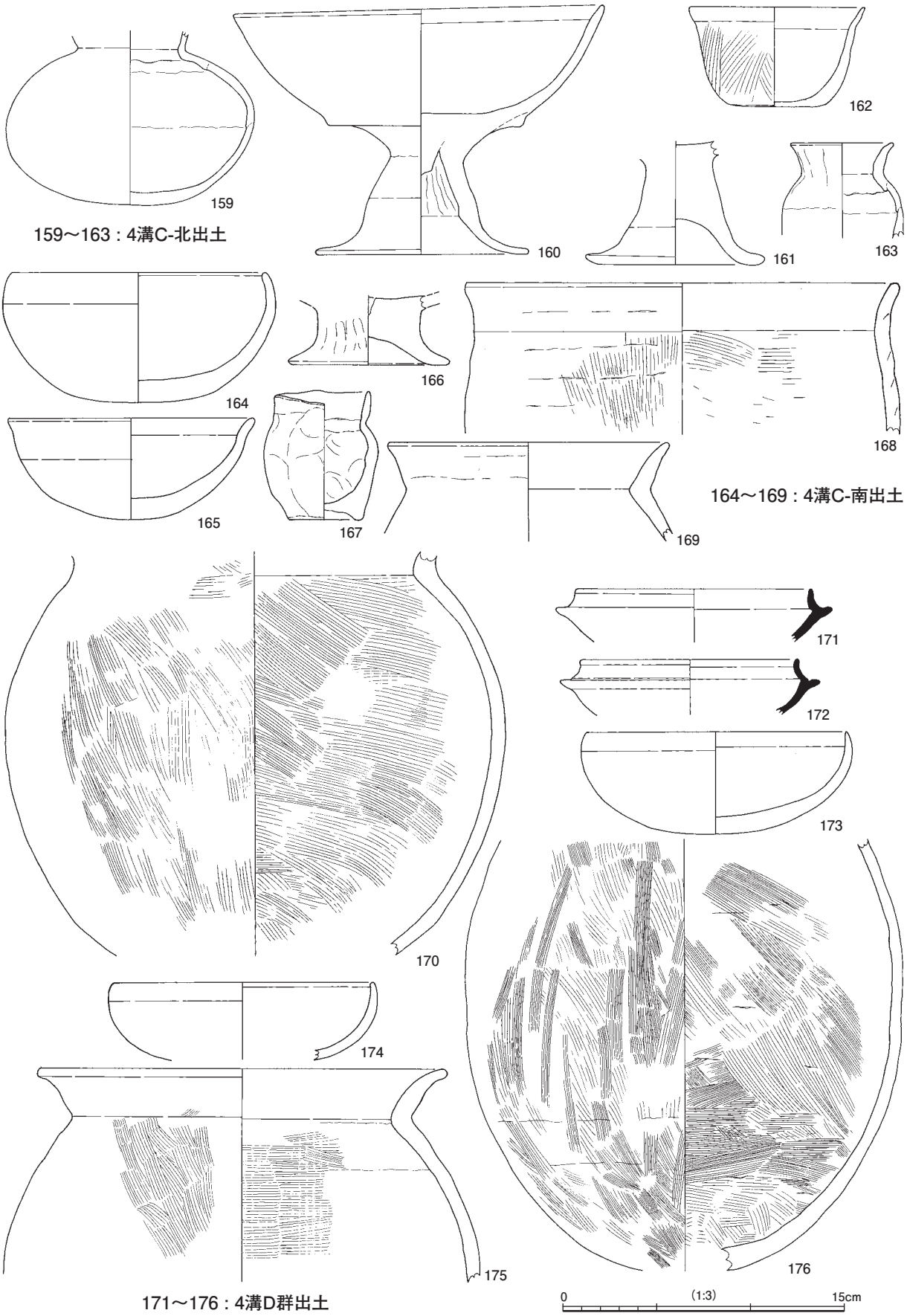
第 11 図　第１次調査遺物実測図６



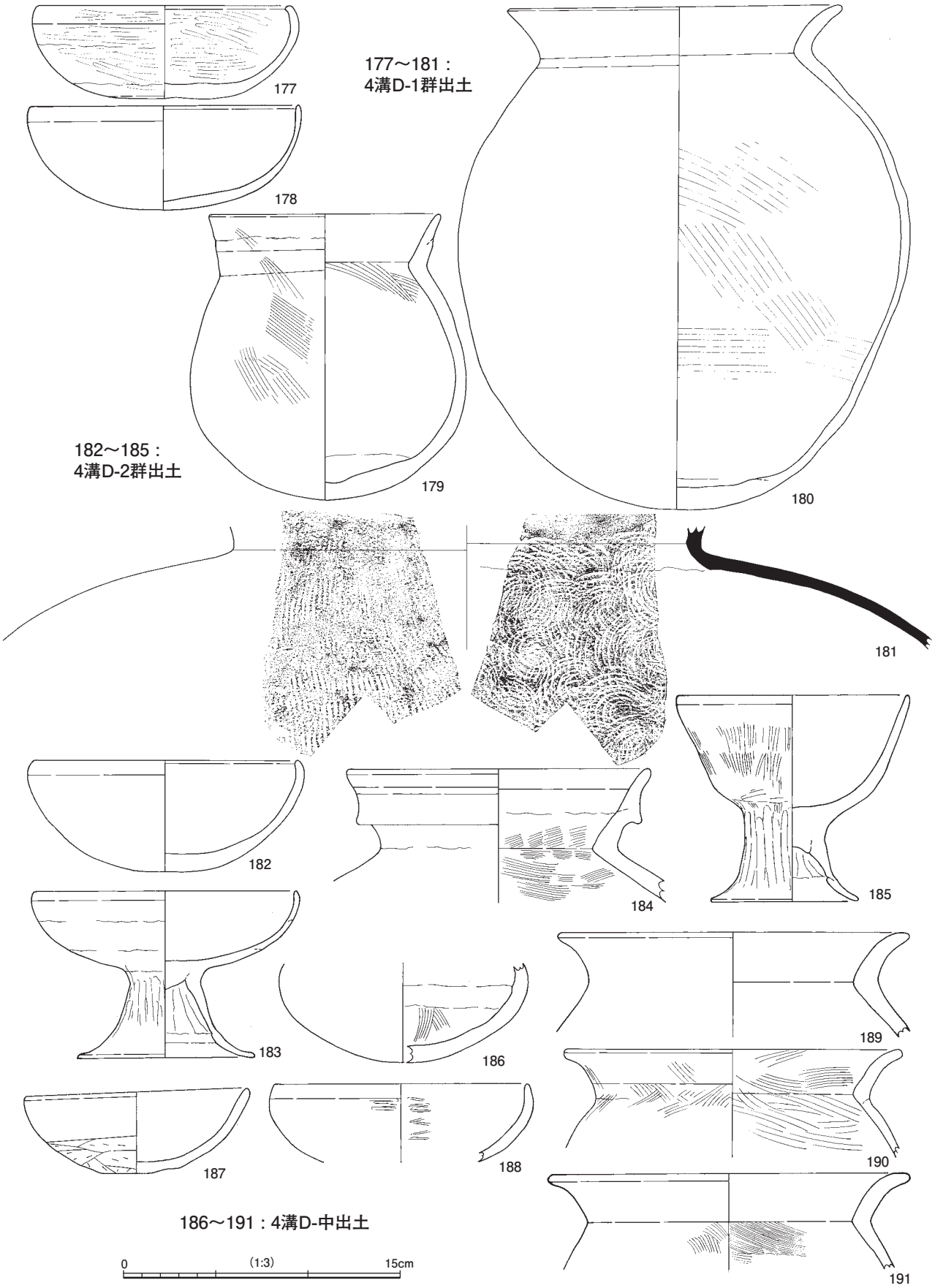
第 12 図　第 1 次調査遺物実測図７



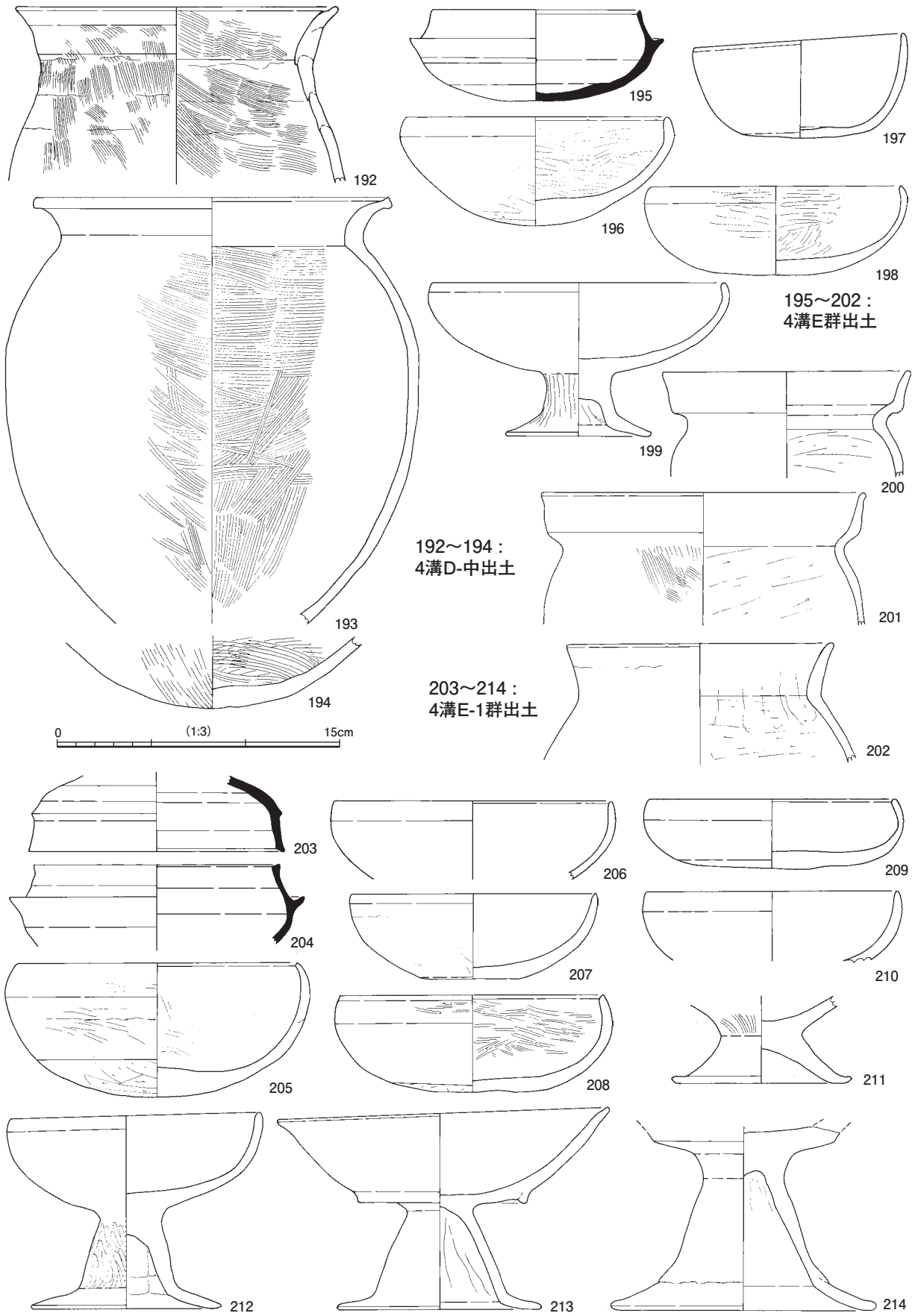
第 13 図　第１次調査遺物実測図８



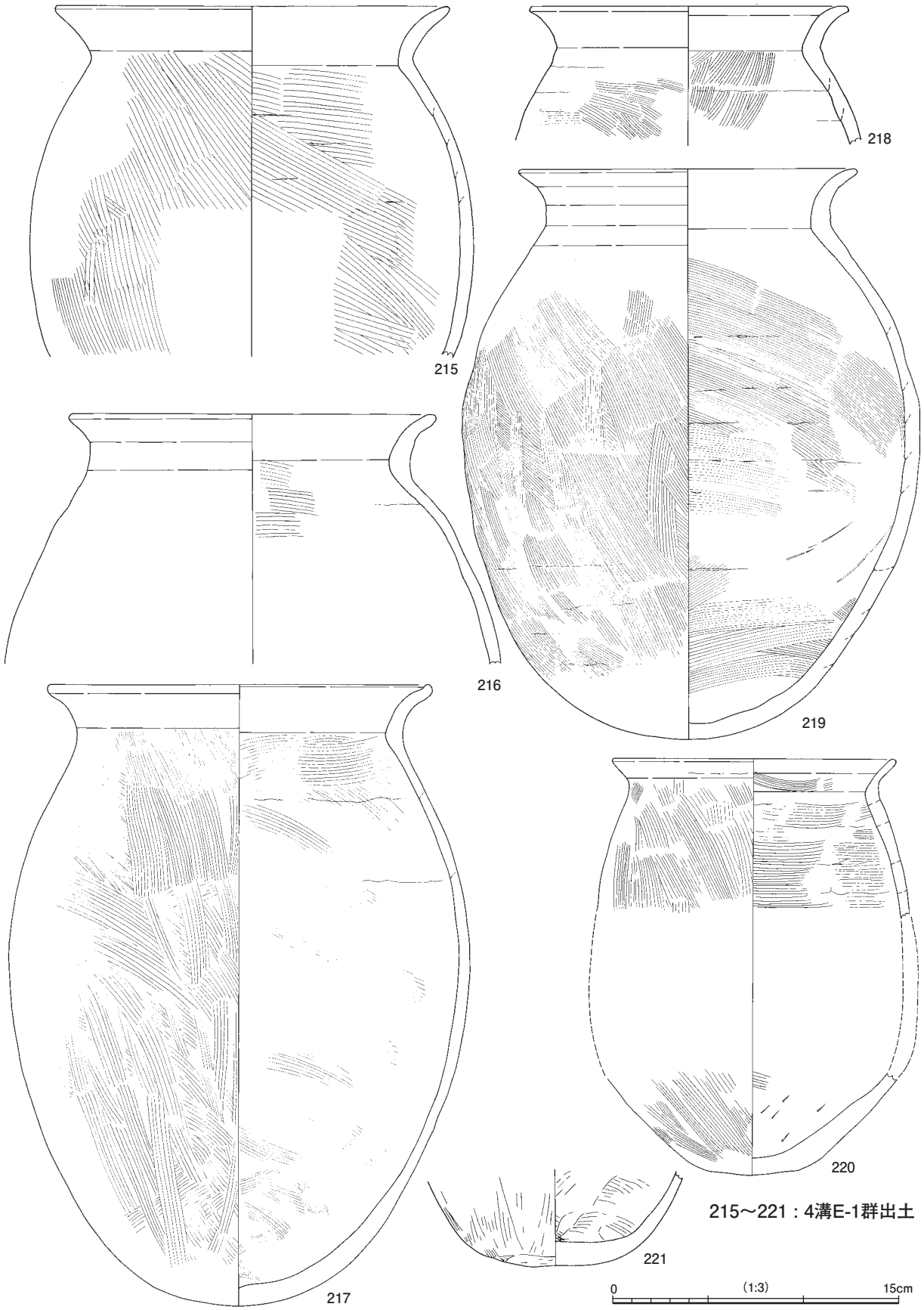
第 14 図　第１次調査遺物実測図９



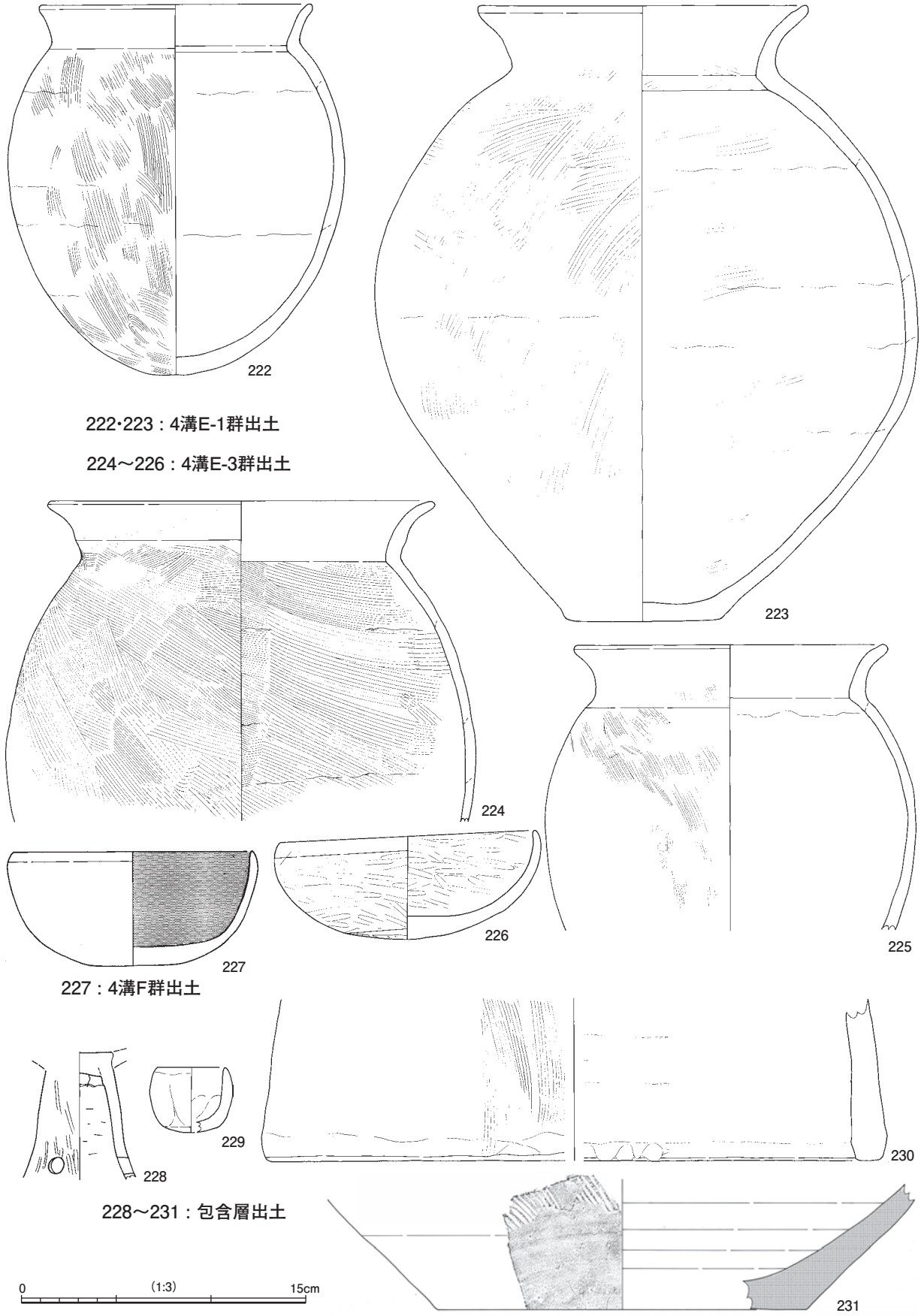
第 15 図　第 1 次調査遺物実測図 10



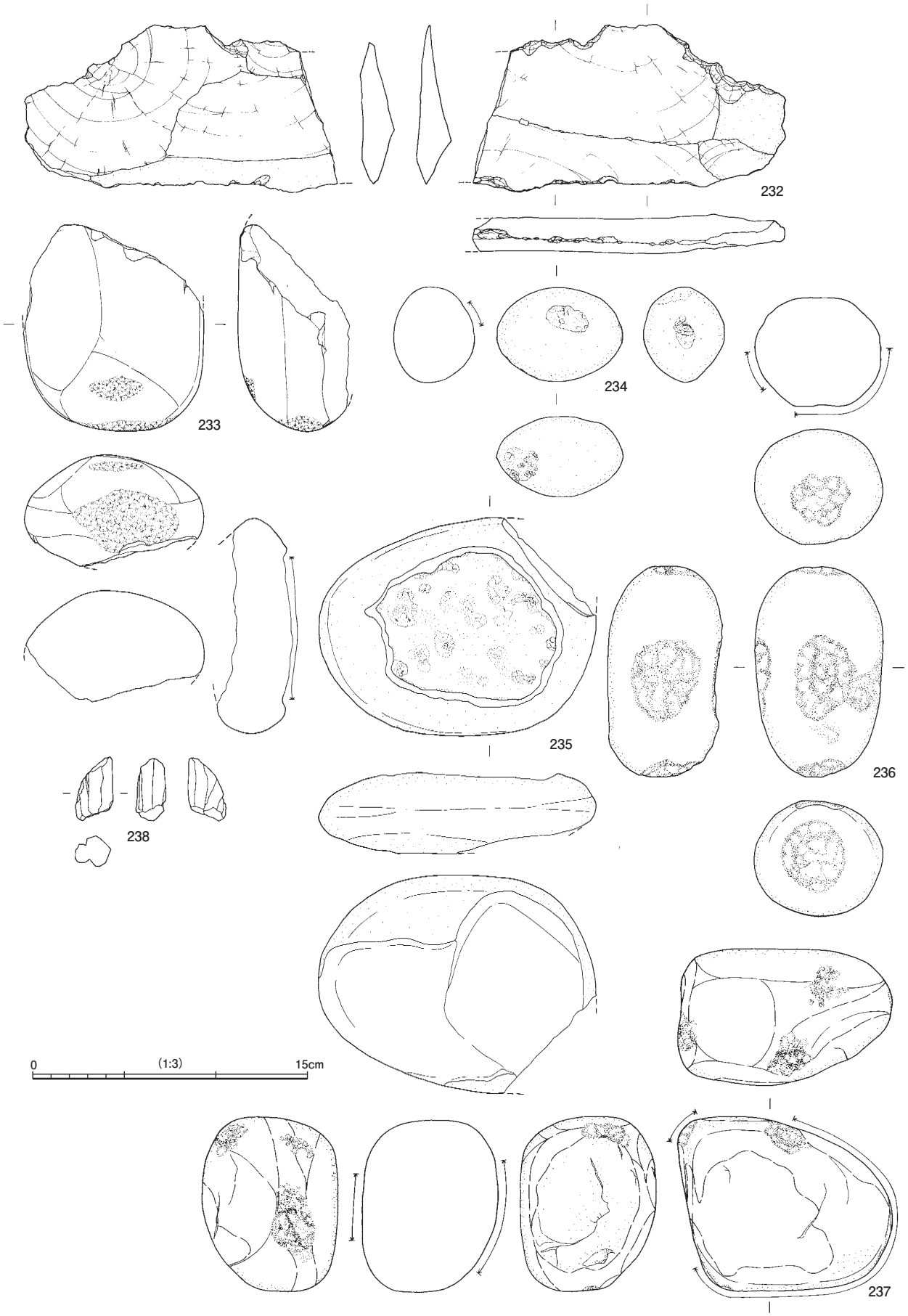
第 16 図　第 1 次調査遺物実測図 11



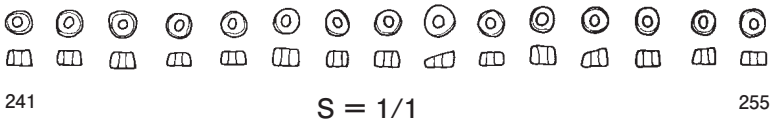
第 17 図　第 1 次調査遺物実測図 12



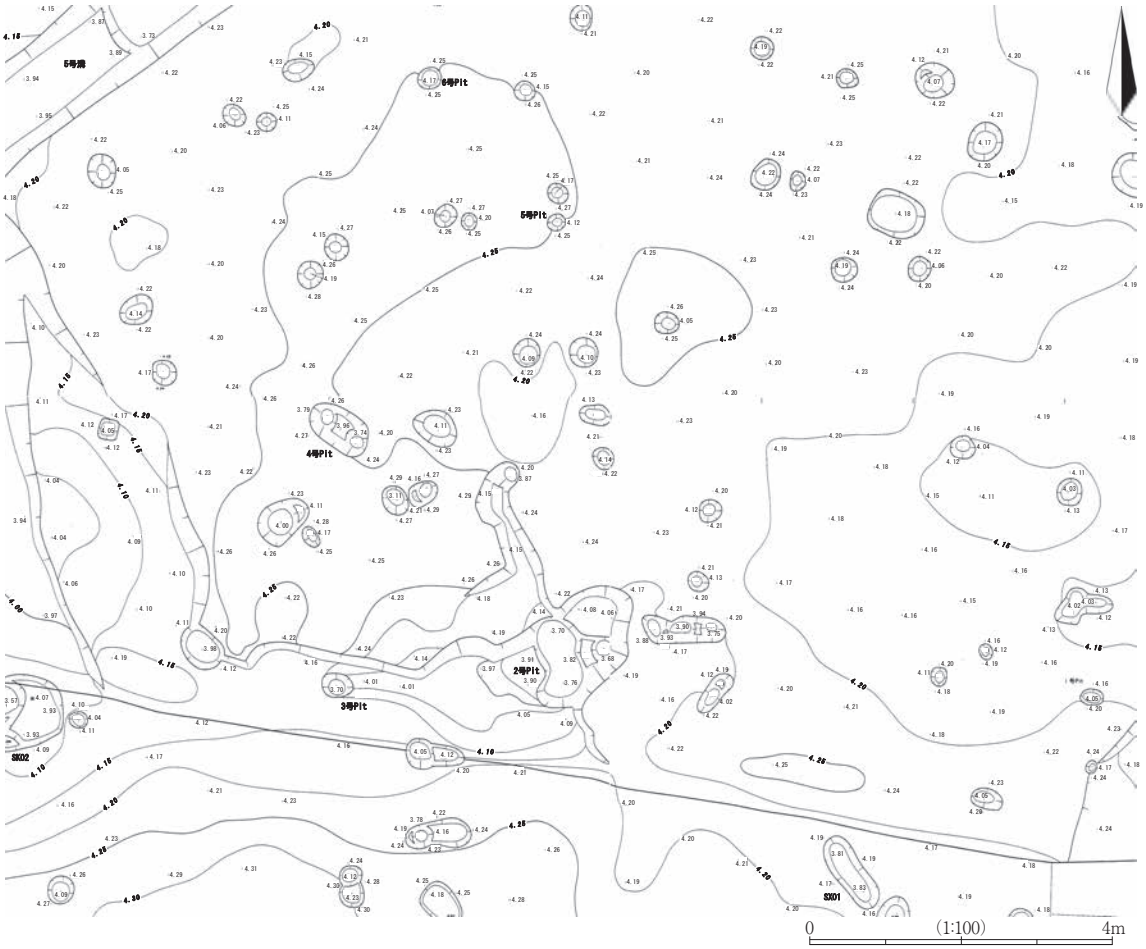
第 18 図　第 1 次調査遺物実測図 13



第 19 図　第 1 次調査遺物実測図 14



第 20 図　第１次調査遺物実測図 15



第 21 図　第１次調査遺構図 2

第３節　第２次調査の遺構と遺物

第２次調査では、調査区西側（現御祓川沿い）から調査区を分断するように蛇行した近代の御祓川流路により遺構面が消滅しており、調査区北側（北区）と南側（南区）で遺構を確認した。検出された遺構としては、掘立柱建物６棟、土坑２基、溝状遺構７条などがある。第１次調査で確認した大量の廃棄土器群が出土した古墳時代の旧河道は、第２次調査区内には流れ込んでいないことも確認された。そのため、出土遺物の量は、前年度とは一変して少なく（パンケース２箱分）、昨年度多く出土した完形に近い土器も、殆ど見られなかった。

第 22 図　第２次調査建物跡遺構図１

ＳＢ０１　南区で確認した、東西２間 (346cm) 以上、南北４間 (743cm) の規模で、直径 70cm の柱穴をもつ掘立柱建物である。長軸はＮ－ 19°－Ｅを指す。比較的大きな規模の建物であるが、西側を御祓川近代流路跡で浸蝕されており、全体の規模は不明である。柱穴出土の土器類のうち 301・303 を図化した。柱穴の大きさなどから比較的大きな建物であると思われ、古墳時代にこの付近に存在した集落において、何らかの役割を担う建物であったとも考えられる。

ＳＢ０２　南区東側で確認した南北３間 (751cm) とみられる柱穴列で、調査区外へ延びる掘立柱建物と想定される。長軸はＮ－ 13°－Ｗを指す。ＳＢ０２とは重複して検出しており、建て替えがあったと考えられる。柱穴と土坑ＳＫ０１との先後は不明。

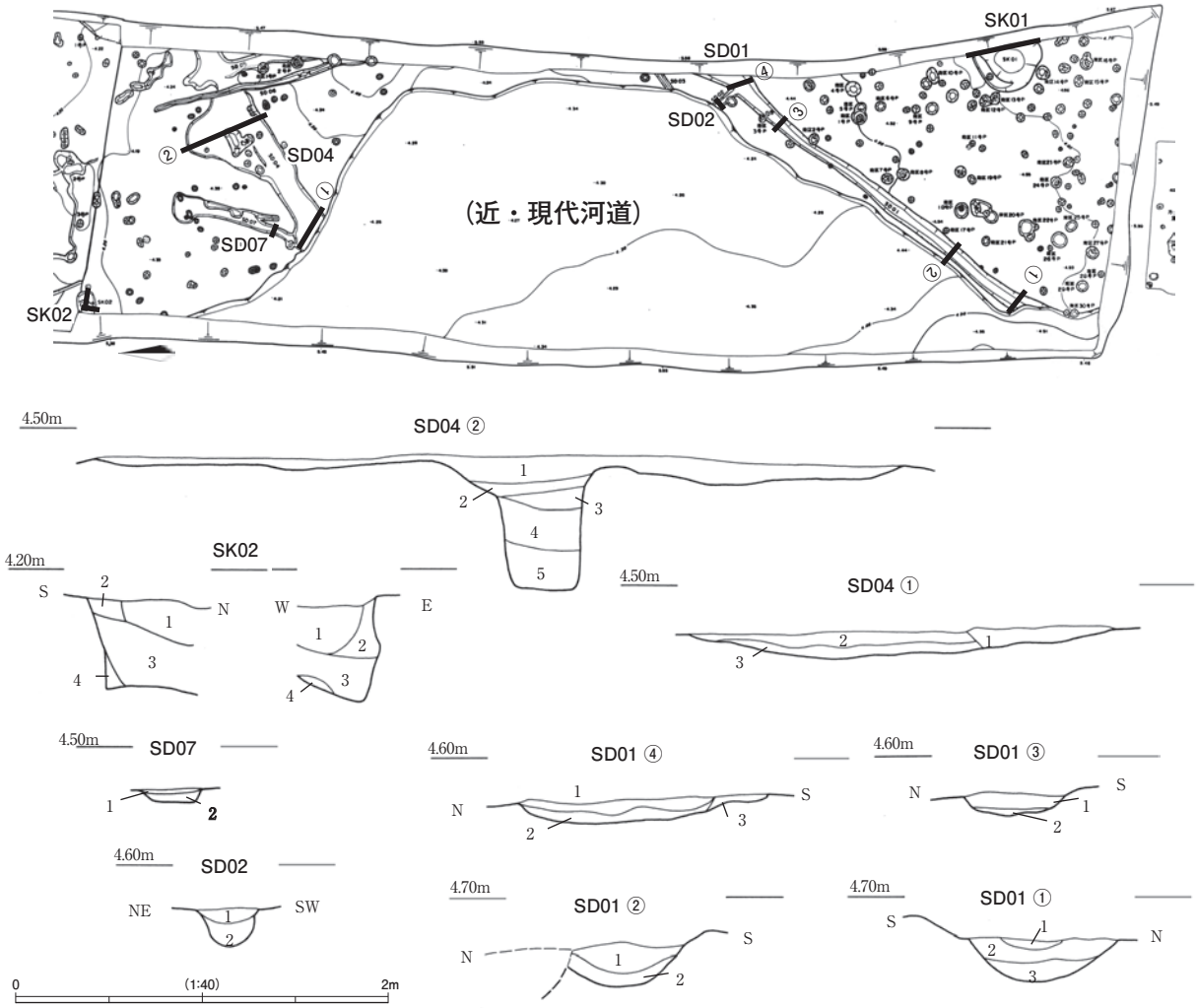
ＳＢ０３　南区東側で確認した東西１間 (228cm) 以上、南北２間 (457cm) の掘立柱建物で、ＳＢ０２と重複して検出している。長軸はＮ－ 13°－Ｗを指す。調査区外へ延びているため、全体の規模は不明である。柱穴と土坑ＳＫ０１との先後は不明。

ＳＢ０４　南区東側で確認した東西１間 (169cm) 以上、南北１間 (407cm) の掘立柱建物で、調査区外へ延びているため、全体の規模は不明である。長軸はＮ－ 8°－Ｗを指す。柱穴出土の土器・石器類のうち 304・309・314 を図化した。古墳時代後期か。

ＳＢ０５　北区東側で確認した東西２間 (255cm)（以上）、南北２間 (540cm) の総柱建物である。長軸はＮ－ 3°－Ｗを指す。南西側が御祓川旧流路による浸蝕、東側は調査区外へ遺構が延びている可能性があるため、全体の規模は不明である。ＳＢ０６と重複して検出している。遺物は出土していないが、中世の遺構と推定される。

第 23 図　第２次調査建物跡遺構図２

ＳＢ０６　北区東側で確認した南北３間 (586cm)（以上）の掘立柱建物である。長軸はＮ－5°－Ｗを指す。東側は調査区外へ遺構が延びているため、全体の規模は不明である。ＳＢ０５と重複して検出している。年代は不明。



SK02
1　濁明黄褐色土
（地山をベースに３のブロックが混じる、砂っぽい）
2　濁オリーブ灰色土
（オリーブ灰色の粘質土をベースに３のブロックが混じる）
3　黒灰色粘質土（強粘性）
4　濁黒灰色粘質土(3にオリーブ灰色粘質土が混じる）

SD04 ②
1　暗褐暗灰色砂質土
2　黄橙色・灰色粘質土　まだら
3　灰色粘質土
4　青灰色粘質土
5　暗灰色軟弱粘土

SD04 ①
1　暗灰色砂質土
　橙褐色土まだら
（鉄分沈着あり）
2　暗灰色粘質土
（鉄分沈着あり）
3　暗灰色粘質土

SD07
1　暗褐茶灰色砂質土
2　明灰青橙色砂質土
（地山土？）

SD01 ④
1　暗灰褐色砂質土
2　暗灰褐色砂質土　（1より粒子大、一部淡色）
3　褐灰色砂質土
底　明灰橙色粘質土

SD01 ③
１暗灰褐色砂質土　（鉄分沈着あり）
２暗灰褐色砂質土　　（1より濃い）

SD02
1　暗褐暗灰色砂質土
（鉄分沈着あり）
2　暗灰褐色粘質土
（一部砂利混入）

SD01 ②
1　暗灰褐色砂質土
（鉄分沈着あり）
2　暗灰褐色砂質土
（1より濃い）

SD01 ①
1　暗灰褐橙色砂質土　（鉄分沈着あり）
2　暗灰色砂質土　（鉄分沈着あり）
3　暗灰色粘質土

第 24 図　第２次調査遺構図１

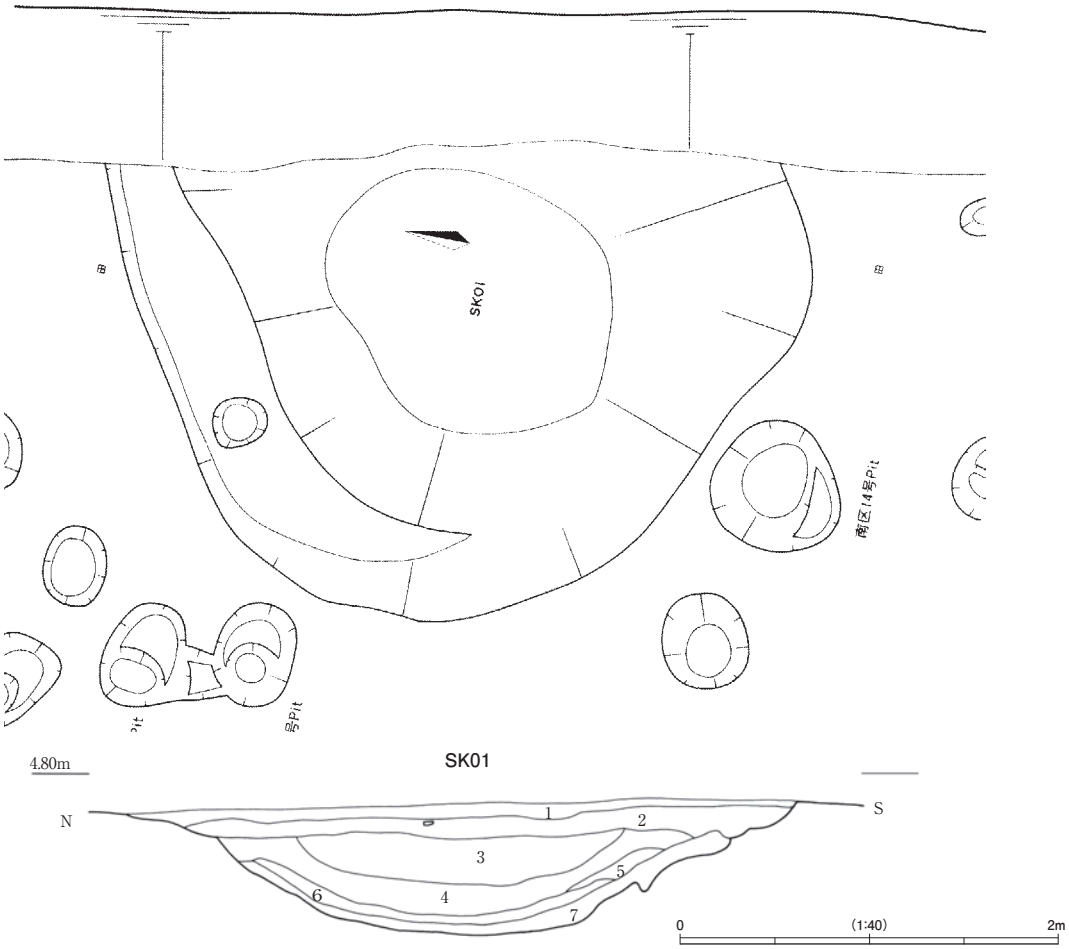
ＳＫ０１　南区で確認した、直径 3.5 m、深さ 70cm の大型土坑。遺構東側は調査区外へ延びている。完形に近い土師質の小壺 308、同甕 313 などが出土している。弥生後期か。

ＳＫ０２　北区北西隅で確認した、長軸約 1.2 m、短軸約１m、深さ約 50cm の楕円形の土坑。西側は調査区外へ延びている。古墳時代後期の土師器が出土している。

ＳＤ０１　南区で検出された北東－南西方向の溝である。溝の規模は、幅 50 ～ 100cm、深さ 25 ～ 35cm で、南西端は、近代の御祓川旧河道で削られており、北東端は調査区外へ延びている。須恵器片が出土している。

ＳＤ０２　南区で検出された北西－南東方向の溝で、ＳＤ０１と接続する遺構である。溝の規模は、幅 30 ～ 50cm、深さ 18cm で、北西側端は、近代の御祓川旧河道で削られており、1.4 m分のみ検出している。

ＳＤ０３　南区で検出された南西－北東方向の溝で、調査区外でＳＤ０１と接続する可能性のある遺構である。溝の規模は、幅 30cm、深さ６～９cm で、西側は、近代の御祓川旧河道で削られており、約１m分のみ検出している。



南区　SK01

1　暗灰褐色砂質土
2　灰茶褐色砂質土
3　暗灰茶褐色弱粘質土
4　暗灰暗褐色粘質土
5　暗灰暗褐色粘質土　（4 より茶褐色部分多）
6　明灰黄褐色粘質土　（地山と似ているが混色）
7　暗灰色粘質土
地山　明灰色黄色粘質土

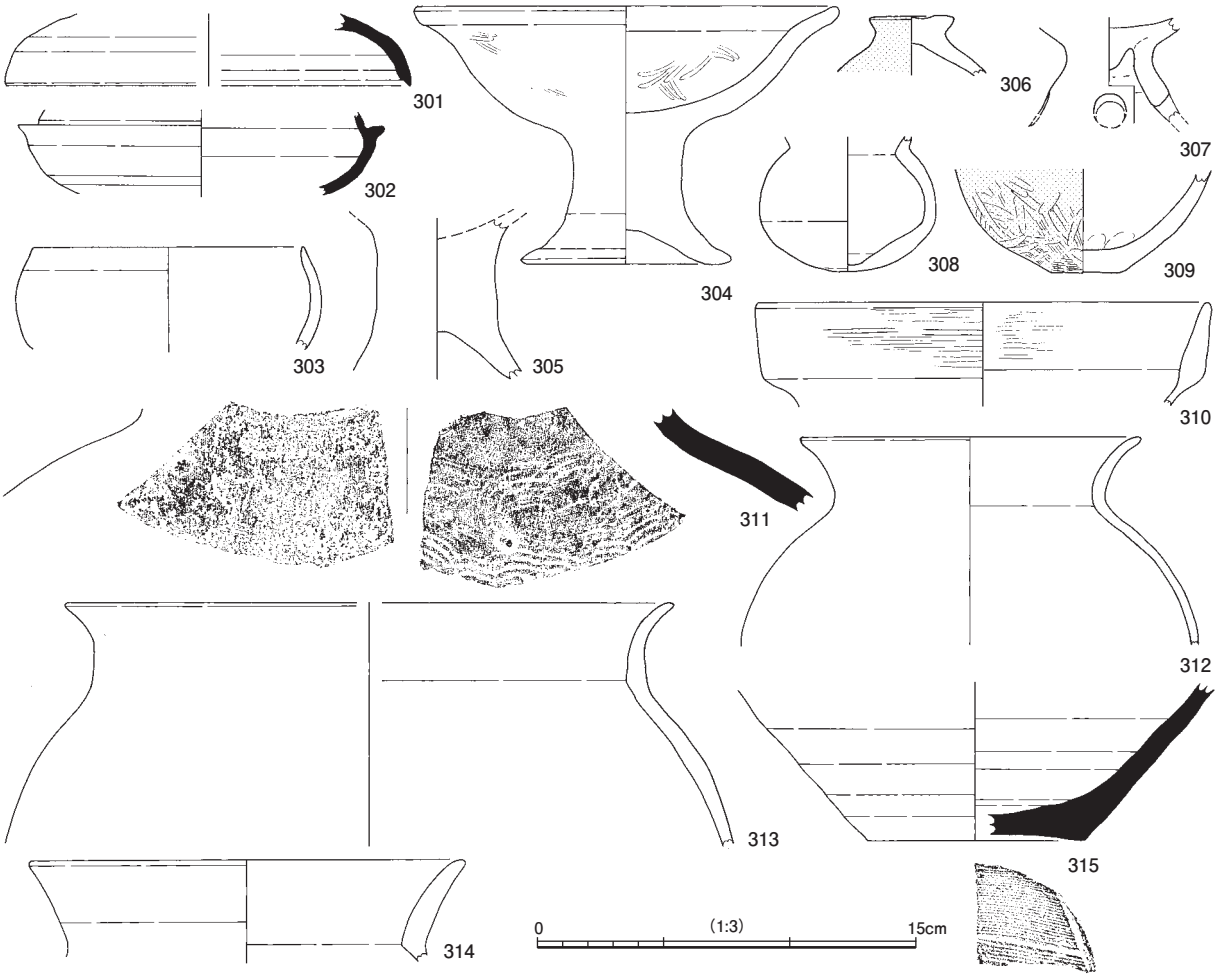
第 25 図　第２次調査遺構図２

ＳＤ０４　北区で検出された南西－北東方向の溝である。溝の規模は、幅約 1.4 m、深さ約 10cm で、南西側は、近代の御祓川旧河道で削られている。溝の東側では、幅が約 4.5 mにまで膨らんでいる箇所があり、別遺構とすれば第１次調査５号溝と関係するのかもしれない。出土遺物は、須恵器壺 311、珠洲焼鉢 315 など、ＳＤ０４は古代～中世の遺物が出土する中世の溝である。

ＳＤ０５　北区で検出された南北方向よりやや西へ軸を振る溝である。溝の規模は、幅約 60 ～ 90cm、深さ約６cm で、南側は調査区外へ延び、北側はＳＤ０４と接続している。出土遺物は、高坏脚部 305 の他、未実測であるが須恵器坏（９世紀頃）が出土している。ＳＤ０４と接続していることを重視すれば、古代の溝というよりは中世の溝とするべきか。

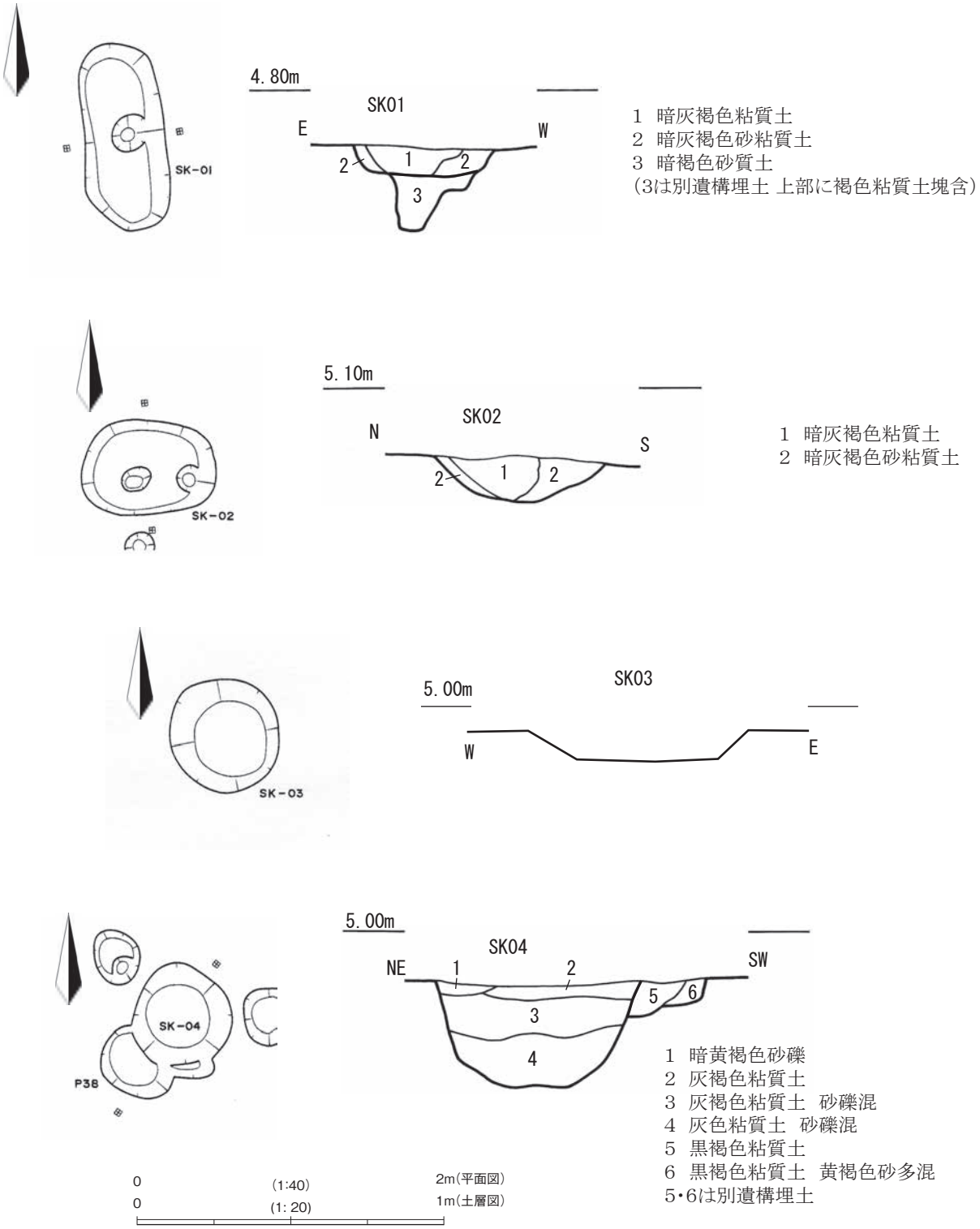
ＳＤ０６　北区で検出された南北方向よりやや西へ軸を振る溝である。溝の規模は、幅 18 ～ 40cm、深さ約５～ 20cm の比較的幅の狭い溝である。ＳＤ０４と切り合い関係があり、ＳＤ０６の方が新しい。

ＳＤ０７　北区で検出された南北方向よりやや東へ軸を振る溝である。溝の規模は、幅 35 ～ 100cm、深さ約３～７cm である。ＳＤ０４と切り合い関係があり、ＳＤ０７の方が新しい。

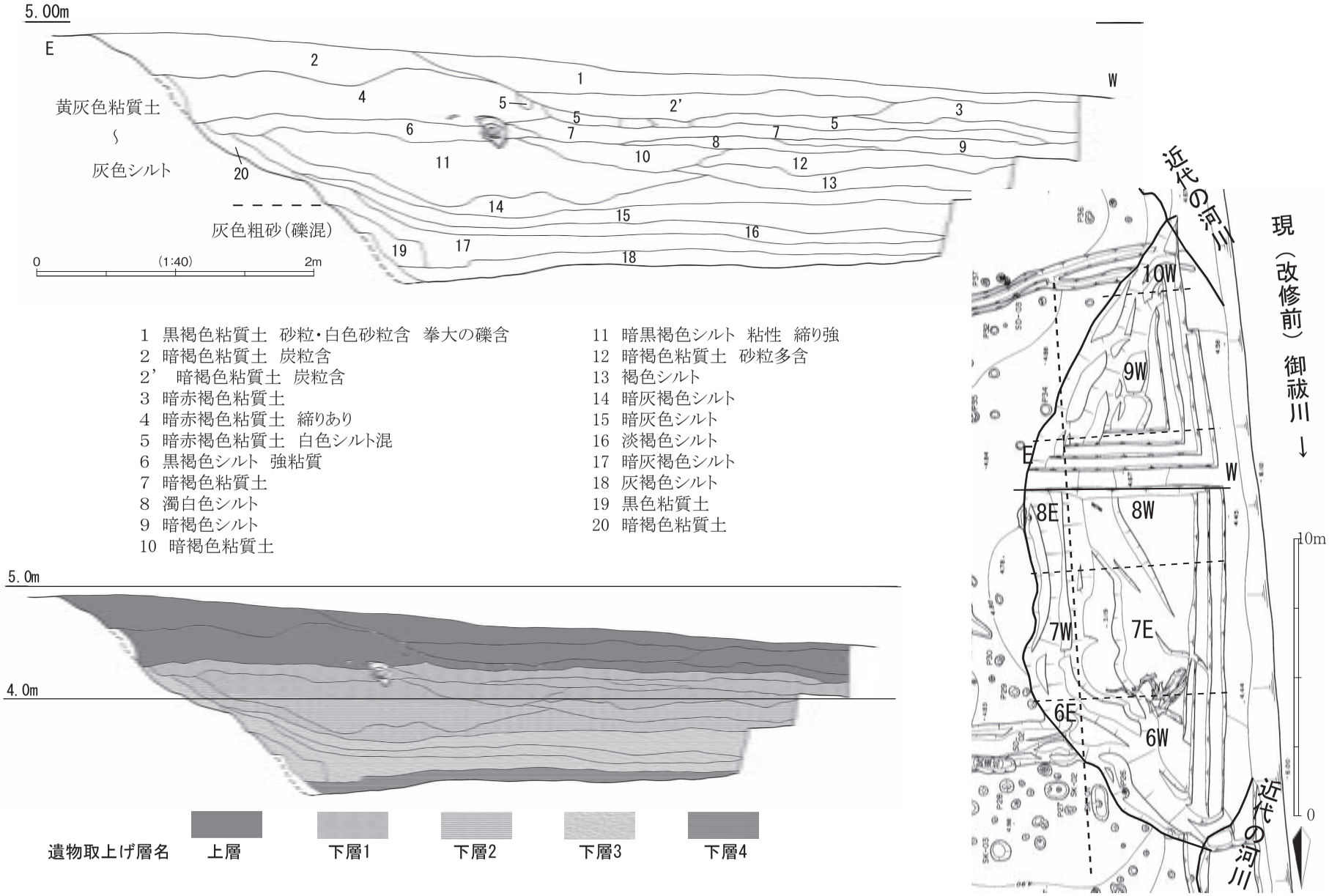


第 26 図　第２次調査遺物実測図

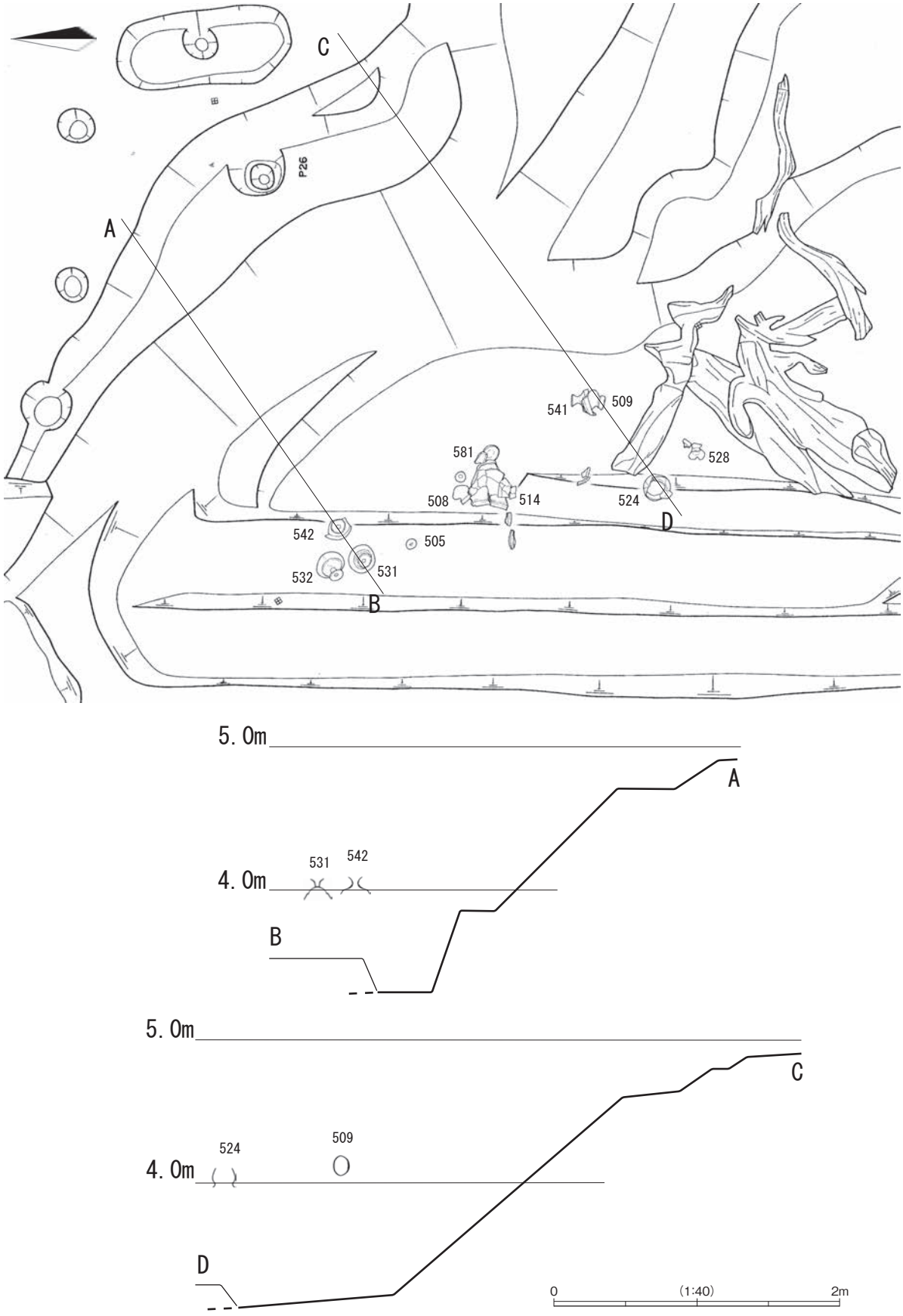
第４節　第３次調査の遺構と遺物



第 27 図　第３次調査遺構図１



第28図　第３次調査遺構図２（旧河道遺構図）



第 29 図　第３次調査遺構図３

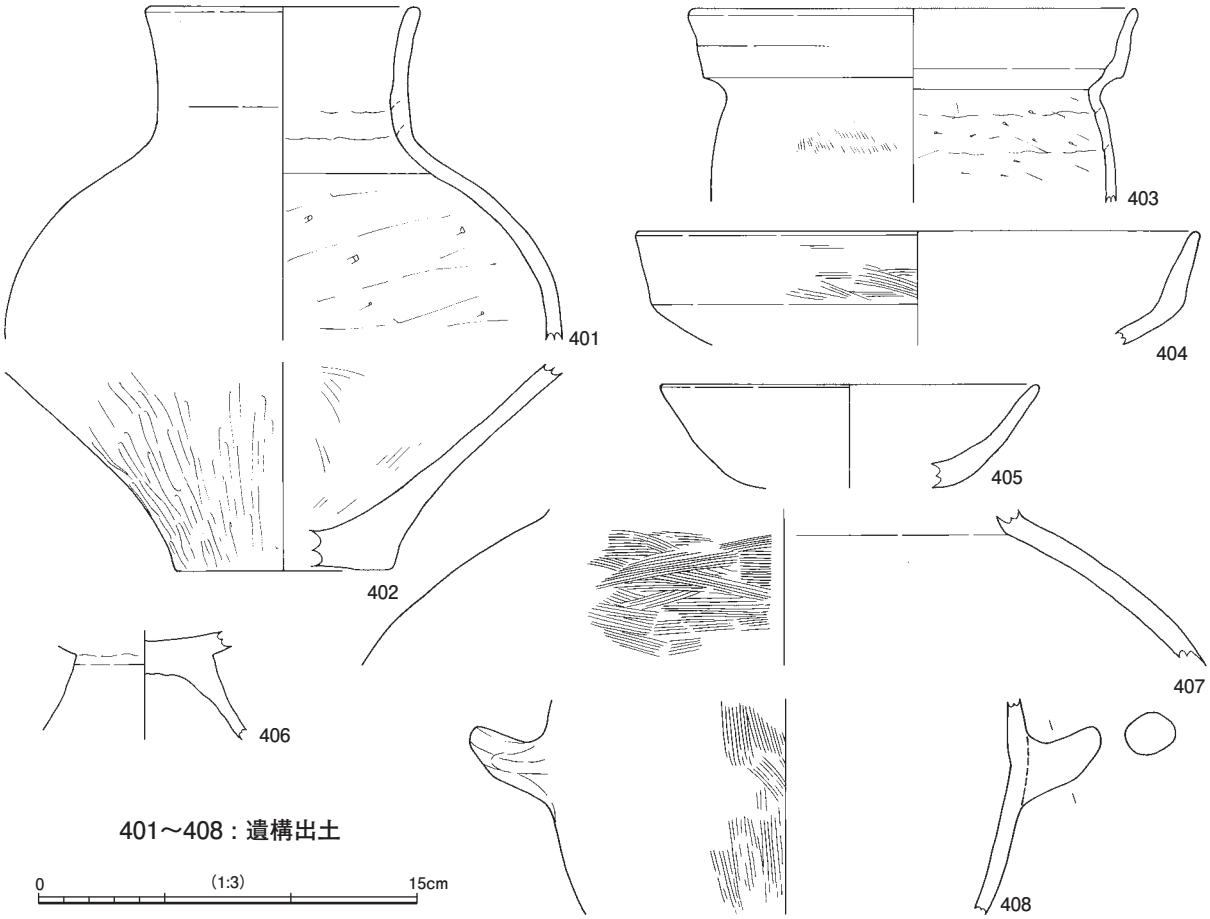
第３次調査では近代の御祓川流路がほぼ全域で調査地の西縁を切り込んでいた。近代流路の開削を免れた部分では、弥生時代後期、古墳時代後期、中世の建物、溝、土坑、河川跡等が検出されたが、調査範囲の南側約 1/3 の範囲では遺構・遺物の検出はやや乏しかった。出土遺物の量はパンケース 35 箱程度であり、旧河道出土の土器がその９割以上を占める。調査に際して発掘範囲の中軸線をもとに 5m メッシュの仮グリッドを設定した。軸線方向はほぼ南北で、南から北へ 0･1･2･3…と数字で呼び、中軸線の西側を W、東側を E とし、各グリッドについて「0E」「7W」などと表している。

以下では、第３次調査で検出された遺構・遺物について記述するが、遺構のうち掘立柱建物の全てと溝・土坑の一部については隣接する第４次調査区と併せて述べるものとし、記述等は次節にまとめて掲載しているものがある。

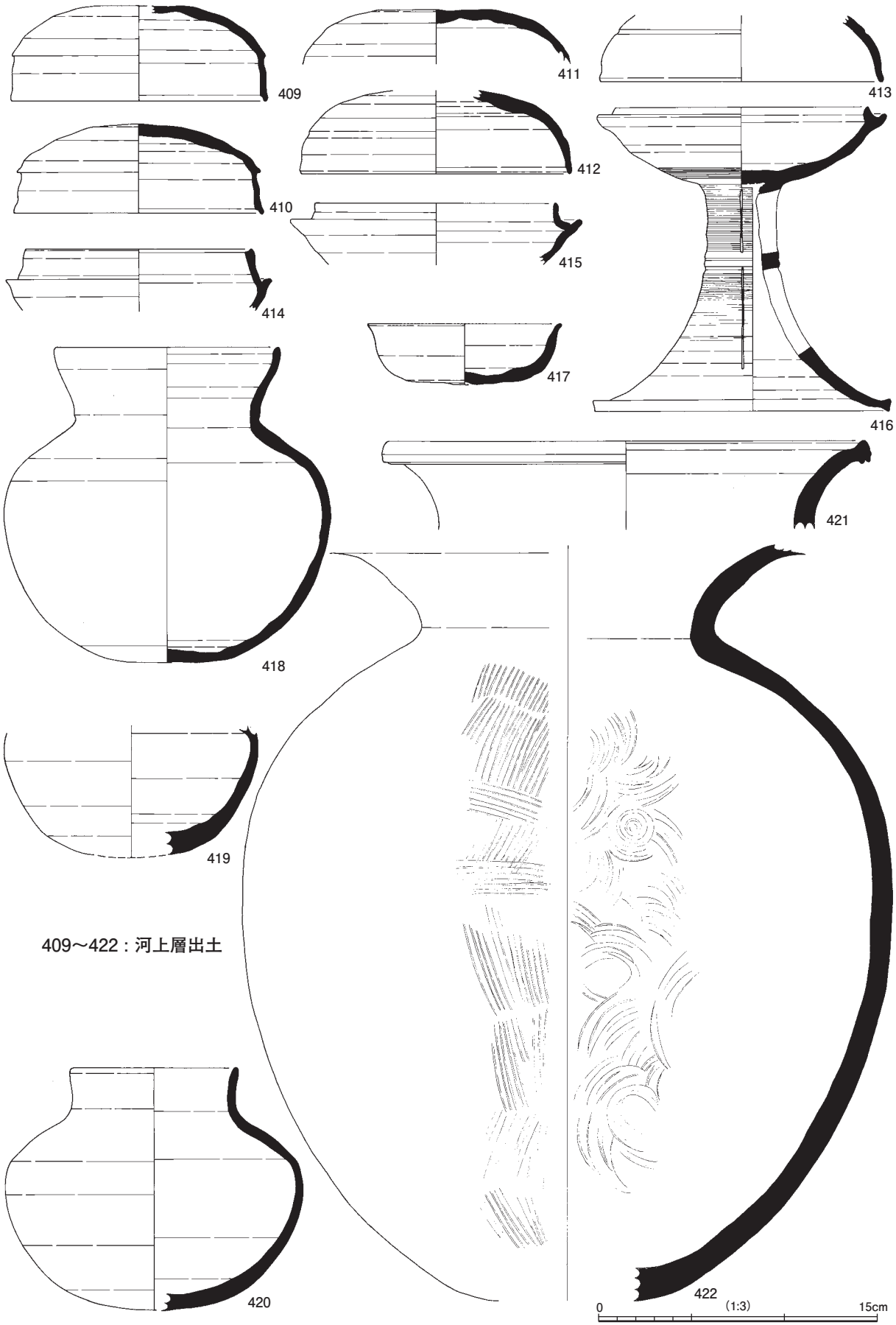
ＳＫ０１　6W 区。南北 120cm ×東西 55cm の隅円長方形プランの土坑で、深さ 10cm 程度を測る。長軸は N7° W 程度を指す。細片のため図化できなかったが、埋土から中世土師器皿が出土しており、中世の遺構とみられる。土層断面図ラインに重なってピットがあるが、ＳＫ０１がピットよりも後出である。

ＳＫ０２　6E 区。南北 60cm ×東西 90cm の隅円長方形プランの土坑で、深さ 10cm 程度を測る。埋土が SK01 と近似していることから、中世の遺構とみられる。

ＳＫ０３　5 ～ 6E 区。直径 75cm の円形プランの土坑で、深さ 35cm 程度を測る。埋土が SK01 と近似していることから、中世の遺構とみられる。



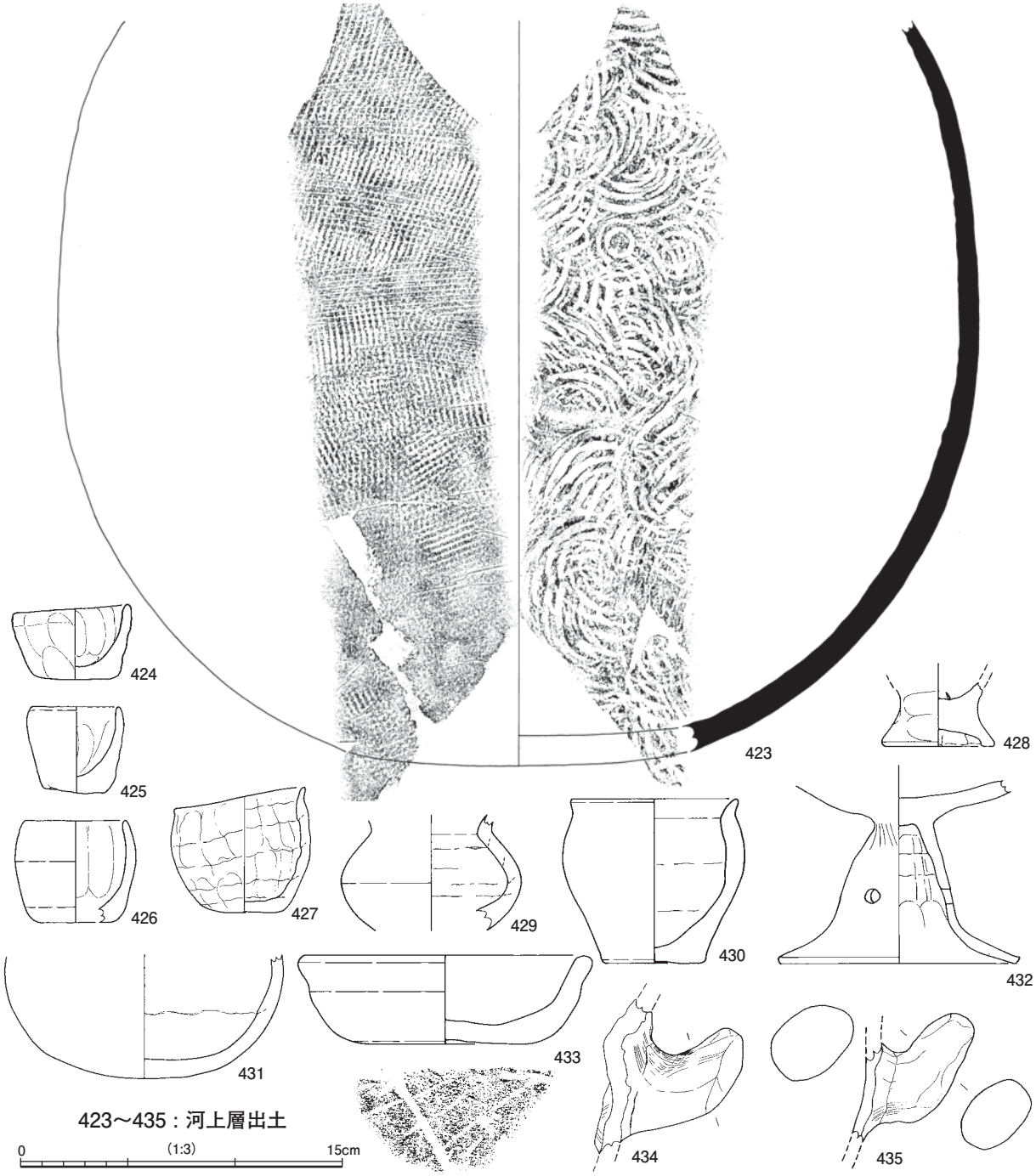
第 30 図　第３次調査遺物実測図１



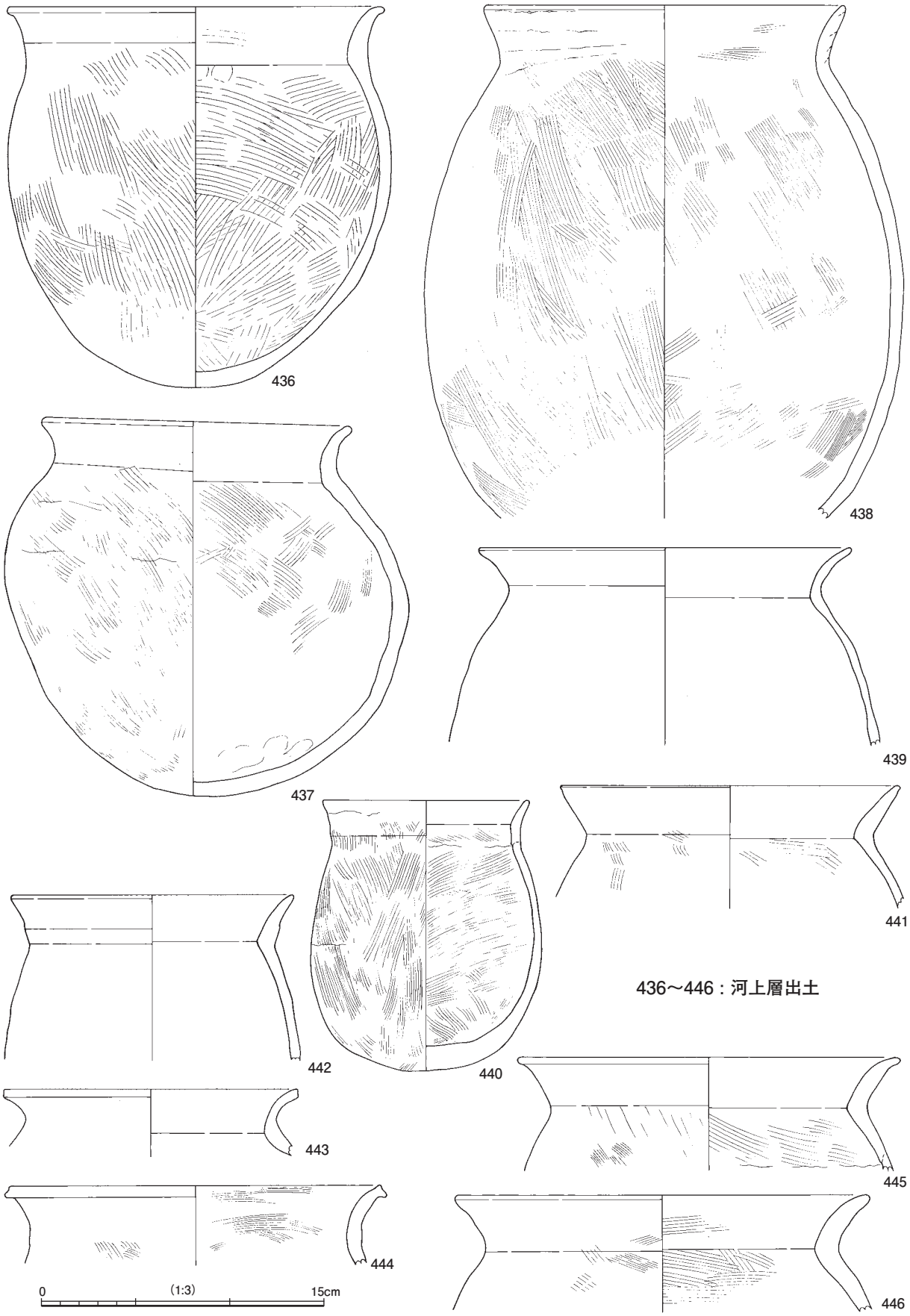
第 31 図　第３次調査遺物実測図２

ＳＫ０４　5E 区。直径 55cm の円形プランの土坑で、深さ 15m 程度を測る。南東に位置する黒褐色系埋土の別遺構 P38 を切り込む。埋土が SK01 と近似していることから、中世の遺構とみられる。

ＳＤ０１・ＳＸ０１　2E 区。SX01 は近代河川から東方に 5.5m 程度延びる東西方向の溝で、東端部は幅 160cm 程度の土坑状になり、調査区内で収束する。底はほぼ一定レベルで土坑状部分がやや深く、河川に注ぐ部分は段状になっていた。ＳＤ０１はＳＸ０１の溝部分の中程から分岐しやや北東方向に延びる幅 60cm、幅 30cm 程度の溝である。長さ 7m を検出した。いずれも底に粗砂が堆積し、上位埋土は濁灰色混礫シルトであり近代河川と共通していることから、同時に埋没したものとみられる。近



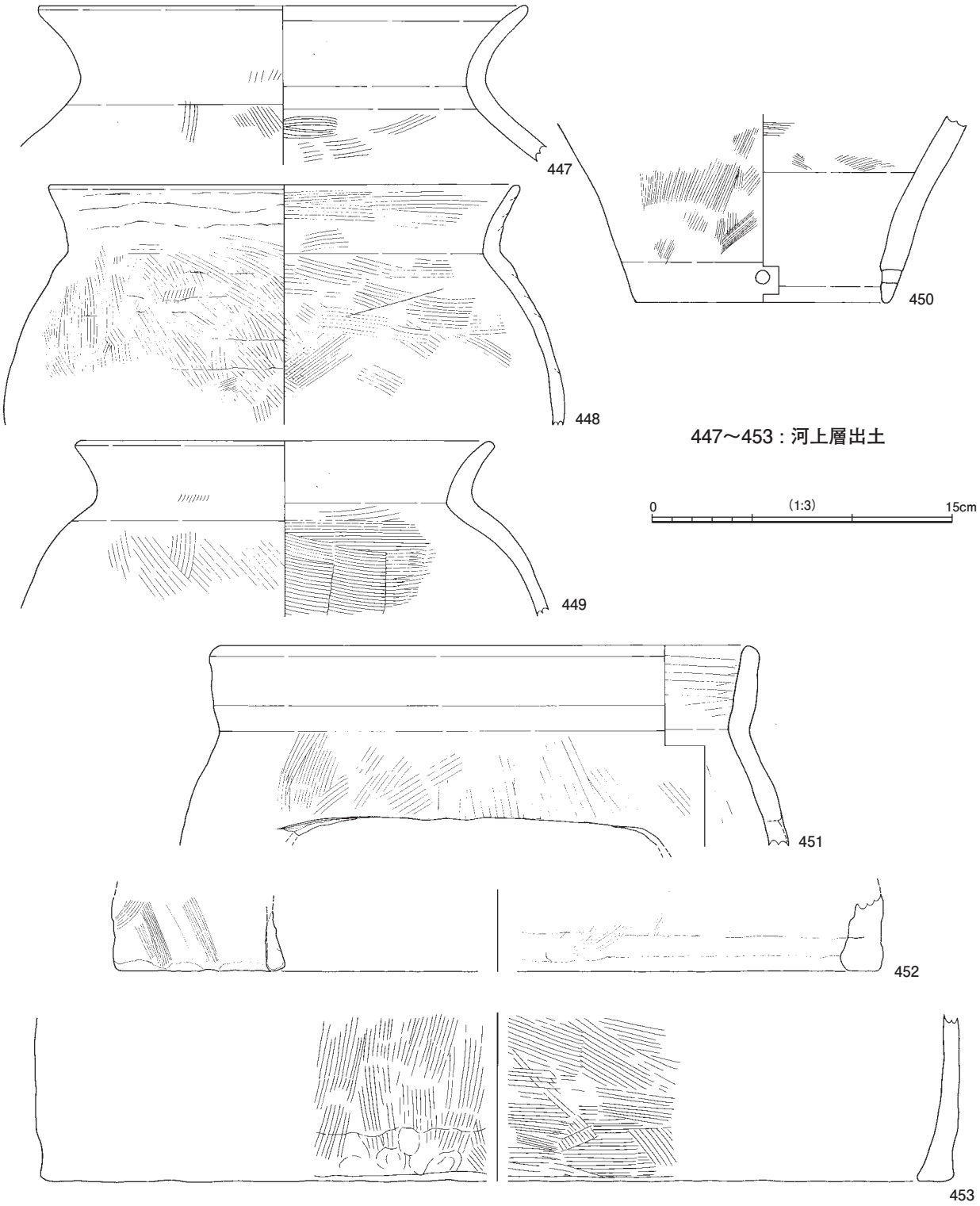
第 32 図　第３次調査遺物実測図３



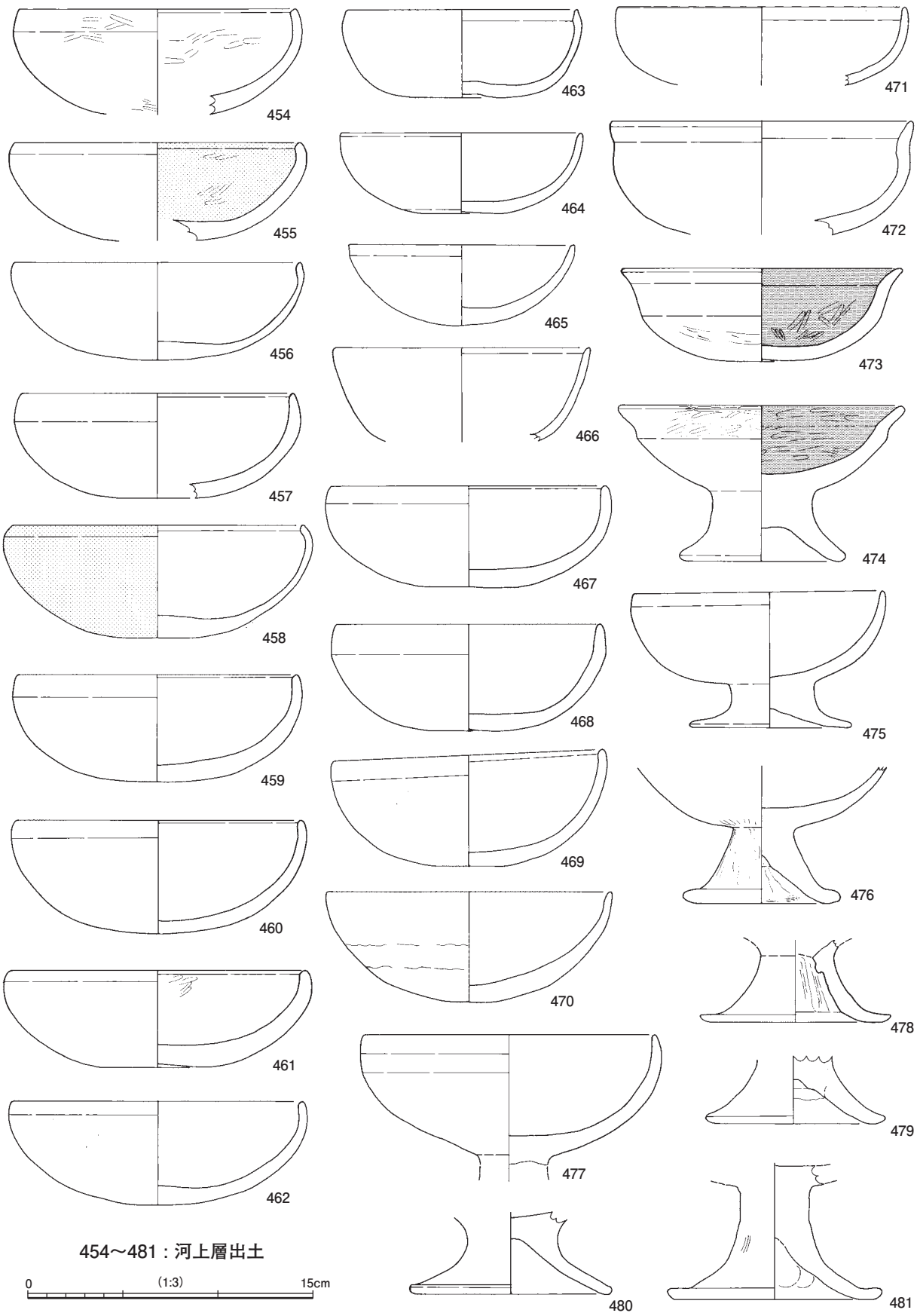
第 33 図　第３次調査遺物実測図４

代河川は戦後の改修（1950 年頃）前の御祓川であるとみられることから、これらはその頃の水路の一部であるとみられる。

ＳＤ０３　9 ～ 10 区。調査区を東西方向に横断し、近代河川に注ぐ溝。幅 50cm、深さ 40cm を測る。ＳＤ０１と同様、上位を埋め立てられたものと観察した。ＳＤ０１の南方約 36m に位置する。検出範



第 34 図　第３次調査遺物実測図５

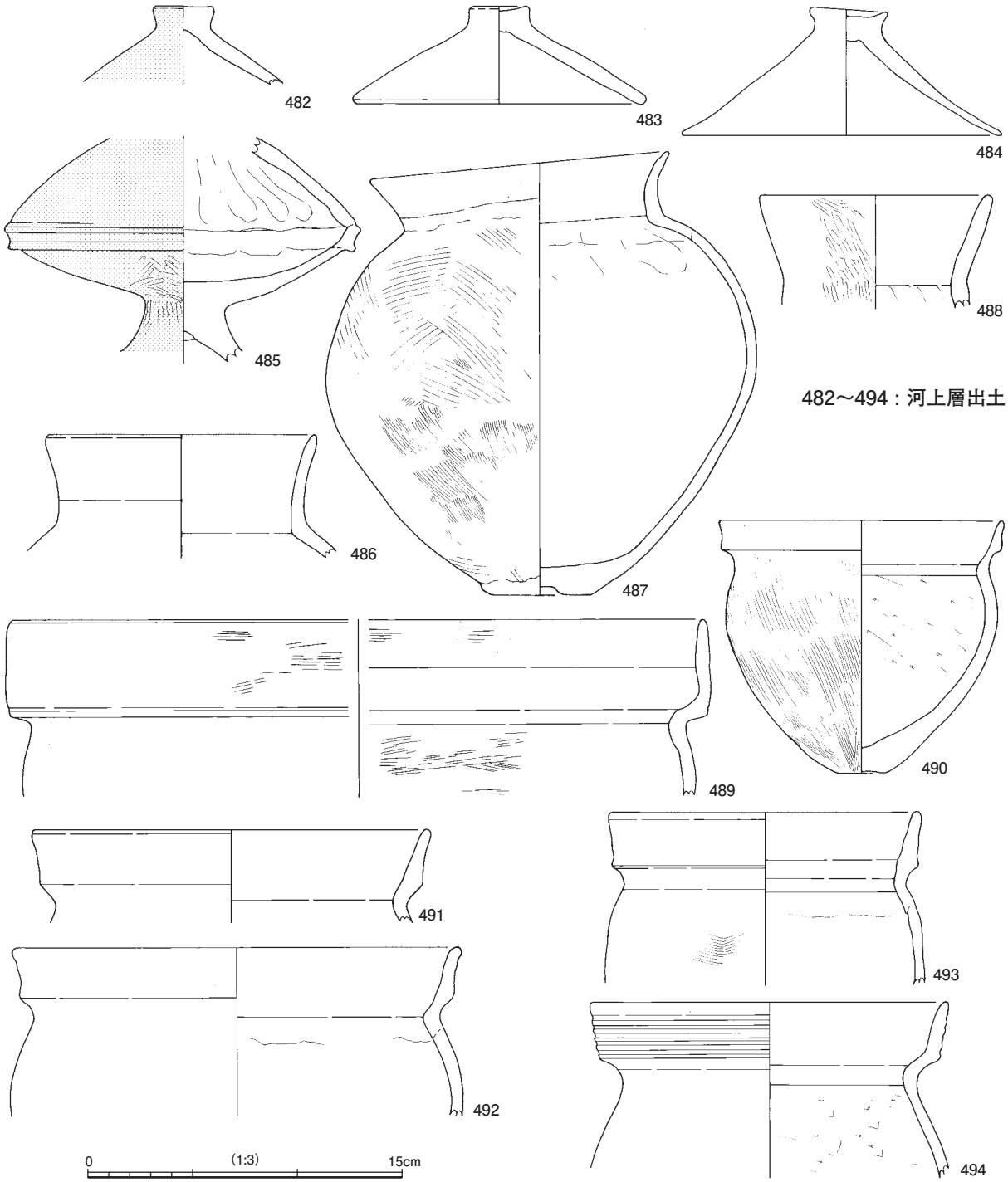


第 35 図　第３次調査遺物実測図６

囲の中程で分岐し、２条の溝となって河川に注ぐ。

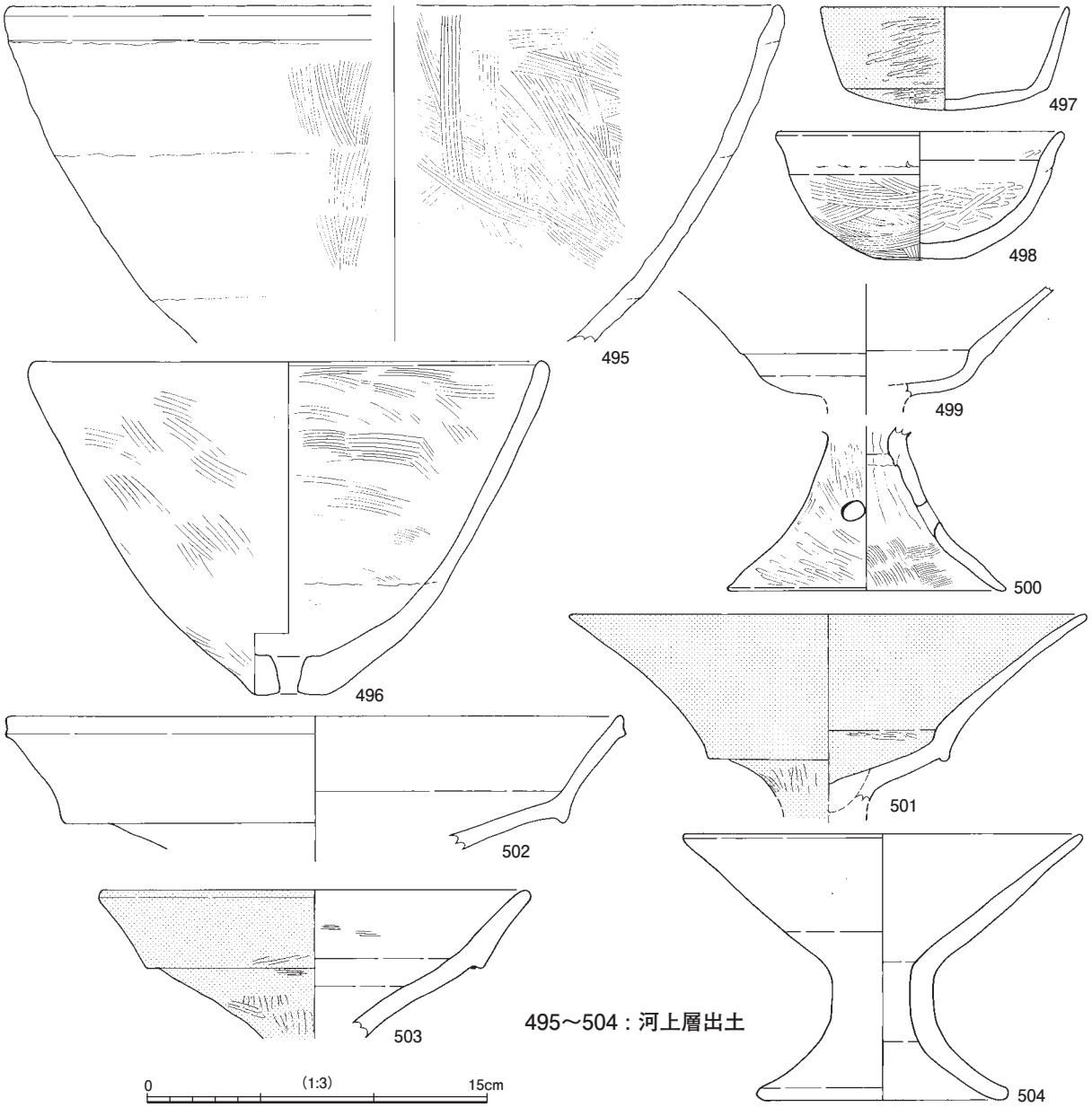
旧河川　６～10区にかけて検出された幅7m以上・深さ200cm以上の大きな落ち込みで、６～９区では東半（Eグリッド）にもかかる。掘り上がりの形状などから、蛇行した旧河川の東岸部寄りの部分が後世の掘開を免れたものと判断される。

旧河川からは多量の土器類（409～573）の他に少数の石製品が出土した。発掘範囲の北寄りの川底で流木とみられる未加工の大型樹根が検出されたが、顕著な木製品の検出は乏しかった。掘り下げ

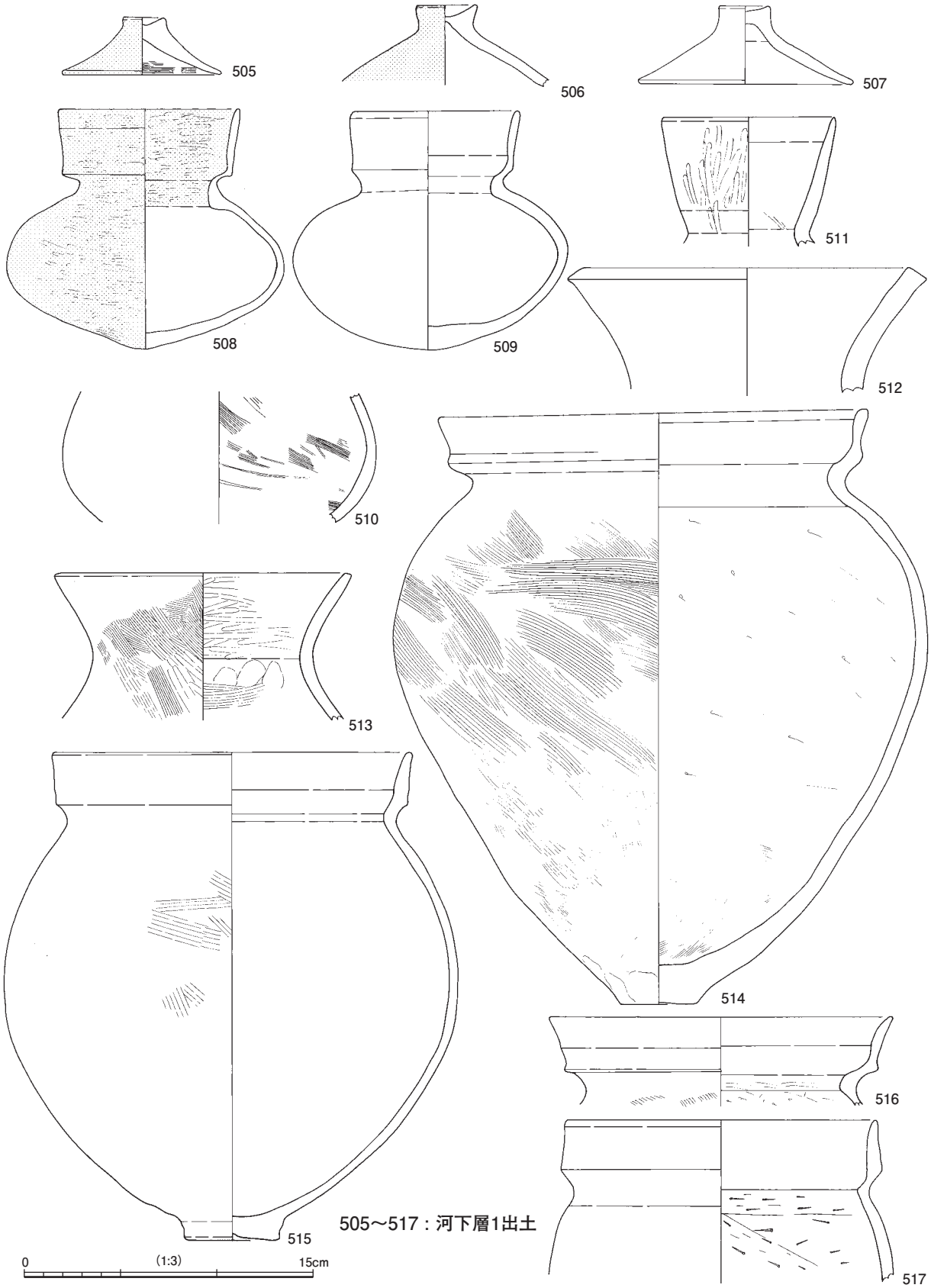


第36図　第３次調査遺物実測図７

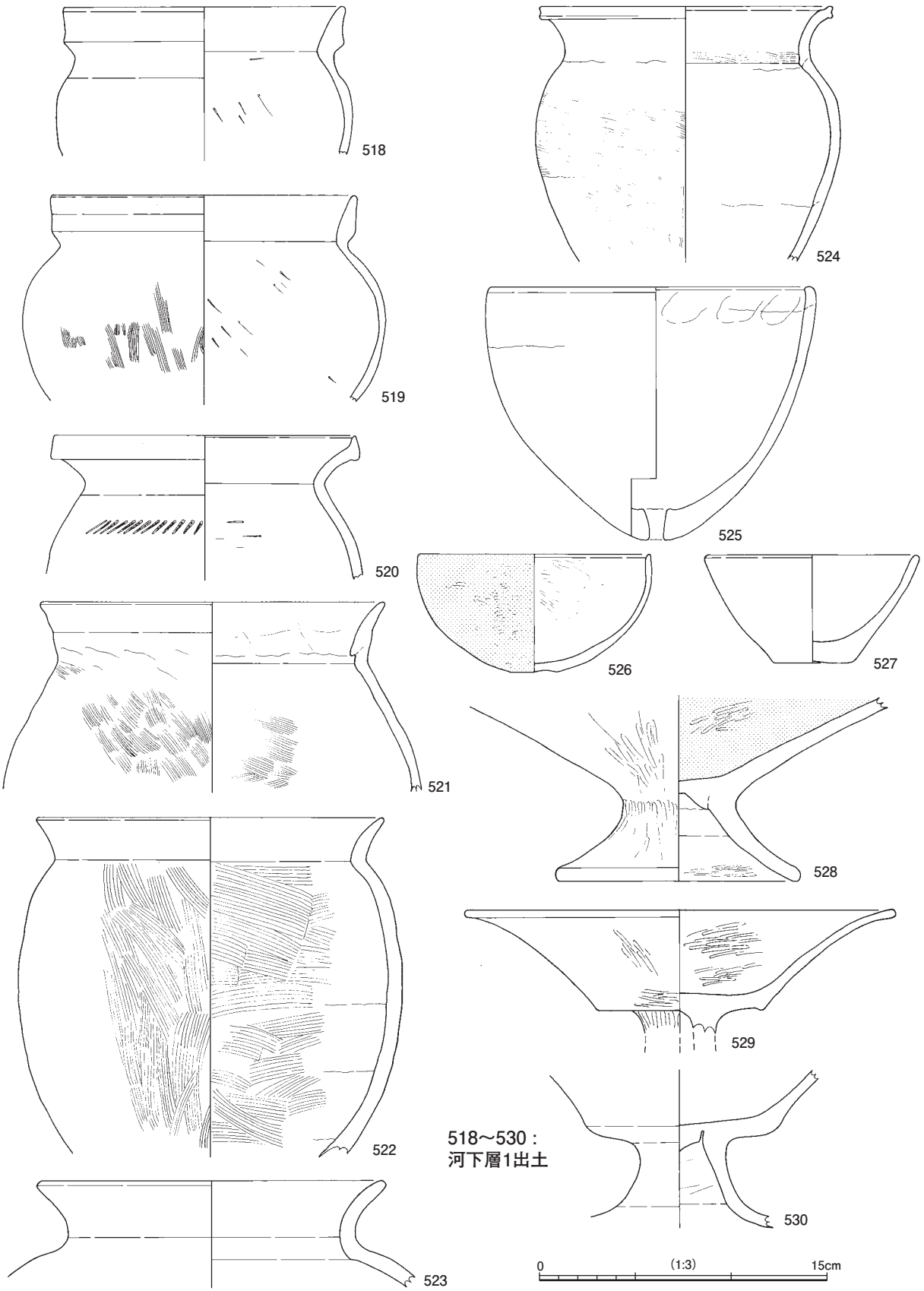
に際して、土層断面図（第 28 図）に示す「上層」・「下層 1」「下層 2」「下層 3」「下層 4」の 5 区分を基本に遺物を取り上げた。土器の年代は、最下層である「下層 4」の遺物は少量であるが弥生時代後期中頃以前に限られ、少数の例外を除けば、「下層 1」が弥生時代後期後半、「上層」が古墳時代後期（6 世紀前半～ 7 世紀中葉）頃にほぼ限定される。なお、このような層位と年代の対応を外れる遺物が少数ではあるが存在する。上層に弥生時代遺物が混入することについては上層形成時の様々な状況により起こり得る為一応不問とされようが、下層への古墳時代後期遺物の混入があるとすれば付言を要する。本地点下層についてもしも後者のような資料が含まれているとすれば、取上時の帰属層位についての判断が不適切であったためであり、上層からの掘り込み等による混入ではないものと考えている。本地点のように大量の遺物を含む上・下層が間層を挟まず堆積した場合等、実際の作業としては非常に困難ではあるが、引き続き正確な層位的調査の遂行に努めたい。



第 37 図　第３次調査遺物実測図８

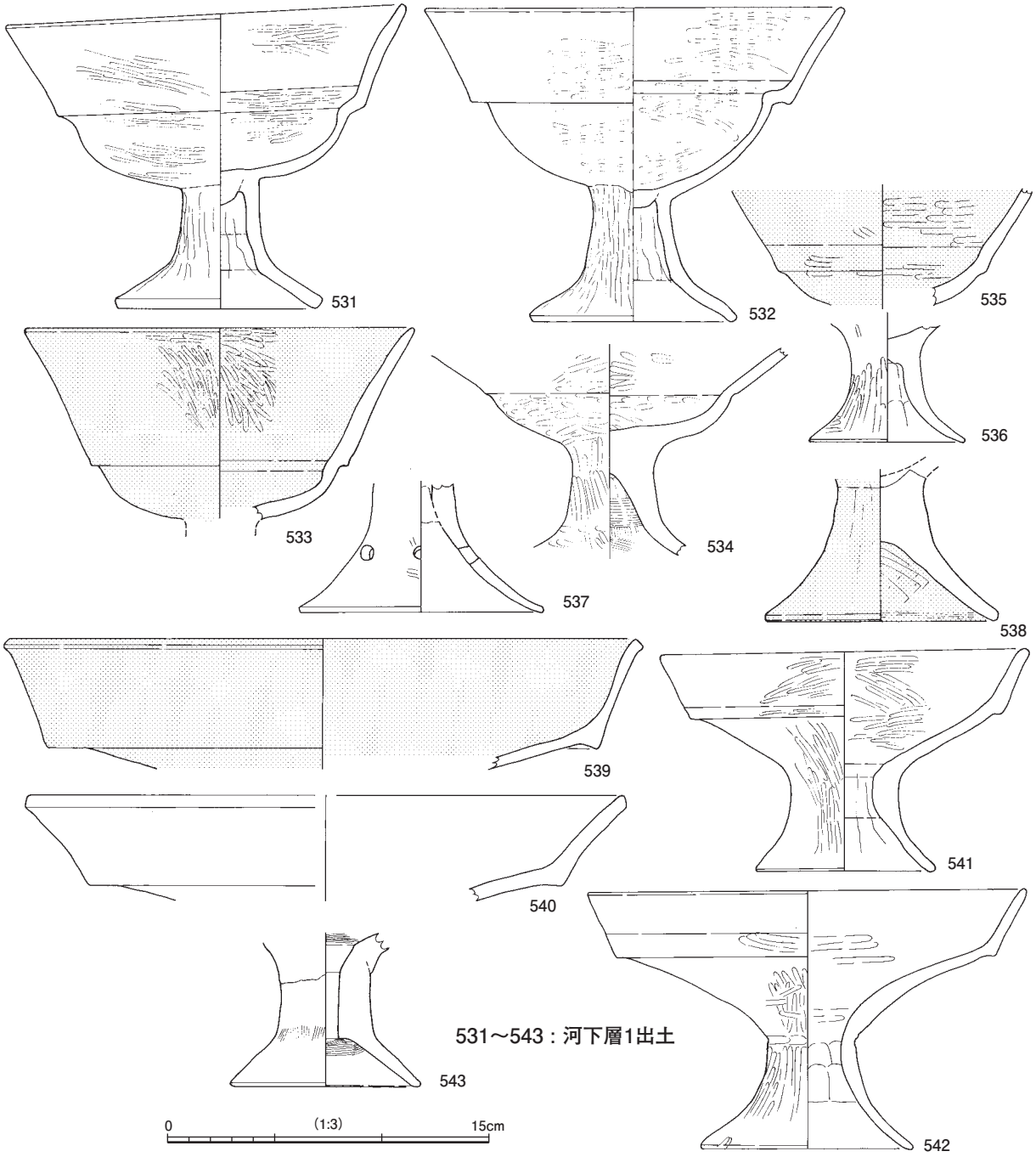


第 38 図　第３次調査遺物実測図９

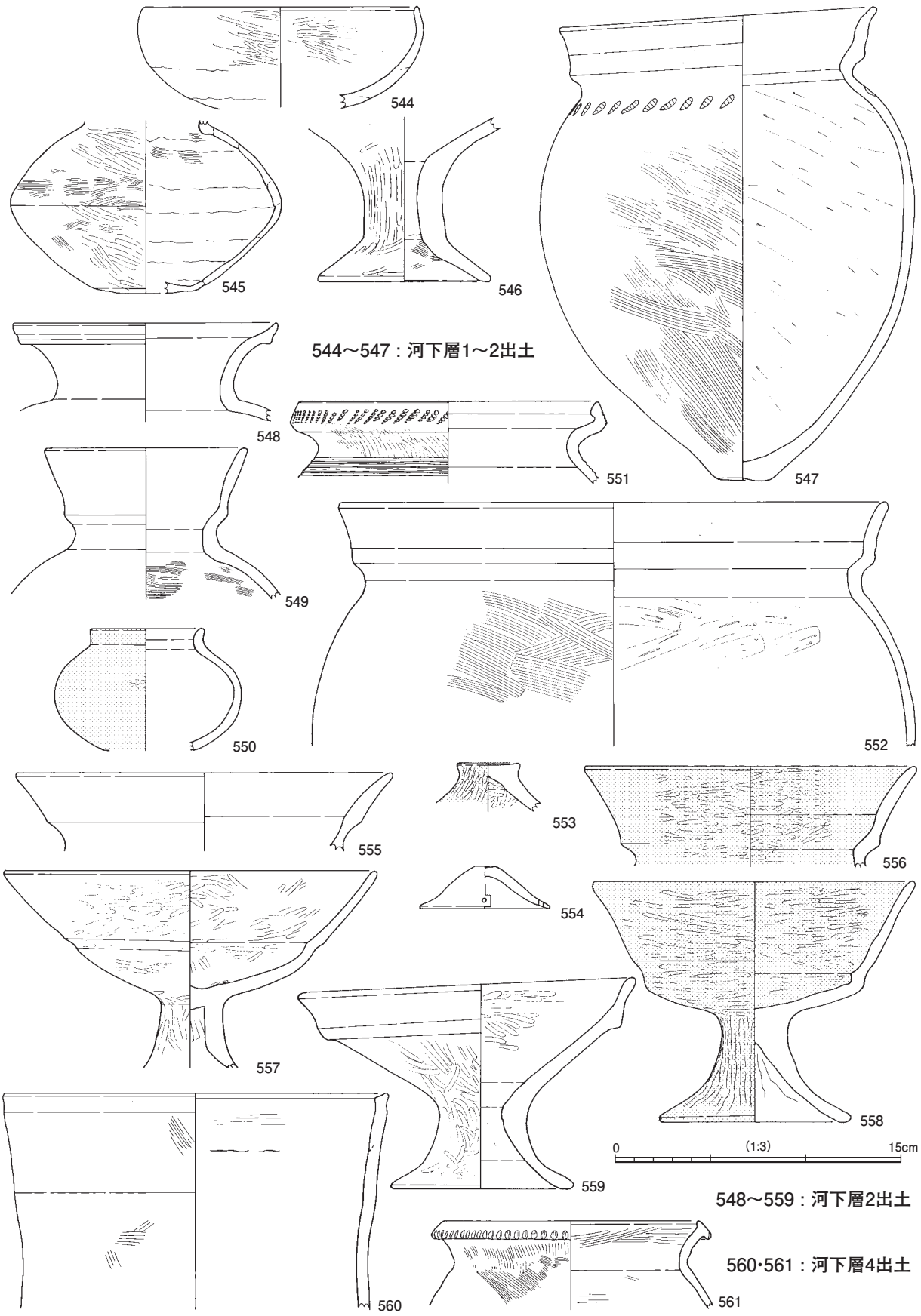


第 39 図　第３次調査遺物実測図 10

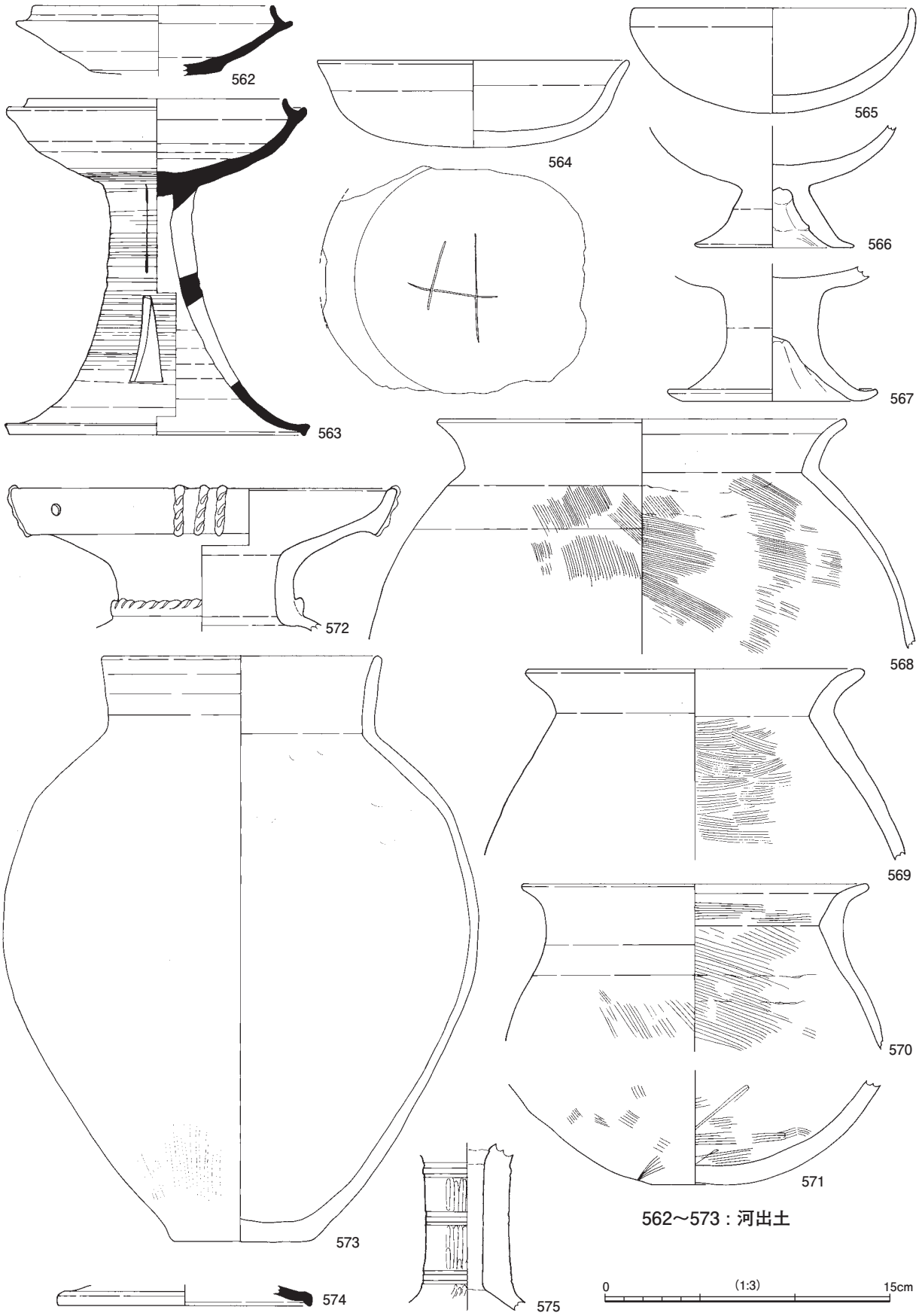
旧河川からは下層１の 6W 区において、完形の土器等が検出されている（下層１土器群）。出土状況は、器台 542 と高坏２点(531･532)が下流側の一所で倒立状態で検出された。そこから約 2m 南東に離れて、器台 541 が壺 509 を載せたまま上流方向へ向かって横倒しになった状態で検出された。また、２つの土器群の中間地点で壺 508･甕 514･磨石 581 などが纏まって検出された。大型の甕 514 は横倒しになって潰れた状態で検出されている。これら遺物の検出レベルはほぼ一定しており、旧河川検出範囲の最深部から 100cm 程度上位で、落ち肩から 100cm 程度下位である。これらの遺物については河岸からの投棄や他所からの漂着によるものではなく、この地点に遺棄されたものであることが出土状況 から



第 40 図　第３次調査遺物実測図 11



第 41 図　第３次調査遺物実測図 12



第 42 図　第３次調査遺物実測図 13

第 43 図　第３次調査遺物実測図 14

想定される。当該地点は丁度ＳＤ０２（第４次調査Ａ区ＳＤ１１　次節にて記述）が注ぎ込むすぐ先付近に相当するが、土器群遺棄地点の選定についても想定される祭祀の主宰者等の意向が働いていたのかもしれない。またそのように考えるとすると、現場では偶然の流着品と考えた川底の大型樹根についても何か意味があったのかもしれない。

上層の古墳時代遺物については破片化した土器も多く出土状況からは明瞭な纏まりを指摘できないが、当地点付近に廃棄された状況を示すものであろう。上層出土土器の年代は西暦６世紀初め～７世紀中頃の比較的長期間に及んでおり、埋没途上の旧河道の凹み部分への数次におよぶ遺棄を想定することができる。410 は実測された須恵器の内では古相を呈する坏蓋である。胎土に長径 5mm を越えるような大粒の白色砂礫を含み、器面には礫粒を起点とした小亀裂が顕著に認められるもので、在地（鳥屋）窯産とみられる。口縁部付け根の外面の稜が鋭く作り出されている。409 は 410 よりも年代が降るとみられる須恵器坏蓋。409 は 410 に比べて焼成がやや甘いが、胎土中の礫粒の状況は同様で稜を比較的鋭く作っている点が共通する。

第５節　第４次調査の遺構と遺物

平成 11 年度の調査は第４次調査に当たり、最も上流側（南側）の 860㎡が調査対象となった。調査区は、下流側すなわち北方から順に「Ａ区」･「Ｂ区」･「Ｃ区」と便宜的に設定した。

Ａ・Ｂ区は、第３次調査区のすぐ東側に隣接しており、東西約７～９ｍ、南北約 68 ｍの南北に長い調査区である。調査区中央付近に北陸電力の送電線鉄塔があり、その保護の必要上、鉄塔基礎コンクリートから８ｍ間隔をあけて調査を実施した。その鉄塔養生部分を境界として、便宜的に調査区北側をＡ区、調査区南側をＢ区とした。第３次調査区と一体となる建物柱穴（ピット）、溝、土坑などを検出し、弥生時代後期、古墳時代後期、平安時代前期、中世の遺物が出土した。

Ｃ区は、Ｂ区から約 70 ｍ南側に離れた場所に位置しており、東西約 14 ｍ、南北約 19 ｍの三角形の調査区である。周囲の三方とも御祓川旧河川の氾濫により遺構面が削られ、島状に残った部分について調査を実施した。錯綜した溝とピットを検出し、弥生時代後期、古墳時代後期、平安時代前期の遺物が出土したが、建物の復元はできなかった。

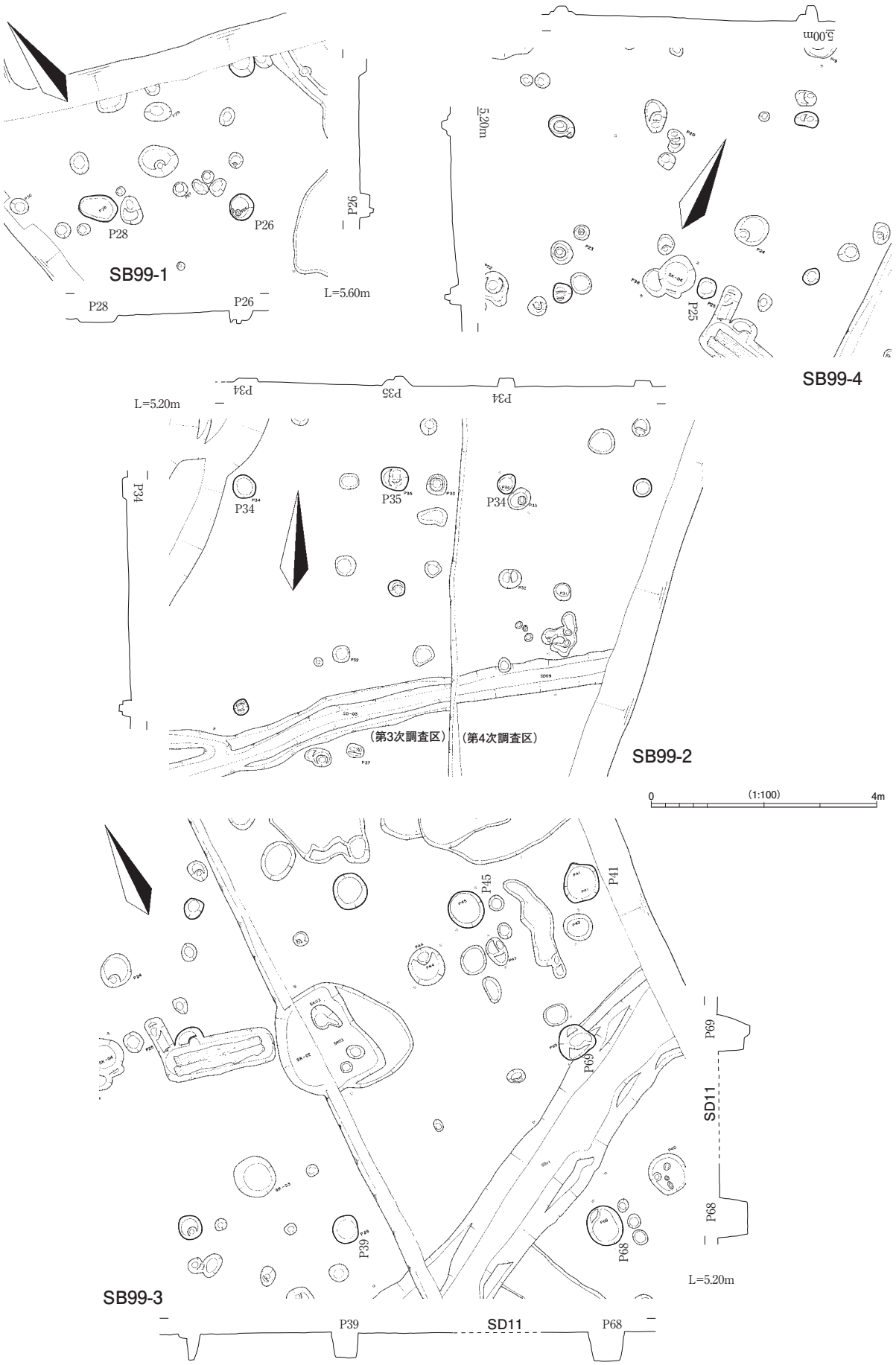
また、Ｂ区・Ｃ区間については、分布調査時（平成５年）の試掘により、第２・３次調査区でも確認した近代以降の蛇行する御祓川旧河川に当たると判明し、調査対象外となった。

掘立柱建物　西側に隣接する第３次調査区と一体となり復元できた建物も多く、本節でまとめて報告する。掘立柱建物を中心に弥生時代後期と推定される建物１棟、古墳時代後期と推定される建物２棟、平安時代前期と推定される建物４棟、中世と推定される建物５棟の合計 12 棟を復元した。

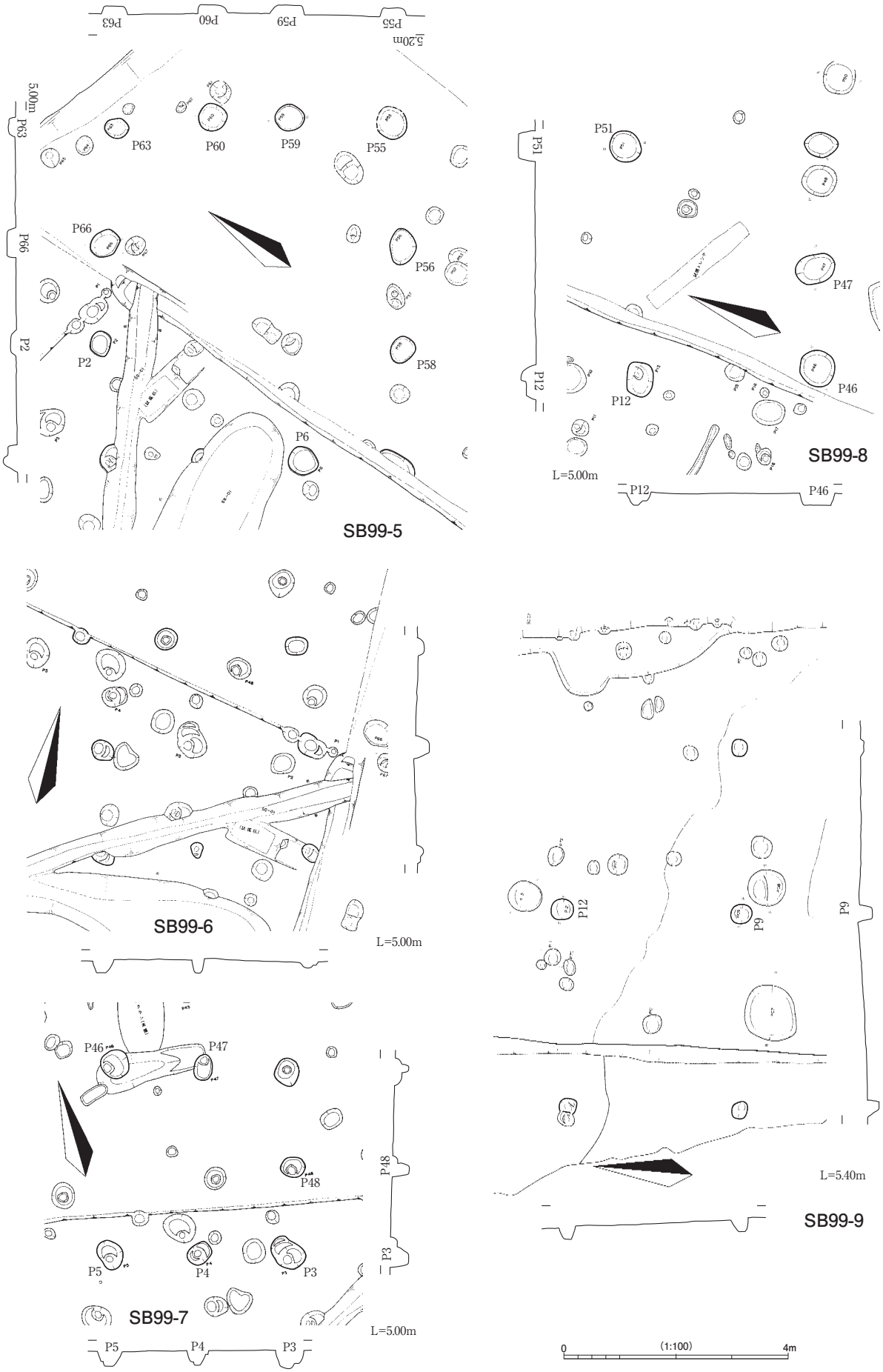
ＳＢ０１　Ｂ区北寄りで検出した１間 (252cm) × １間 (252cm)（以上）の柱組である。建物方位は N-37° -E を指す。調査区外へ延びる可能性があり、全体の規模は不明であるが、第４次調査区Ｐ２６・２８などを主柱穴とする。１間×１間とみた場合に、第３次調査区ＳＤ０４を外周溝とする、弥生時代後期の竪穴系建物の主柱穴となる可能性がある。

ＳＢ０２　Ａ区南端から第３次調査 9E 区に跨って検出した３間 (704cm)（以上）× １間 (395cm) の掘立柱建物である。建物の長軸は N-87° -E を指す。第３次調査区Ｐ３４・３５、第４次調査区Ｐ３４などを主柱穴とするが、柱穴が小型で、配置が正方位に近いことから中世の建物と推定している。

ＳＢ０３　Ａ区中程から第３次調査 5・6E 区に跨って検出した３間 (716cm) × ２間 (575cm) の掘立柱建物である。建物の長軸は N-64° -W を指す。第３次調査区Ｐ３９、第４次調査区Ｐ４１・４５・



第 44 図　第４次調査建物跡遺構図１



第 45 図　第４次調査建物跡遺構図２

第 46 図　第４次調査建物跡遺構図３

６８・６９などを主柱穴とする。古墳時代後期と推定している土師器埦と甕（601・602）はＰ６９・Ｐ６８のそれぞれ掘方から出土したものであり、Ｐ６８からは砥石（619）も出土している。

Ｐ６８　Ａ区ＳＤ１１の南側に位置する。長軸約 70cm、短軸約 60cm、深さ約 60cm の楕円形の小穴。掘方からは古墳時代後期の土師器甕胴部（602）や砥石（619）が出土している。

Ｐ６９　Ａ区ＳＤ１１の北側肩部に重複する位置で検出した、直径約 50cm、深さ約 55cm の小穴。底部近くからは多数の土師器が出土しており、堀方からは当地では余り類例の知られていない、ほぼ完形品の土師器埦（601）が出土している。時期比定に問題を残すが、古墳時代後期頃と考える。

ＳＢ０４　第３次調査区中程で検出した２間 (439cm) × １間 (286cm) の掘立柱建物である。建物の長軸は N-62° -E を指す。第３次調査区Ｐ２５などを主柱穴とし、平安時代前期の建物と推定している。

ＳＢ０５　Ａ区北端から第３次調査区に跨って検出した３間 (616cm) × ３間 (526cm) の掘立柱建物である。建物の長軸は N-56° -E を指す。第３次調査区Ｐ２・６、第４次調査区Ｐ５５・５６・５８・５９・６０・６３・６６などを主柱穴とする。比較的多くの柱穴から土器が出土しており、いずれも細片であり年代を決めがたいが、平安時代前期の建物と推定している。

ＳＢ０６　第３次調査区北寄りで検出した２間 (377cm) × ２間 (377cm) の掘立柱建物である。建物の長軸は N-14° -W を指す。平安時代前期の建物と推定している。

ＳＢ０７　第３次調査区中程で検出した２間 (330cm) × ２間 (330cm) の掘立柱建物である。建物の長軸は N-16° -E を指す。第３次調査区Ｐ３・４・５・４６・４７・４８などを主柱穴とする、古墳時代後期の建物と推定している。

ＳＢ０８　Ａ区北端から第３次調査区に跨って検出した２間 (406cm) × １間 (325cm) の掘立柱建物である。建物の長軸は N-68° -E を指す。第３次調査区Ｐ１２、第４次調査区Ｐ４６・４７・５１などを主柱穴とする、古墳時代後期の建物と推定している。

ＳＢ０９　Ｂ区から第３次調査区に跨って検出した２間 (640cm) × １間 (320cm) の掘立柱建物である。建物の長軸は N-5° -W を指す。第４次調査区Ｐ９・１２などを主柱穴とする、中世の建物と推定している。

ＳＢ１０　第３次調査区中程で検出した２間 (540cm) × ２間 (480cm) の掘立柱建物である。建物の長軸は N-2° -E を指す。中世の建物と推定している。

ＳＢ１１　第３次調査区北寄りの０～２区で検出した南北３間 (925cm)（以上）×東西３間 (802cm) の本報告中最も規模の大きい掘立柱建物である。建物の長軸は N-6° -E を指す。中小型の柱穴で構成される総柱建物で、第３次調査区Ｐ４２・４４・４５などを柱穴とする中世の建物と推定している。平面形は僅かに平行四辺形気味に歪むが、柱間距離の比率は東西が東から 9.5：9.5：8、南北が北から 11：11：9 と看取され、西端と南端の柱間が狭い。西辺と南辺では柱穴が一段と小型であることも勘案すれば、この建物は２間×２間の身舎の西辺と南辺に廂をもつ構造に復元されよう。ちなみに図上の建物計測値から求められる復元尺値は南北（31 尺）で 29.84cm、東西（27 尺）で 29.70cm となる。一つの建物について東西と南北とで尺の実寸値が異なっていたとは考えがたいため、建物計測値は理論上求められた値によって補正される必要があろう。ただし理論値の算出にあたっては、復元尺値の長短いずれかを採用するというような単純な解決案に拠ることは未だできない。補正の方法については今後さらに追究を要するものと思われる。なお、第２次調査区と第３次調査区の間の未調査範囲を勘案すれば、この建物跡には北方向へ身舎あるいは廂がもう１間程度のびることを想定しうる余地がある。このように不確定な要素が残るものの、この建物跡は県内の中世総柱建物全体の中でみても、身舎・廂ともに柱間距離の相当長い部類に属するものである点が注目される。

ＳＢ１２　Ａ区南から第３次調査区 9E 区にかけて検出した２間 (296cm) × ２間 (296cm) の掘立柱建物である。建物の長軸は N-0° を指す。第３次調査区Ｐ３２・３３、第４次調査区Ｐ３２・３３など小型の柱穴で構成される総柱建物であり、中世の建物と推定している。

土坑　Ａ区で４基、Ｂ区で２基の計６基確認している。ただしＳＫ０２・０３を除いては、深さが５～ 10cm と浅く、底面が平坦な遺構であり、性格は不明である。

ＳＫ０１　Ｂ区北側で確認した、長軸約 2.5 m、短軸約 1.8 m、深さ約 10cm の浅い土坑。中央部には、ＳＫ０１を掘り込む直径 37cm、深さ 25cm のピットがあり、東側はＳＤ０７・０８に切られる。古墳時代後期の土師器埦（606）が出土している。

ＳＫ０２　Ａ区南側で確認した、長軸約 1.7 m、短軸 1.5 m、深さ約 28cm の土坑。第３次調査区ＳＤ０５と接続する遺構であり、合わせて長軸約 3.7 mの規模である。覆土は暗褐色粘質土。

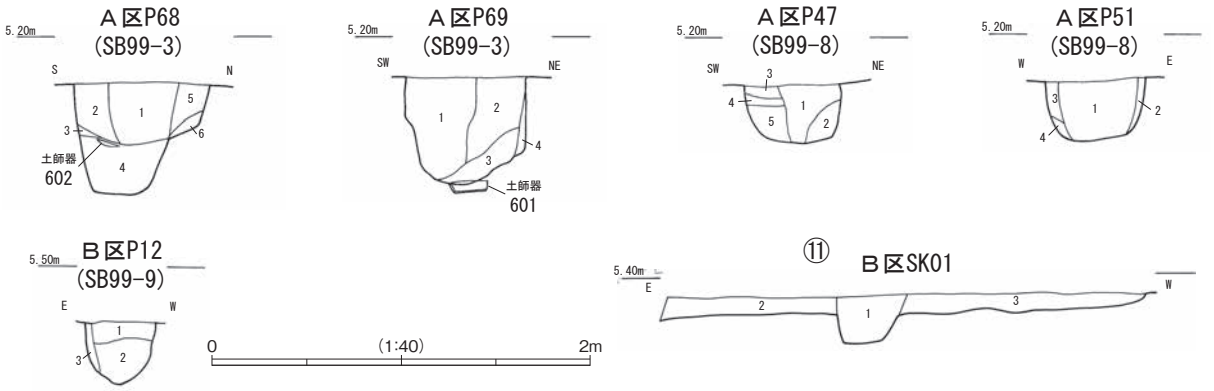
ＳＫ０３　Ａ区中央部で確認した、長軸約 1.7 m、短軸 1.3 m、深さ約 28cm の土坑。東側に深さ約５cm のテラス状の浅い部分がある。第３次調査区ＳＫ０５と接続する遺構であり、合わせて長軸約 2.6 mの規模である。

ＳＫ０４　Ａ区中央部で確認した、長軸約 2.6 m、短軸 2.1 m、深さ約５～ 14cm の浅い土坑。東側は調査区外へ延びると推定される。覆土は濁暗灰色粘質土。

ＳＫ０５　Ｂ区中央部で確認した、長軸約 1.3 m、短軸 1.1 m、深さ約 10cm の隅丸方形土坑。

ＳＫ０６　Ａ区中央部で確認した、長軸約 2.2 m、短軸約 1.6 m、深さ約 10cm の不整形な土坑。

溝　Ａ区で３条、Ｂ区で２条、Ｃ区７条の計 12 条確認している。Ａ･Ｂ区のＳＤ０９･１１は東西方向、ＳＤ０７･０８･１０は南北方向に直線状に延びる。Ｃ区周囲は旧御祓川氾濫による削平が顕著であり、検出した溝の切り合いも激しく、何度も流路を変えている様子が窺える。



A区P68
1　濁暗灰褐色粘質土＋粗砂混入
2　濁黄褐色砂質土
3　2＋4
4　暗灰色粘質土
5　淡褐灰色砂質土(2より灰色強い)
6　5＋7
7　暗灰色細砂(地山か)

A区P69
1　暗褐灰色粘質土＋やや黄褐色粘質土混入
2　1＋黄褐色(強い)粘質土＋淡灰色粘土混入
3　濁暗灰色粘質土
4　濁淡灰色粘質土

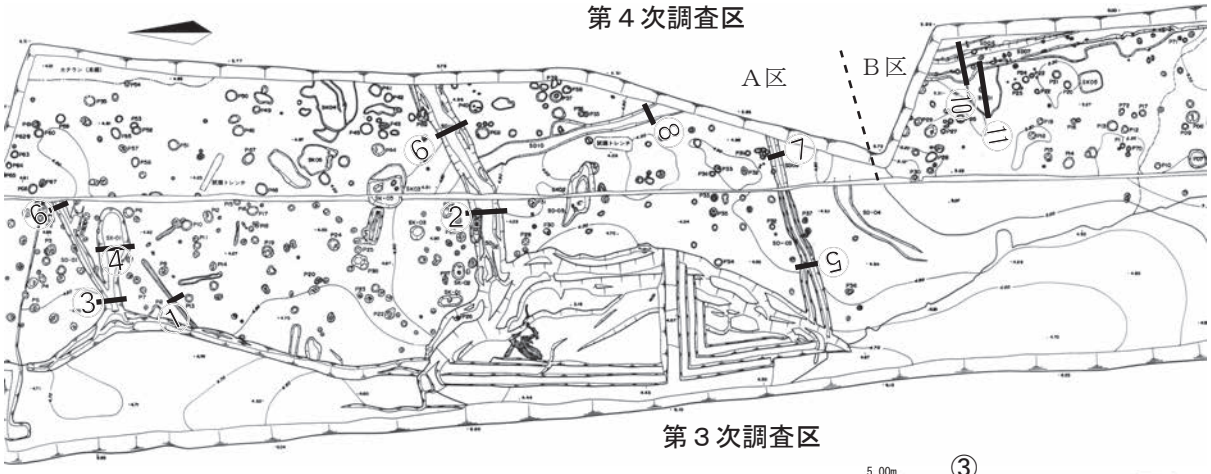
A区P47
1　濁暗灰褐色粘質土
2　濁淡青灰色粘質土
　＋茶褐色粘土多く混入
3　濁茶褐粘質土
4　3＋5(漸移層)
5　2より褐色弱い

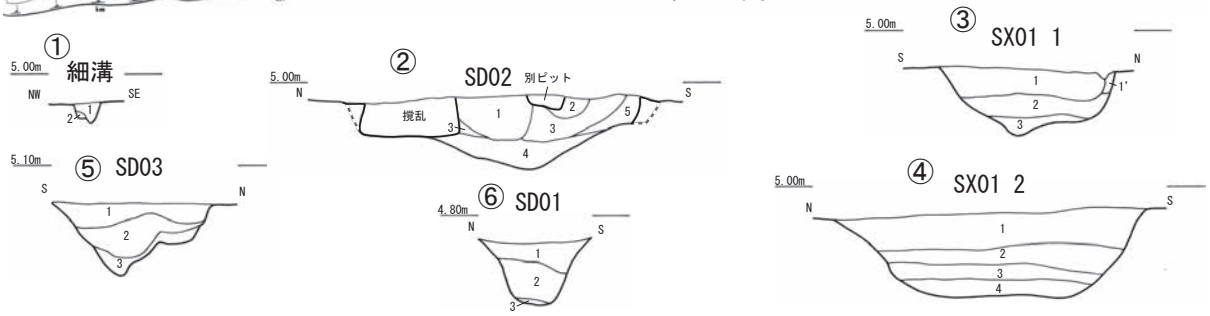
A区P51
1　黒灰色粘質土
2　濁淡灰色粘質土＋少し1混入
3　濁茶褐砂質～粘質土＋少し1混入
4　3より1多く含む

B区P12
1　暗灰褐色粘質土
2　1より暗い
3　濁淡褐灰色粘質土

B区SK01
1　暗灰褐色粘質土
2　1より明るく褐色強い
3　2よりやや灰色強い

第 47 図　第４次調査遺構図１





細溝
1　黒褐色粘質土
2　黒褐色粘質土　黄灰色シルト多混

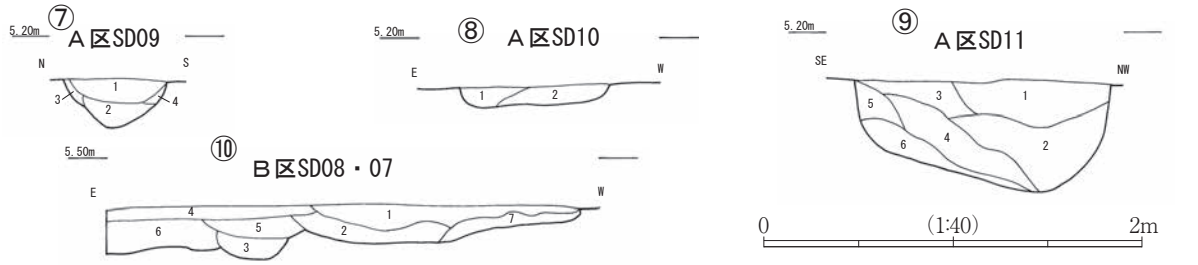
SD02
1　暗褐色土　小石・砂混
2　暗灰褐色土　小石・砂混
3　暗褐色粘質土　砂混
4　暗褐色砂質土
5　暗灰褐色砂質土

SX01-1
1　灰褐色粘質土
　親指先大の明灰色土塊含
2　暗灰色粘質土
3　暗灰色砂粘質土

SX01-2
1　灰褐色粘質土
　親指先大の明灰色土塊含
2　暗灰色粘質土
3　暗灰色砂粘質土
4　灰色砂質土　粗砂混

SD03
1　灰褐色砂粘質土
2　青灰～灰褐色細砂土
3　濁暗灰色粘質土
1・2層は人為的埋土か

SD01
1　暗灰褐色粘質土
2　暗灰褐色砂粘質土
3　灰色砂質土



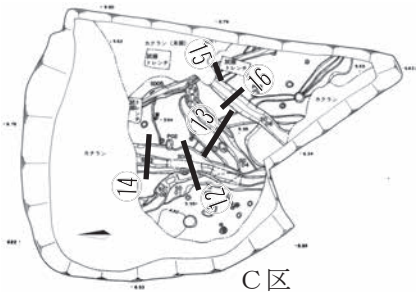
A区SD09
1　濁灰褐粘質土(黄褐色に近い)
2　淡暗青灰色粘質土
3　1＋2
4　3より褐色強い

A区SD10
1　濁茶褐色粗砂
　＋灰色粘土混入
2　濁青灰色粗砂
　＋茶褐粗砂混入

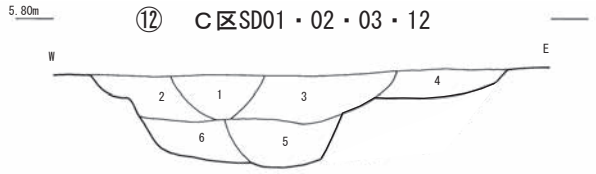
A区SD11
1　濁暗灰褐色砂質土＋粗砂含む
2　濁黒灰色粘質土
　＋黄褐色(地山)土塊含む
3　2より黄褐色(地山)土塊多く含む
4　暗灰色砂質土
5　濁灰褐色砂質土
6　淡灰色細砂(地山か)

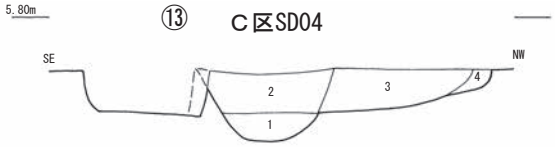
B区SD08・07
1　暗灰褐色粘質土
2　1より明るく砂混入
3　暗灰色粘質土(1より褐色弱い)
4　1より明るい
5　2より明るい
6　黄褐色粘質土
7　2＋黄褐色粘質土

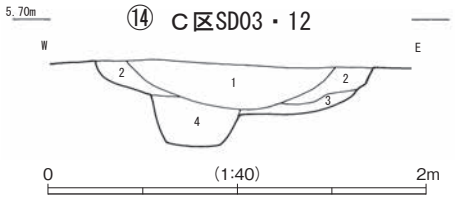
第48図　第４次調査遺構図２

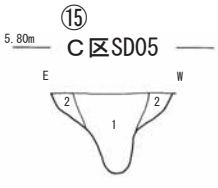


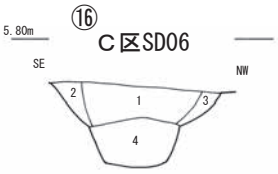
第４次調査区











C区SD01・02・03・12
1　濁暗褐灰色粘質土
2　濁暗灰褐色粘質土
　＋淡褐灰色粘質土混入
3　2よりやや明るい
　＋暗茶褐粘質土(砂質強い)混入
4　3＋7
5　濁暗灰色粘質土
　＋土器含む
6　濁黄灰褐色粘質土

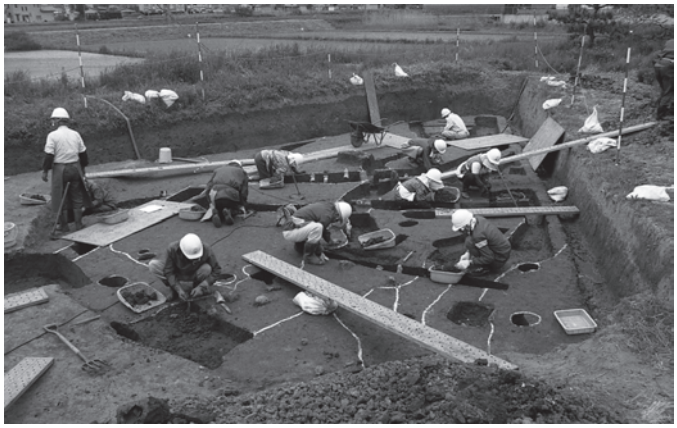
C区SD04
1　黄褐粘質土
　＋暗褐灰色粘質土混入
2　濁褐灰色粘質土
3　暗褐灰色粘質土
　＋鉄分(赤錆)混入
4　3＋濁灰褐色細砂混入

C区SD03・12
1　濁暗褐灰色粘質土
2　1＋明褐灰色粘質土含む
3　濁淡灰粘質土＋黄褐色細砂含む
4　濁暗灰色粘質土＋土器多く含む

C区SD05
1　暗灰褐色粘質土
　＋細砂多く混入(砂っぽい)
2　1＋黄褐色粘土(地山土塊)混入

C区SD06
1　濁褐灰色粘質土
2　1＋黄褐色粘土(地山土塊)混入
3　2より暗い
4　濁暗褐灰色粘質土(黒小豆色)

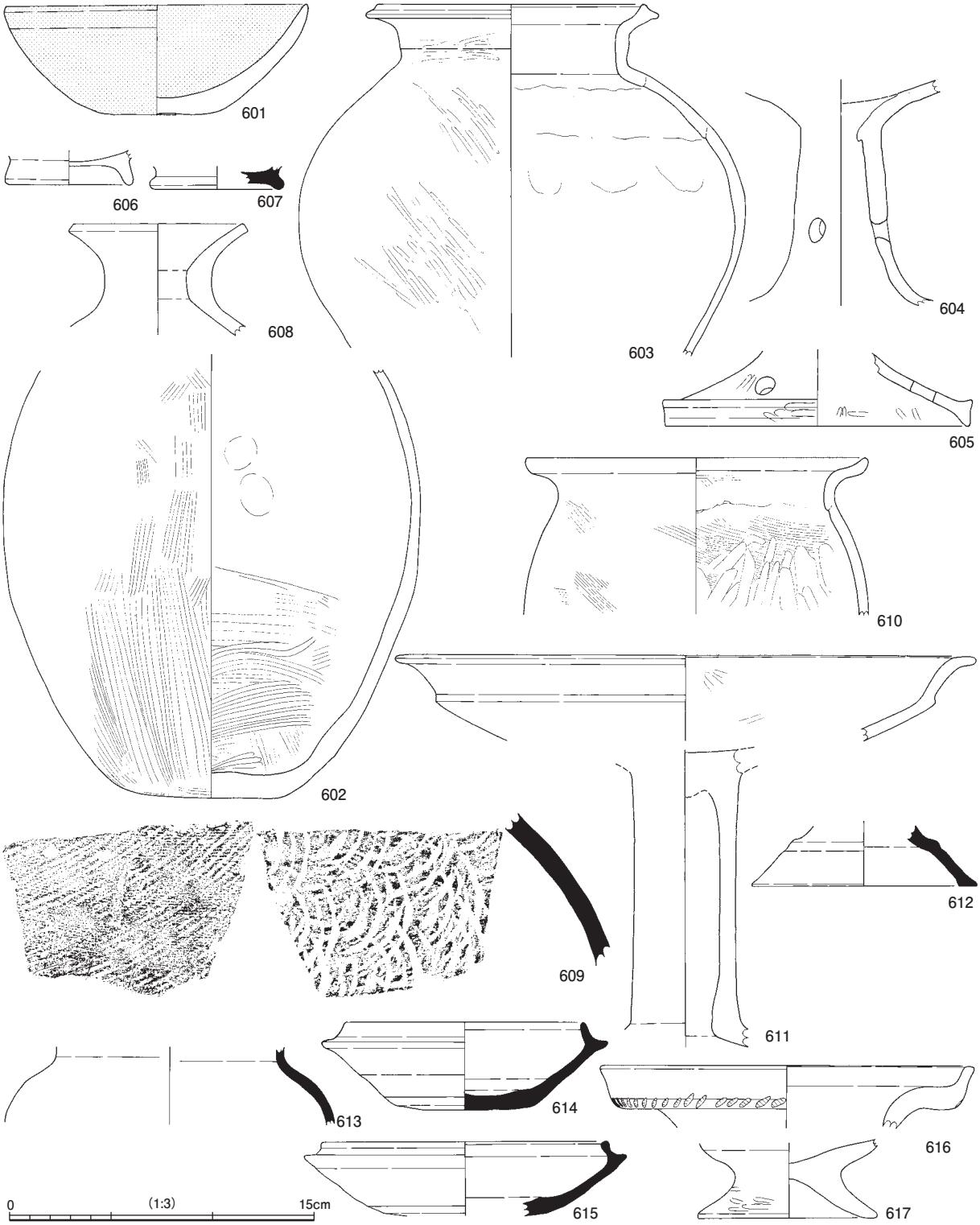
第 49 図　第４次調査遺構図３



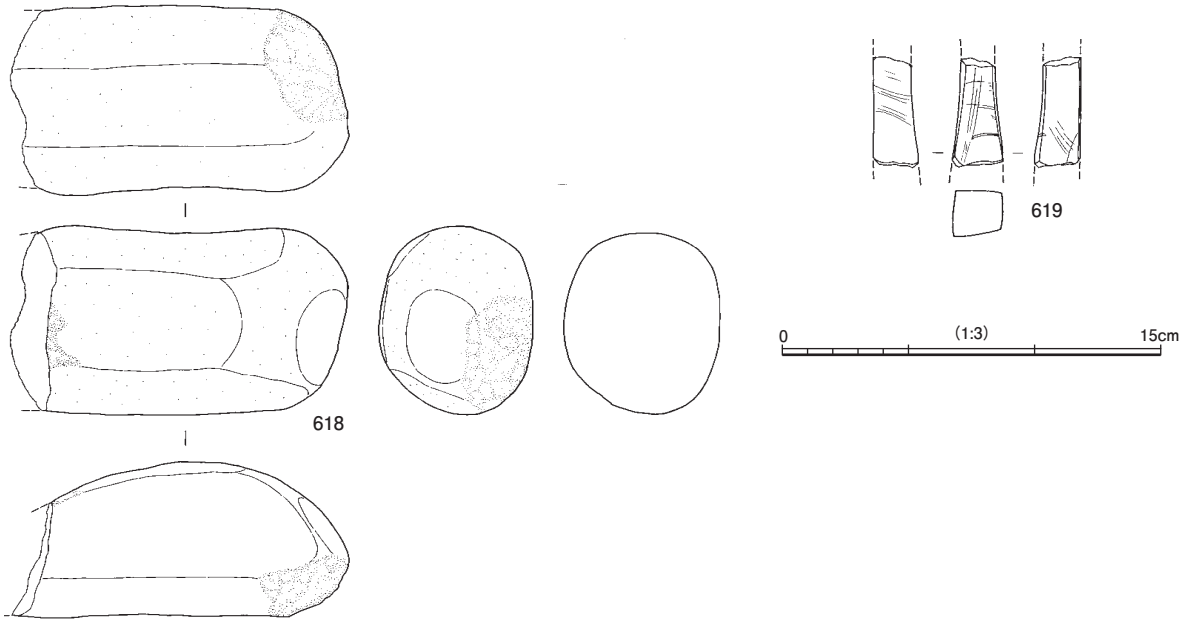
第 50 図　第４次調査作業状況（C区）

Ａ区のＳＤ１０とＢ区のＳＤ０７・０８とは一見すると直線的で連続するように見えたが、出土遺物や溝の幅、深さ及び覆土の色などの違いから、一連のものではないと考えている。

また、溝や遺構外から弥生時代～平安時代のものと考えられる、製塩土器の小片が出土している。細片でどれも図化していないが、付近で製塩作業を行っていた可能性がある。



第 51 図　第４次調査遺物実測図 1



第 52 図　第４次調査遺物実測図２

ＳＤ０１・０２　Ｃ区西側を南北方向から少し西側へ振った方向で流れる溝である。両溝は並走しているが、新旧関係があり、ＳＤ０２の方が時期的に新しい。溝の規模は、ＳＤ０１が幅 40 ～ 80cm、深さ 20cm で、ＳＤ０２が幅 50 ～ 70cm、深さ 15cm である。この切り合う２つの溝は、東側を南北方向に流れるＳＤ０３･１２によって切られる。また、ＳＤ０２からは弥生時代後期の壺と台付鉢(616･617）や古墳時代後期の須恵器坏身が、ＳＤ０１からは須恵器壺（613）が出土していることから、ＳＤ０１・０２共に古墳時代後期以降の溝である。

ＳＤ０３・ＳＤ１２　Ｃ区西側を南北方向に流れる溝で、ＳＤ０１・０２を切る。ＳＤ０３は幅 90cm ～ 150cm、深さ 11 ～ 30cm、延長 6.9 m を確認している。弥生時代後期の遺物を多く含むが、古墳時代後期（６ｃ末～７ｃ初）の須恵器壺や坏身（612・614・615）が出土している。また、ＳＤ０３の底面から、幅 46cm、深さ 26cm の新たな溝を確認し、ＳＤ１２とした。覆土は、暗灰色粘質土で、弥生時代後期の土器片が出土している。

ＳＤ０４　Ｃ区中央部を北東から南西へ流れる幅 60cm、深さ 70cm の溝である。南北方向に流れるＳＤ０３・１２と、調査区東側を南北方向に流れるＳＤ０５により切られている。またＳＤ０４の北側に接する古い溝があり、残存幅 85cm、深さ 25cm の規模である。なお、ＳＤ０４からは須恵器片が出土していることから、古墳時代後期の溝であると推測している。

ＳＤ０５　Ｃ区東側を南北方向に流れる幅 34 ～ 50cm、深さ 30 ～ 40cm の溝で、ＳＤ０４より新しい時期の遺構である。須恵器片が出土している。

ＳＤ０６　Ｃ区東側を北東から南西方向に流れる幅約 90cm、深さ約 40cm の溝である。須恵器片が出土している。

ＳＤ０７・０８　Ｂ区東側を南北方向から少し西側へ振った方向で流れる溝である。両溝は並走しているが、土層の切り合いからはＳＤ０７が新しい時期の遺構である。溝の規模は、ＳＤ０８が幅 55cm、深さ 20cm で、その上に重なるようにして、ＳＤ０７が幅約 2.5 m、深さ 20cm で、ＳＤ０８の上層に乗る部分は深さ約５cm である。出土遺物から時期的な差異は明確にできないが、ＳＤ０７からは、弥生時代後期の器台（608）と平安時代前期の土師器埦（607）が、ＳＤ０８からも同時期の遺物

が出土していることから、ＳＤ０７・０８の２つの溝は平安時代前期頃のものであると推定される。

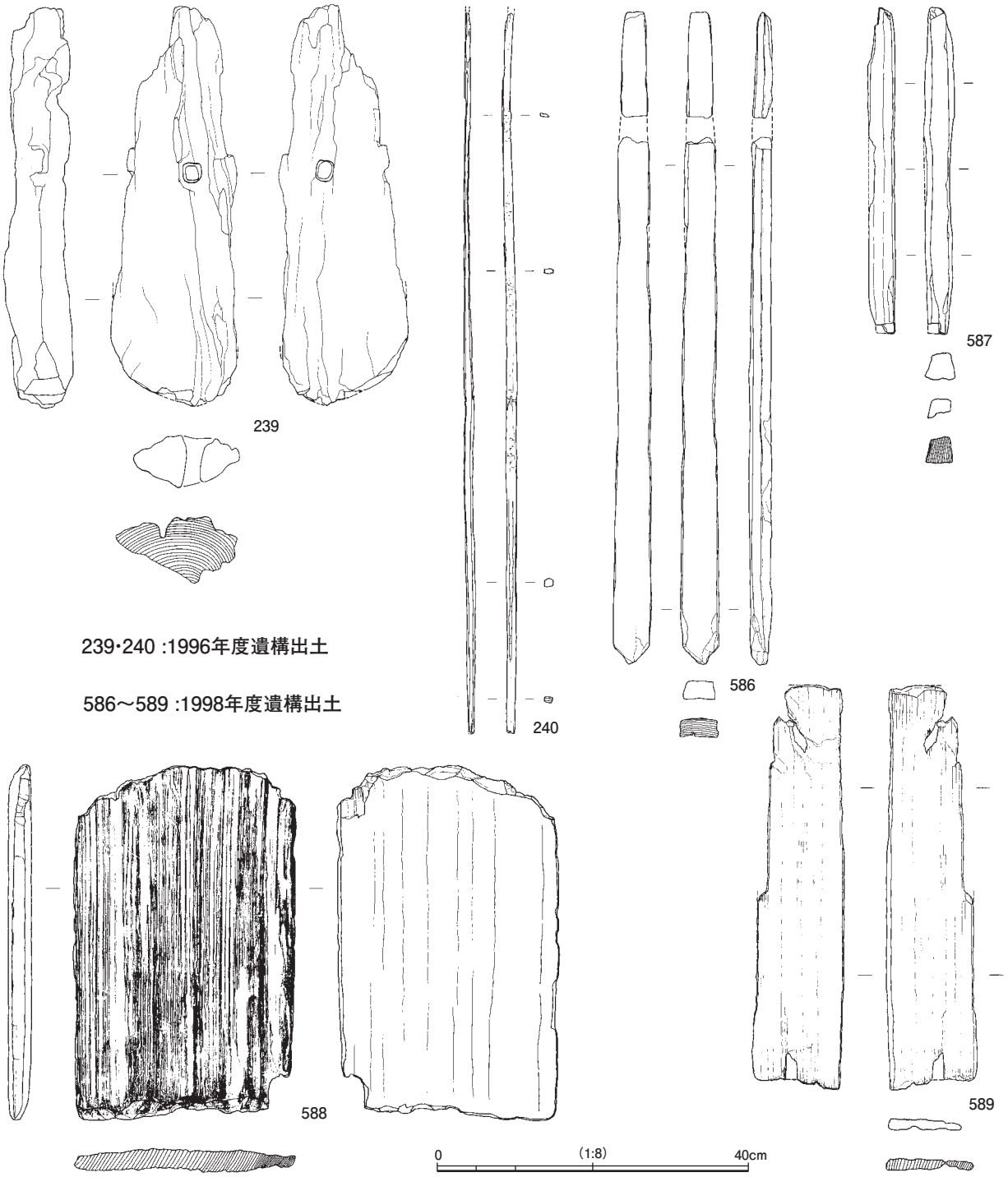
ＳＤ０９　Ａ区南側を東西方向に流れる幅約 50cm、深さ約 30cm の溝で、第３次調査区のＳＤ０３と接続する。第３次調査の所見では、近代以降の御祓川旧河川につながる（切られる）溝である。

ＳＤ１０　Ａ区を南北方向から少し西側へ振った方向で流れる溝である。東西方向に流れるＳＤ１１に切られる幅約 40 ～ 90cm、深さ約 10cm の溝である。６世紀前半頃の須恵器小片が出土している。

ＳＤ１１　Ａ区を東西方向に流れる幅約 1.4 m、深さ約 60cm の溝。第３次調査区のＳＤ０２と接続し、旧河道の下層（弥生時代後期）に合流する。弥生時代後期の土器（603 ～ 605）が多数出土している。

ピット　柱穴、小穴は多数検出しており、遺構番号をつけたものだけで、Ａ区で 39、Ｂ区で 31、Ｃ区で３の合計 73 基確認している。掘立柱建物の柱穴として復元できなかったものも多い。

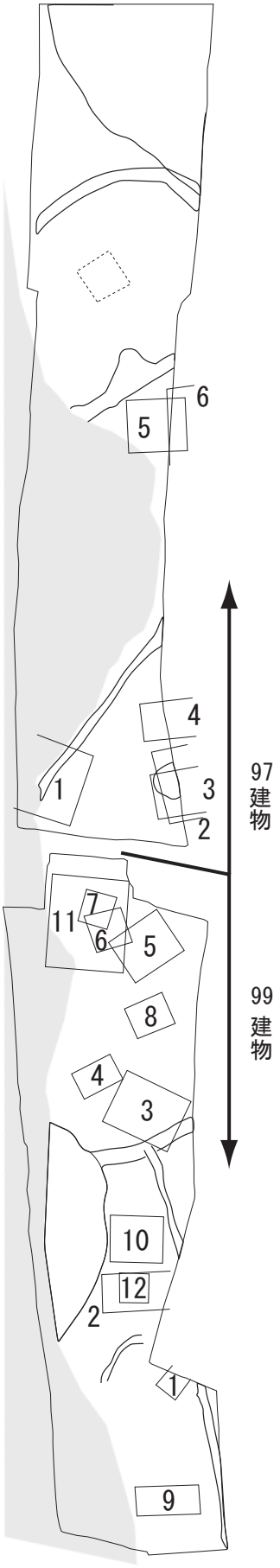
Ｐ３　Ｃ区ＳＤ０６の東側に位置する、直径約 40cm、深さ約 10cm で略円形の浅い小穴。砥石や拳大の自然礫多数と、弥生時代後期後半の甕と柱状の脚部をもつ高坏（610・611）が出土している。


239
240
586
587
588
589
239･240 :1996年度遺構出土
586～589 :1998年度遺構出土
0
(1:8)
40cm

第 53 図　木製品実測図

建物番号	長軸方位	補正方位	推定年代	長辺間数	長辺長（cm）	短辺間数	短辺長（cm）
	柱穴の番号					報告遺物の番号	
97-1	19E	71W	古墳後	4	743	2以上	346
	南区18 20 22 27 29 30					301 303	
97-2	13W	13W	古墳後	3	751		
	南区14 16						
97-3	13W	13W	古墳後	2	457	1以上	228
	南区13 15						
97-4	8W	8W	古墳後	1以上	169	1	407
	南区1 4 9 10					304 309 314	
97-5	3W	3W	中世	2	540	1以上	255
97-6	5W	5W	弥生後	3以上	586		
	北区1 2						
99-1	37E	53W	弥生後	1以上	252	1	252
	99B-26 28						
99-2	3W	3W	中世	3	704	2	395
	99A-34　98-34 35						
99-3	64W	64W	古墳後	3	716	2	575
	99A-41 45 68 69　98-39					601 602 619	
99-4	62E	28W	平安前	2	439	1	286
	98-25						
99-5	56E	24W	平安前	3	616	3	526
	99A-55 56 58 59 60 63 66　98-2 6						
99-6	14W	14W	平安前	2	377	2	377
99-7	16E	74W	古墳後	2	330	2	330
	98-3 4 5 46 47 48						
99-8	68E	22W	平安前	2	406	1	325
	99A-46 47 51　98-12						
99-9	5W	5W	中世	2	640	1	320
	99B-9 12						
99-10	2E	88W	中世	2	540	2	480
99-11	6E	84W	中世	3	925	3	802
	98-42 44 45						
99-12	0	0	中世	2	296	2	296
	32 33 98-32 33						

第１表　建物跡一覧



第 54 図
建物跡の位置

報告番号	出土地点	種別	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	遺存度	その他	実測番号	
1	2号P・1216	須恵器	体部片			(7.1)		焼成並	D	2
2	5溝セクションベルト7P7・1210	弥生	壺	22.5		(9.6)	口縁2/12	焼成良	C	15
3	5溝（西）・1209	弥生	蓋	5.4（つまみ）	11.0	6.6	つまみ11/12 底部3/12	焼成良　外面黒斑あり	C	346
4	5溝（西）・1209	弥生	小型鉢			(7.4)		焼成良　端部なし	C	12
5	5溝（西）・1209	弥生	鉢		9.6	(10.4)	底部3/12	焼成良	C	13
6	5溝（東）・1210	弥生	高坏		12.7	(12.9)	脚部ほぼ完形	焼成良　外面黒斑あり	C	10
7	5溝（東）・1209	弥生	器台	21.5		(5.8)	口縁3/12	焼成良	C	14
8	5溝（東）・1210	弥生	高坏	22.9		(8.4)	坏部6/12	焼成良　外面黒斑あり	C	11
9	5溝セクションベルト7P2・1210　5溝（西）・1209	弥生	高坏か		19.3	(6.3)	脚部6/12	焼成良	C	16
10	4溝A・1122	土師器	椀	13.2		(8.7)	3/12	焼成良	C	171
11	4溝A・1122	土師器	椀	13.6		(5.3)		焼成良　胴径16.1cm	C	361
12	4溝A・1122	土師器	鉢	11.6		7.1	口縁1/12	焼成良	C	49
13	4溝A・1122	土師器	鉢	15.9		(6.6)		焼成良　外面ハケ痕　外面黒斑あり	C	360
14	4溝A・1122	土師器	椀	13.5		5.6	4/12	焼成良　内外面赤彩	C	359
15	4溝A灰層・1104	土師器	椀	14.2		5.2	5/12	焼成良	C	364
16	4溝A・1122	土師器	椀	13.6		4.6	4/12	焼成良	C	169
17	4溝A・1122	土師器	椀	11.8		4.7	口縁11/12	焼成良	C	52
18	4溝A・1122	土師器	高坏	17.6		(4.3)	4/12	焼成良	C	170
19	4溝A・1122	土師器	高坏		9.2	(4.5)	底部7/12	焼成良	C	51
20	4溝A・1122	土師器	器台		11.0	(4.6)	底部10/12	焼成良	C	50
21	4溝A・1122	土師器	甕	16.0		(10.5)	4/12	焼成良　外面スス付着	C	358
22	4溝A・1122	土師器	甕	19.6		(6.0)	3/12	焼成良	C	172
23	4溝（A-1群）P1・1125	土師器	有台　壺	8.4	9.4	14.1	10/12	焼成良	C	85
24	4溝（A-1群）P19・1125	土師器	甕	16.6		(4.3)	3/12	焼成良	C	355
25	4溝（A-1群）P14・1125	土師器	高坏	12.2	9.3	12.7	口縁2/12　底部11/12	焼成良	C	82
26	4溝（A-1群）P2・1125　P8　P16	土師器	高坏	21.8	12.3	13.4		焼成良	C	45
27	4溝（A-1群）P17・1125	土師器	器台			(6.1)	4/12	焼成良	C	356
28	4溝（A-1群）P18・1125	土師器	器台	13.0		(6.8)	5/12	焼成良	C	94
29	4溝（A-1群）P5・1125	土師器	椀	9.4	3.6	6.2	7/12	焼成良　外面スス付着	C	89
30	4溝（A-1群）P4の下・1125	土師器	椀	15.3		(4.5)	2/12	焼成良	C	357
31	4溝（A-1群）P3・1125	土師器	椀	14.3	4.0	5.0	7/12	焼成良	C	87
32	4溝（A-1群）P10・1125	土師器	椀	13.8	6.0	3.5	9/12	焼成良　外面ハクリ	C	95
33	4溝（A-1群）P12・1125	土師器	椀	12.4	3.0	4.4	8/12	焼成良	C	91
34	4溝（A-1群）P1の下・1125	土師器	椀		2.8	(2.6)	5/12	焼成良	C	90
35	4溝（A-1群）P13・1125	土師器	椀	14.2		(4.1)	2/12	焼成良	C	92
36	4溝（A-1群）P15・1125	土師器	椀	15.2		(4.0)	2/12	焼成良	C	88
37	4溝（A-1群）P6・1125	土師器	椀	14.8		(5.4)	口縁12/12	焼成良　外部一部黒斑	C	93
38	4溝（A-1群）P16・1125　4溝A・1122	土師器	高坏	12.7	7.6	8.0	口縁6/12　底部11/12	焼成良　深い割れあり	C	79
39	4溝（A-1群）P14・1125	土師器	高坏		9.4	(6.6)	1/12	焼成良	C	80
40	4溝（A-1群）P11・1125	土師器	高坏	13.4	8.6	8.9	10/12	焼成良	C	86
41	4溝（A-2群）P13・1126	土師器	壺	9.2		16.2	口縁1/12	焼成良　胴径13.8cm	C	141
42	4溝（A-2群）P2・1126	土師器	壺	9.5		(16.9)	口縁完形	焼成良　外面赤彩　胴径15.3cm	C	142
43	4溝（A-2群）・1129	須恵器	坏身	10.6	7.2	4.8	口縁8/12	焼成良　降灰	D	7
44	4溝（A-2群）P10・1126　4溝（A-3群）・1125　4溝（B-北）・1213　4溝（A-南）上層・1114	須恵器	はそう			(11.8)		焼成良　胴径16.4cm	D	6
45	4溝（A-2群）・1125　4溝（A-中南）粘土層・1122	土師器	竈		36.5	(8.8)	4/12	焼成良　外面黒斑あり	C	84
46	4溝（A-2群）P16・1126　4溝（A-中南）粘土層・1122　4溝（A-2群）・1125　4溝（A-2群）P15・1126　4溝（A-3群）・1125	土師器	壺	18.8		(18.1)	口縁12/12	焼成良　外面黒斑	C	96
47	4溝（A-2群）P8・1126	土師器	甕	19.0		(20.3)	8/12	焼成良　外面黒斑	C	35
48	4溝（A-2群）・1125	土師器	甕	19.0		(3.4)	4/12	焼成良	C	354
49	4溝（A-2群）P16・1126　4溝（A-中南）粘土層・1122	土師器	甕	19.8		(13.7)	口縁ほぼ完形	焼成良	C	375
50	4溝（A-2群）P-15・1126　4溝（A-中南）粘土層・1122	土師器	甕		9.5	(24.9)	8/12	焼成良	C	34
51	4溝（A-2群）P6・1126	土師器	高坏	15.8	11.2	11.7	口縁4/12　底部6/12	焼成良　内外面赤彩	C	135
52	4溝（A-2群）P15の下・1126	土師器	高坏	15.5	8.6	9.6	口縁11/12　底部6/12	焼成良　内外面赤彩	C	136
53	4溝（A-2群）P14・1126	土師器	高坏		8.4	(4.5)	底部ほぼ完形	焼成良	C	143
54	4溝（A-2群）P9・1126	土師器	高坏		8.8	(4.9)	底部1/12	焼成良	C	147
55	4溝（A-2群）P12・1126	土師器	高坏	15.0		(6.6)	口縁6/12	焼成良　内外面ハクリ	C	137
56	4溝（A-2群）P14・1126	土師器	高坏	14.9		(5.1)	口縁完形	焼成良	C	138

第2表-1　土器一覧

報告番号	出土地点	種別	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	遺存度	その他	実測番号	
57	４溝（A-2 群）P16・1126	土師器	甕	18.8		(10.2)	口縁 6/12	焼成良　外面スス付着	C	97
58	４溝（A-2 群）P4・1126	土師器	椀	12.3	7.8	5.2	口縁完形　底部完形	焼成良	C	144
59	４溝（A-2 群）P16・1126　P15　P15 下	土師器	椀	13.0	9.8	4.5	口縁 5/12　底部 6/12	焼成良	C	146
60	４溝（A-2 群）・1125	土師器	高坏	14.2		(5.3)	3/12	焼成良	C	353
61	４溝（A-2 群）P12 下・1126	土師器	椀	14.3		5.6	口縁 2/12	焼成良	C	139
62	４溝（A-2 群）P5・1126	土師器	椀	13.6		5.0	口縁 6/12	焼成良	C	145
63	４溝（A-2 群）P3・1126	土師器	椀	14.4		5.5	口縁 7/12	焼成良　内外面ハクリ	C	140
64	４溝 A 南（A-3 群）・1213	土師器	高坏		9.6	(6.2)	底部 7/12	焼成良	C	109
65	４溝（A-3 群）P2・1126　４溝（A- 南）粘土層・1122	土師器	高坏	13.5		(5.8)	坏部 11/12	焼成良	C	106
66	４溝（A-3 群）P4・1126	土師器	椀	12.7	8.7	4.6	ほぼ完形	焼成良	C	104
67	４溝（A-3 群）・1125	土師器	椀	13.6	5.0	5.7	口縁 1/12　底部 6/12	焼成良	C	107
68	４溝（A-3 群）・1125	土師器	椀	11.9		6.4	8/12	焼成良　外面スス付着	C	105
69	４溝（A-3 群）P5 下・1126	土師器	小壺	7.3	5.0	5.2	口縁端部欠損　ほぼ完形	焼成良	C	111
70	４溝（A-3 群）P5・1126	土師器	壺	8.2		14.4	10/12	焼成良	C	112
71	４溝（A-3 群）P7・1126	土師器	壺	9.3		(10.4)	口縁～頸部完形	焼成良	C	110
72	４溝（A-3 群）P3・1126	土師器	壺		8.2	(9.9)	胴部完形	焼成良	C	83
73	４溝（A-3 群）・1125	土師器	甕	19.8		(7.8)	口縁 5/12	焼成良　外面スス付着	C	108
74	４溝（A-3 群）P6・1126	土師器	甕	16.9		(27.9)	11/12	焼成良　内外面スス付着	C	44
75	４溝（A 最北）上層・1115	土師器	甕	20.0		(6.0)	口縁 3/12	焼成良	C	133
76	４溝（A 最北）上層・1115	土師器	甕	14.6		(8.3)	口縁 5/12	焼成良	C	48
77	４溝（A 最北）上層・1115	土師器	甕	17.4		(11.1)	口縁 4/12	焼成良　外面スス付着	C	131
78	４溝（A 最北）上層・1115	土師器	器台			(5.4)		焼成良　内外面赤彩　孔径 1.6～1.7cm	C	363
79	４溝（A 最北）上層・1115	土師器	高坏		8.0	(6.1)	脚部 11/12	焼成良	C	132
80	４溝（A- 北）・1119	須恵器	蓋		11.6	(4.7)		焼成良	D	8
81	４溝（A －北）上層・1114	土師器	壺	19.0		(5.9)	口縁 6/12	焼成並　内面スス付着	C	99
82	４溝（A －北）上層・1115　４溝 A 北（A-1 群）・1129	土師器	甕	13.3		(4.1)	3/12	焼成良	C	81
83	４溝（A －北）上層・1114	土師器	甕	15.6		(10.0)	口縁 6/12	焼成並	C	100
84	４溝（A －北）上層・1114	土師器	甕	20.0		(4.6)	口縁 2/12	焼成並	C	102
85	４溝（A －北）・1113	土師器	内黒椀	14.8	7.5	5.4	ほぼ完形	焼成良　内黒のはみ出しあり	C	134
86	４溝（A －北）上層・1114	土師器	椀	12.8	4.0	4.5	6/12	焼成良	C	113
87	４溝（A －北）上層・1114	土師器	坏	14.7		(4.5)	口縁 3/12	焼成並　黒斑あり	C	103
88	４溝（A －北）上層・1114	土師器	坏	14.1		(4.0)	口縁 1/12	焼成並	C	101
89	４溝（A- 北）上層・1114	土師器	把手					焼成並	D	22
90	４溝（A －北）上層・1115	土師器	高坏		8.8	(4.4)	底部 6/12	焼成並　一部にスス付着	C	98
91	４溝（A- 中北）粘土層・1122	土師器	甑	27.4		(18.6)	口縁 2/12	焼成良	C	47
92	４溝（A －中北）粘土層・1122	土師器	椀	11.4	6.0	4.1	6/12	焼成良	C	115
93	４溝（A －中）粘土層・1122	土師器	器台		10.6	(5.8)	2/12	焼成良	C	168
94	４溝（A －中南）粘土層・1122	土師器	椀	13.8		(4.8)	5/12	焼成良	C	114
95	４溝（A- 南）粘土層・1122	須恵器	蓋		13.0	(3.8)	口縁 1/12	焼成良	D	14
96	４溝（A- 南）粘土層・1122	須恵器	高坏	13.9		(5.8)	口縁 1/12	焼成良　波状文	D	12
97	４溝（A －南）粘土層・1122	土師器	高坏	14.6		(8.2)	4/12	焼成良	C	167
98	４溝（A －南）粘土層・1122	土師器	高坏	14.0	9.6	8.8	4/12	焼成良　坏内部淡橙色　外面～脚内部が黒色化・光沢あり	C	165
99	４溝（A －南）上層・1114	土師器	高坏			(3.3)	4/12	焼成良	C	166
100	４溝（A －南）粘土層・1122　４溝（B- 北）粘土層 1122	土師器	甕	18.2		(7.5)	口縁 4/12	焼成良　外面スス付着	C	151
101	４溝（B-1 群）P2・1108　４溝（B- 北）粘土層、1125	土師器	椀	14.2	5.8	5.2	1/12	焼成良	C	160
102	４溝（B －北）粘土層・1125　４溝（B-1 群）P2 下・1128	土師器	椀	13.5	5.5	5.5	10/12	焼成良	C	58
103	４溝（B-1 群）P4・1128	土師器	椀	13.2		4.9	ほぼ完形	焼成良	C	60
104	４溝（B-1 群）P3・1128	土師器	椀			(5.7)	器高以下完形	焼成良　外面黒斑あり	C	59
105	４溝（B-1 群）P2・1128	土師器	手づくね	7.0	4.3	5.1	底部完形　口縁 1/12 以下	焼成良	C	349
106	４溝（B-1 群）P2・1128	土師器	甕	19.0		(27.2)	口縁 11/12	焼成並　全体にスス付着	C	43
107	４溝（B-1 群）P2・1128	土師器	甕	19.0		(8.3)	口縁 2/12	焼成良　外面スス付着	C	348
108	４溝（B-1 群）P2・1128	土師器	甕	18.0	4.0	27.5	ほぼ完形	焼成並	C	42
109	４溝（B-1 群）P1・1128	土師器	甕	13.6	5.2	17.8	9/12	焼成良　内外面スス付着	C	53
110	４溝（B）上面・1112	土師器	椀	15.3		(5.3)	2/12	焼成良　外面黒斑あり	C	161
111	４溝（B）上面・1112	土師器	小型甕	11.6		(5.7)	3/12	焼成良	C	163
112	４溝（B）上面・1112	土師器	ミニチュア土器	6.9	5.0	4.0	口縁 2/12　底部 7/12	焼成良	C	162
113	４溝（B）灰層・1121	土師器	椀	14.5	5.4	5.6	ほぼ完形（口縁少し欠損）	焼成良	C	55

第２表 -2　土器一覧

報告番号	出土地点	種別	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	遺存度	その他	実測番号	
114	4溝（B）灰層・1121	土師器	内黒椀	12.2	5.5	6.1	口縁8/12 底部完形	焼成良	C	54
115	4溝（B）灰層・1121	弥生	壺	9.6		(8.7)	口縁～頸部完形	焼成良　外面にヘラ状工具の痕	C	56
116	4溝（BC）SB内・1213	土師器	高坏	15.5		(6.2)	口縁4/12	焼成良	C	57
117	4溝・1122	弥生	壺	16.4		(4.8)	口縁3/12	焼成良	C	116
118	4溝（B-北）粘土層・1125	須恵器	坏身	13.0	7.8	4.6	口縁1/12　底部5/12	焼成良	D	11
119	4溝（B-北）上層・1114	須恵器	高坏		9.6	(4.6)	底部5/12	焼成良　透かし3ヶ所	D	13
120	4溝（B-北）上層・1114	土師器	椀	13.7	9.3	5.5	口縁3/12　底部8/12	焼成並	C	120
121	4溝（B-北）粘土層・1126	土師器	椀	14.3	7.4	4.6	口縁3/12	焼成良	C	153
122	4溝（B-北）・1213	土師器	椀	14.0	5.6	6.2	口縁3/12　底部ほぼ完形	焼成並　外面スス付着	C	74
123	4溝（B-北）・1213	土師器	椀	15.0	7.3	5.5	口縁2/12　底部6/12	焼成並	C	75
124	4溝（B-北）炭化層・1212	土師器	椀	15.2		5.2	9/12	焼成良　外面黒斑あり	C	71
125	4溝（B-北）・1213	土師器	高坏		8.3	(4.4)	裾部5/12	焼成良	C	77
126	4溝（B-北）粘土層・1125　4溝（B-中）粘土層・1125	土師器	高坏		8.8	(7.7)	4/12	焼成良	C	155
127	4溝（B-北）粘土層・1119	土師器	高坏		11.4	6.0	脚部6/12	焼成良	C	148
128	4溝（B-北）・1213	土師器	高坏		10.2	(5.5)	底部ほぼ完形	焼成並	C	76
129	4溝（B-北）粘土層・1125	土師器	手づくね	5.0	3.0	4.9		焼成並　外面一部にスス付着	D	23
130	4溝（B-北）粘土層・1125	土師器	手づくね	4.6	3.6	4.0	口縁6/12　底部6/12	焼成並	D	24
131	4溝（B-北）上層・1114	土師器	高坏			(5.3)			C	123
132	4溝（B-北）粘土層・1125	土師器	高坏	26.2		7.6	口縁2/12	焼成並	C	119
133	4溝（B-北）粘土層・1125	土師器	鉢			9.0		焼成並	C	118
134	4溝（B-北）粘土層・1125	土師器	甕	16.0		(4.8)	口縁1/12	焼成並	C	121
135	4溝（B-北）・1213	土師器	甕	18.0		(7.8)	口縁4/12	焼成並	C	122
136	4溝（B-北）粘土層・1125	土師器	甕		3.6	(14.3)	底部5/12	焼成並　外面スス付着　外面比熱によるハクリ	C	117
137	4溝（B-北）粘土層・1122	土師器	甕	20.6		(7.2)	口縁3/12	焼成良　外面スス付着	C	154
138	4溝（B-北）粘土層・1126	土師器	甕	21.0		(8.2)	口縁2/12	焼成良	C	149
139	4溝（B-北）・1213	土師器	甕	20.1		(5.4)	口縁3/12	焼成良　外面スス付着	C	78
140	4溝（B-中）粘土層・1125	土師器	甕	16.8		(4.0)	2/12	焼成良　外面スス付着	C	164
141	4溝（B-中）粘土層・1125	土師器	小型甕	10.8		(7.7)	2/12	焼成良　外面ススわずかに付着	C	157
142	4溝（B-中）粘土層・1115	土師器	小型椀	7.9	3.8	4.6	口縁2/12　底部3/12	焼成良	C	159
143	4溝（B-中）粘土層・1125　4溝（B-北）上層、1114	土師器	椀	16.5		(6.6)	2/12	焼成良　外面ヒビあり調整が雑外面黒斑あり	C	158
144	4溝（B-中）粘土層・1125	土師器	椀	13.3		5.0	3/12	焼成良	C	156
145	4溝（B-中）粘土層・1126	土師器	椀	14.5		4.2	口縁1/12以下 底部5/12	焼成良	C	152
146	4溝（B南）粘土層・1125	土師器	甕	21.6		31.1	口縁5/12	焼成良　胴径28.3cm　外面スス付着	C	36
147	4溝（B-南）粘土層・1125	土師器	甕	13.5		(11.5)	1/12	焼成良　外面スス付着	C	73
148	4溝（B-南）粘土層・1125	土師器	ミニチュア土器（甕）	4.4	3.0	6.2	口縁1/12 底部完形	焼成良	D	19
149	4溝（B-南）粘土層・1125	土師器	手づくね	4.6	3.8	4.5	口縁6/12 底部完形	焼成良　底部楕円（短い径3.0cm）　外面黒斑あり	D	20
150	4溝（B-南）粘土層・1125	土師器	ミニチュア土器（椀）	6.6	2.6	5.4	口縁7/12 底部完形	焼成良好　内面工具痕あり	D	21
151	4溝（B-南）粘土層・1216	土師器	椀	12.8	3.3	5.5	6/12	焼成良	C	150
152	4溝（B-南）粘土層・1125	土師器	椀	13.7		5.5	11/12	焼成良	C	72
153	4溝（C-北）上層・1114	須恵器	蓋	13.8		4.6	口縁10/12	焼成良	D	5
154	4溝（C-北）・1121	須恵器	坏身	12.2	8.2	4.9	口縁6/12　底部11/12	焼成良	D	4
155	4溝（C-北）上層・1114	土師器	内黒椀	17.0		(5.8)	口縁1/12	焼成良	C	350
156	4溝（C-北）上層・1114	土師器	椀	16.0		(4.8)	口縁1/12	焼成良	C	67
157	4溝（C-北）・1112	土師器	椀	13.4		4.3	口縁1/12	焼成良	C	69
158	4溝（C-北）上層・1114	土師器	椀	13.8		5.0	口縁1/12	焼成良	C	68
159	4溝（C-北）・1212	土師器	壺			(9.3)	底部完形	焼成良	C	66
160	4溝（C-北）・1212	土師器	高坏	19.8	11.4	13.3	口縁5/12　底部完形	焼成良　ゆがみあり	C	65
161	4溝（C-北）・1121	土師器	高坏		9.6	(6.5)	底部7/12	焼成良	C	70
162	4溝（C-北）上層・1114	土師器	椀	9.1	5.0	5.3	口縁2/12　底部6/12	焼成良	D	18
163	4溝（C-北）・1121	土師器	小型壺	5.2		(5.0)	口縁6/12	焼成良	D	60
164	4溝（C-南）上層・1114　4溝（C-北）上層、1114	土師器	椀	13.6		7.9	2/12	焼成良	C	129
165	4溝（C-南）上層・1115、1120	土師器	椀	13.0		5.4	4/12	焼成良	C	124
166	4溝（C-南）上層・1114	土師器	高坏		8.1	(3.7)	6/12	焼成良	C	130
167	4溝（C-南）上層・1114	土師器	手づくね	5.1	3.8	6.8	口縁8/12　底部完形	焼成良　裏底は器面ハクリ	C	127
168	4溝（C-南）・1114	土師器	甑	24.0		(8.0)	2/12	焼成良　内面黒色化している	C	126

第2表-3　土器一覧

報告番号	出土地点	種別	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	遺存度	その他	実測番号	
169	４溝（C- 南）上層・1114	土師器	甕	14.8		(5.3)	3/12	焼成良	C	128
170	４溝（C）・1126	土師器	甕			(21.3)		焼成良　胴径 26.7cm	C	125
171	４溝（D）上層・1127	須恵器	坏身	12.4		(2.8)	口縁 2/12	焼成良	D	10
172	４溝（D）上層・1128　４溝（C- 北）・1121	須恵器	坏身	11.6		(2.9)	口縁 2/12	焼成良	D	9
173	４溝（D）上層・1128	土師器	椀	13.9	7.0	5.4	10/12	焼成良	C	61
174	４溝（D）上層・1128	土師器	椀	14.0		4.1	3/12	焼成良	C	64
175	４溝（D）上層・1128	土師器	甕	21.6		(11.4)	4/12	焼成良	C	62
176	４溝（D）上層・1128	土師器	甕			(22.9)		焼成良　内外面黒斑あり　胴径24.3cm	C	174
177	４溝（D-1 群）P3・1129	土師器	椀	13.6	8.0	5.0	口縁・底部完形	焼成良	C	181
178	４溝（D）上層・1128　４溝（D-1 群）P1・1129	土師器	椀	14.5		5.7	口縁 11/12	焼成良	C	179
179	４溝（D-1 群）P2・1203	土師器	壺	12.5		15.5	11/12	焼成良　内面コゲ付着	C	183
180	４溝（D-1 群）P4・1203	土師器	甕	17.7		27.6	口縁完形　全体11/12	焼成良　臼玉伴出	C	46
181	４溝（D-1 群）・1129　　４溝（D- 中）炭化層・1129	須恵器	甕			(5.6)		焼成良	D	15
182	４溝（D-2 群）P1・1203	土師器	椀	14.4		6.0	口縁 4/12	焼成良	C	180
183	４溝（D-2 群）P4・1203	土師器	高坏	14.2	9.6	9.0	口縁4/12　底部1/12	焼成良	C	186
184	４溝（D-2 群）P2・1203	土師器	壺	16.4		(7.2)	口縁完形	焼成良	C	185
185	４溝（D-2 群）P3・1203	土師器	有台鉢	12.5	(8.0)	11.1	口縁 10/12	焼成良	C	182
186	４溝（D- 中）炭化層・1129	土師器	壺			(5.0)		焼成良　胴径 13.6cm	C	178
187	４溝（D- 中）炭化層・1124	土師器	椀	12.0		4.6	11/12	焼成良　内外面黒斑あり	C	175
188	４溝（D- 中）炭化層・1129	土師器	椀	14.7		(4.2)	2/12	焼成良	C	177
189	４溝（D- 中）炭化層・1129	土師器	甕	18.8		(5.6)	2/12	焼成良	C	176
190	４溝（D- 中）・1129　（E）上層・1128　（E-1 北）・1129	土師器	甕	18.3		(5.9)	口縁 6/12	焼成良	C	22
191	４溝（D- 中）・1129	土師器	甕	19.4		(5.2)	口縁 3/12	焼成良	C	347
192	４溝（D- 中）・1129	土師器	甕	17.0		(9.3)	口縁 5/12	焼成良	C	184
193	４溝（D- 中）炭化層・1129　４溝（D-1 群）・1129	土師器	甕	18.6		22.7	5/12	焼成良　細かい破片多い	C	63
194	４溝（D- 中）・1129	土師器	甕			(3.8)		焼成良　内面黒斑あり	C	173
195	４溝（E）上層・1127	須恵器	坏身	11.0	3.6	4.8	口縁1/12　底部11/12	焼成並	D	3
196	４溝（E）上層・1127	土師器	椀	13.9		5.8	口縁4/12　底部完形	焼成良　外面黒斑あり　ゆがみあり	C	18
197	４溝（E）上層・1127	土師器	椀	11.2	6.9	5.6	11/12	焼成良	C	19
198	４溝（E）上層・1128	土師器	椀	13.9		4.7		焼成良	C	20
199	４溝（E）上層・1127	土師器	高坏	15.6	7.8	8.1	口縁5/12　底部8/12	焼成良	C	17
200	４溝（E）上層・1128	弥生	甕	12.2		(5.6)	口縁 4/12	焼成良	C	23
201	４溝（E）・1129	弥生	甕	17.2		(7.0)		焼成良　外面スス付着	C	24
202	４溝（E）上層・1128	弥生	甕	14.1		(6.3)	口縁 7/12	焼成良	C	21
203	４溝（E-1 南）・1129	須恵器	蓋		13.4	(4.0)	口縁 1/12	焼成並	D	16
204	４溝（E-1 南）・1129	須恵器	坏身	13.0		(4.2)	口縁 1/12	焼成並	D	17
205	４溝（E-1・北）・1129	土師器	椀	14.9		7.1	6/12	焼成良	C	28
206	４溝（E-1・南）・1129	土師器	椀	14.7		(4.2)	口縁 4/12	焼成良	C	33
207	４溝（E-1 群）P8・1204	土師器	椀	13.0	5.0	4.5	3/12	焼成良	C	4
208	４溝（E-1 群）P4・1204	土師器	椀	14.1	8.5	5.1	4/12	焼成良　外面黒斑あり	C	2
209	４溝（E-1・南）・1129	土師器	椀	13.1	10.5	3.7	10/12	焼成良	C	32
210	４溝（E-1・北）・1129	土師器	椀	13.4		(3.7)	口縁 3/12	焼成良	C	31
211	４溝（E-1 群）P3・1204	土師器	高坏		9.0	(4.6)	3/12	焼成良	C	7
212	４溝（E-1 群）P11、P12・1204	土師器	高坏	13.3	9.9	10.4	11/12	焼成良　ゆがみあり	C	39
213	４溝（E-1 群）P6・1204	土師器	高坏	17.6	10.9	10.7	口縁6/12　底部ほぼ完形	焼成良	C	1
214	４溝（E-1・北）・1129	土師器	高坏		13.3	(9.8)	裾部 4/12	焼成良	C	30
215	４溝（E-1・南）・1129	土師器	甕	20.4		(18.5)	口縁 5/12	焼成良　外面スス付着	C	29
216	４溝（E-1 群）P10・1204	土師器	甕	18.9		(13.2)	口縁完形　他4/12	焼成良　ゆがみあり	C	9
217	４溝（E-1 群）P11、12・1204	土師器	甕	20.0		32.4	口縁 4/12	焼成良　胴径 24.3cm　内面炭化物付着　外面スス付着	C	40
218	４溝（E-1 群）P1・1204	土師器	甕	16.6		(7.2)	4/12	焼成良　外面スス付着	C	6
219	４溝（E-1 群）P12・1204　４溝（D）上層・1128　４溝（E）・1129　４溝（E- 南）・1129	土師器	甕	17.6		30.0	口縁 3/12 全体 9/12	焼成良　内面底部コゲ　外面底部被熱　外面スス付着	C	41
220	４溝（E-1 群）P5・1204　４溝（E-1 群）P12・1204	土師器	甕	14.8	7.0	12.8	口縁6/12　底部6/12	焼成並　外面スス付着	C	38
221	４溝（E-1 群）P7・1204	土師器	甕			(4.9)		焼成並　外面黒斑あり	C	5
222	４溝（E-1 群）P9・1204	土師器	甕	14.4		19.5	口縁 7/12	焼成良　外面スス付着　胴径 18.0cm	C	3
223	４溝（E-1 群）P12・1204	土師器	壺	17.3	8.3	32.5	口縁11/12　底部ほぼ完	焼成良　胴径 28.7cm　外面黒斑あり	C	37
224	４溝（E-3 群）P1、P2、P3・1211　（E-1 南）・1129	土師器	甕	20.0		(17.1)	口縁 6/12	焼成良	C	27
225	４溝（E-3 群）P3・1211	土師器	甕	16.4		(15.0)	口縁 11/12	焼成良　ゆがみあり　胴径 19.7cm	C	25

第２表 -4　土器一覧

報告番号	出土地点	種別	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	遺存度	その他	実測番号	
226	4 溝（E-3 群）P1・1211	土師器	埦	13.5	7.1	5.8	ほぼ完形	焼成良　外面黒斑あり	C	26
227	4 溝（F- 南）上層・1114	土師器	内黒埦	12.6	4.0	6.0	口縁 1/12	焼成並	C	352
228	包含層・1031	弥生	高坏			(6.6)		焼成良　孔 3 ヶ所	C	351
229	包含層・1031	土師器	ミニチュア土器	3.6	2.8	(3.4)	口縁 1/12 底部 6/12	焼成良　外面黒斑あり	C	8'
230	包含層・1031	土師器	竈		32.0	(8.5)		焼成良	C	8
231	包・1021-25	珠洲焼	壺		19.4	(6.6)		内外面一部粗砂多く付着	D	1
301	南区 22 号 Pit・1104	須恵器	蓋	約 16.0		(2.8)	1/12	焼成良　重ね焼き痕あり	D	28
302	南東包含層・1024	須恵器	坏身			(3.2)		焼成やや不良	D	31
303	南区 27 号 Pit・1104	土師器	埦	10.7		(4.0)	口縁 2/12		D	51
304	南区 1 号 Pit・1027	土師器	高坏	16.6	8.2	10.2	坏部3/12　底部完形	焼成並	C	200
305	北区 SD-05・1106	土師器	高坏			(6.0)		焼成良	C	238
306	南区 8 号 Pit・1104	土師器	蓋	3.3（つまみ）		(2.2)	つまみ 8/12	焼成良　一部に赤い色素（赤彩？）残る	D	33
307	南区東側壁面・1127	土師器	高坏			(4.2)		焼成良　孔 4 ヶ所	D	32
308	南区 SK-01・1028	土師器	小型壺			(5.3)	胴部のみ完形	焼成良　胴径 7.0cm　外面黒斑あり	C	196
309	南区 10 号 Pit・1104	弥生	壺か		2.9	(4.1)	底部完形	焼成良　外面に赤い色素わずかに残る	C	198
310	南区 8 号 Pit・1104	土師器	甕	18.0		(4.1)	口縁 2/12	焼成良　外面黒斑あり	C	199
311	北区 SD04・1106	須恵器	壺			(4.6)		焼成良　降灰	D	27
312	南区 SK-01・1029	弥生	甕	13.4		(8.2)	口縁 1/12	焼成良	C	239
313	南区 SK-01・1029	弥生	甕	約 24.0		(9.7)	口縁 1/12	焼成やや不良	C	197
314	南区 4 号 Pit・1104	弥生	甕	17.3		(3.9)	口縁 2/12	焼成良	C	315
315	SD04・1106	珠洲焼	片口鉢		8.6	(6.2)	底部 3/12	焼成良	D	26
401	6ESD02・1028	弥生	壺	10.5		(13.2)	口縁 4/12	焼成良　外面黒斑あり	C	195
402	6ESD02・1028	弥生	壺		8.6	(8.2)	底部 7/12	焼成良	C	194
403	6ESD02・1028　7W 河上層・1027	弥生	甕	17.4		(7.7)	口縁 2/12	焼成良　外面黒斑あり	C	365
404	3EP10・1030	弥生	甕	22.1		(4.5)	1/12	焼成良　外面黒斑あり	C	362
405	3EP14・1030	土師器	高坏	14.9		(4.0)	1/12	焼成良	C	191
406	0W P44・1210	土師器	（脚台）			(4.2)		焼成良　くびれ径 5.4cm	C	193
407	0W P43・1210	弥生	壺			(6.2)		焼成良　外面スス付着	C	192
408	10WP36・1124	土師器	甑			(8.5)		焼成良　胴径 19.2cm	C	190
409	旧河 6W 上層・1029	須恵器	蓋		13.5	5.1	口縁 6/12	焼成良	D	30
410	旧河 7W 上層・1116	須恵器	蓋		13.3	4.8	口縁 6/12	焼成良	D	25
411	河 7W 上層・1102	須恵器	蓋			(3.0)		焼成良	D	40
412	6W 河上層・1029	須恵器	蓋		14.4	(4.4)	2/12	焼成良	D	35
413	7W 河上層・1028	須恵器	蓋		15.0	(3.5)	口縁 1/12	焼成良	D	41
414	6W 河上層・1029	須恵器	坏身	12.1		(3.3)		焼成良好　降灰	D	36
415	旧河 9W 上層・1105	須恵器	坏身	12.8		(3.3)	口縁 3/12	焼成良	D	47
416	旧河 8W 上層・1105　8W 河道段割・1021	須恵器	高坏	13.6	15.8	16.4	口縁2/12　底部2/12	焼成やや不良　透かし穴 2 ヶ所	D	44
417	8W 河上層・1102	須恵器	坏身	10.2	6.3	3.2	口縁6/12　底部6/12	焼成良　降灰　口縁ゆがみあり	D	38
418	旧河 8W 上層・1105	須恵器	壺	12.0		16.9	口縁 2/12	焼成良　降灰　胎土は内面セピア色、外面青灰を呈する	D	46
419	旧河道 8W 検出面・1020　旧河 6W 上層・1105	須恵器	壺			(6.7)		焼成良　降灰　胴径 13.6cm	D	59
420	旧河 7W 上層・1130　河 8W 上層・1102　旧河道 8W 検出面・1020	須恵器	壺（短頸）	8.8		13.0	口縁 1/12	焼成良　降灰	D	42
421	旧河 9W 上層・1106	須恵器	甕	25.8		(4.7)		焼成良　降灰	D	48
422	9W 河上層・1102　8W 検出面（旧河道）・1020　旧河 8W 上層・1105　旧河あぜ上層・1210　8W 河上層・1102　8W 河道断割・1021	須恵器	甕			(40.6)	3/12	還元不良　頸径 15.6cm	D	37
423	6W 河上層・1029	須恵器	甕			(34.0)		焼成良　胴径 43.0cm　底部付近のタタキすり消されている	D	34
424	旧河 8W 上層・1102	土師器	手づくね	5.8	3.8	3.5	完形	焼成良	D	39
425	旧河道 8W 検出面・1020	土師器	手づくね	4.0	2.8	4.1	底部完形	焼成良	D	49
426	8W 河上層・1102	土師器	手づくね	4.6	3.4	4.7	10/12（底抜け）	焼成良	D	43
427	旧河 6W 上層・1029	土師器	手づくね	6.1	3.2	5.8	口縁 11/12　底部完形	焼成良	C	204
428	7W 旧河上層・1104	土師器	製塩土器		5.0	(3.0)	底部完形	焼成並	C	369
429	旧河 10W 上層・1106	土師器	小型甕			(5.4)		焼成良　外面黒斑あり　胴径8.4cm	C	300
430	9W 検出面（旧河道）・1020	土師器	小型甕	7.7	4.7	7.7	1/12	焼成良　外面黒斑あり	C	303
431	7W 河上層・1102	土師器	壺		6.5	(5.8)	底部完形	焼成良	C	244
432	8E 旧河道上層・1105	土師器	高坏		11.0	(8.5)	底部 7/12	焼成並　孔 3 ヶ所	C	314
433	旧河 8W 上層・1104	土師器	埦	12.9	8.6	4.2	口縁2/12　底部4/12	焼成良　外面に葉脈？	C	279
434	旧河 9W 上層・1106	土師器	甑把手			(8.4)		焼成良	D	45

第２表 -5　土器一覧

報告番号	出土地点	種別	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	遺存度	その他	実測番号	
435	旧河 6W 上層・1029	土師器	把手					焼成良	D	29
436	旧河 9W 上層・1105	土師器	甕	19.8		20.2	口縁 5/12	焼成良　外面一部にスス付着	C	304
437	8W 河上層・1102	土師器	甕	15.4～15.9		20.2	口縁 11/12	焼成良　口縁ゆがみ著しい	C	325
438	旧河 8W 上層・1104	土師器	甕	18.9		(27.3)	口縁 1/12	焼成良	C	280
439	旧河 8W 上層・1106　8W 河上層・1102	土師器	甕	19.6		(10.5)	口縁 3/12	焼成良	C	319
440	旧河 7W 上層・1030	土師器	甕	10.8		14.4	口縁 7/12	焼成良　外面黒斑あり	C	230
441	旧河 7W 上層・1030	土師器	甕	17.8		(6.5)	口縁～頸部 3/12	焼成良	C	231
442	旧河 7W 上層・1104	土師器	甕	14.8		(8.8)	3/12	焼成良	C	237
443	8E 旧河上層・1105	土師器	甕	15.6		(3.5)	口縁 3/12	焼成並	C	316
444	8E 河上層・1102	弥生	甕	19.4		(4.3)	口縁 4/12	焼成良	C	270
445	8E 河上層・1102	土師器	甕	20.0		(6.0)	口縁 4/12	焼成良	C	269
446	7W 河上層・1028	土師器	甕	21.7		(6.2)	口縁 3/12	焼成良	C	245
447	旧河 7W 上層・1104	土師器	甕	24.2		(7.8)	口縁 2/12	焼成並　一部黒褐色	C	241
448	8W 旧河 E-W あぜ上層・1210	土師器	甕	23.3		(12.0)	口縁 5/12（接点なし 2/12）	焼成良　同一個体と見られる破片多くあり	C	281
449	旧河 8W 上層・1105	土師器	甕	20.4		(8.8)	口縁 1/12	焼成良	C	318
450	旧河 9W 上層・1105	土師器	甑		12.6	(9.3)	口縁 6/12	焼成並　孔２ヶ所	C	311
451	8W 河上層・1102　旧河 8W 上層・1104	土師器	竈	26.3		(9.5)	口縁 1/12	焼成良	C	277
452	8W 河上層・1102	土師器	竈			(4.1)	1/12	焼成良	C	271
453	国分 98（3）旧河 9W 上層・1106	土師器	竈		約 45.0	(8.4)		焼成良	C	374
454	旧河 8W 上層・1105	土師器	椀	14.5		(5.5)	口縁 5/12	焼成良	C	320
455	8W 河上層・1102	土師器	椀	15.0		(5.0)	2/12	焼成良　内面赤彩	C	273
456	8E 河上層・1102	土師器	椀	15.0		5.1	口縁 5/12	焼成良	C	262
457	旧河 7W 上層・1104	土師器	椀	14.2		(5.5)	5/12	焼成良	C	236
458	旧河 6W 上層・1029	土師器	椀	15.2		5.9	口縁 6/12	焼成良　外面赤彩	C	203
459	旧河上層 7W 北側断割あぜ・1116	土師器	椀	14.8	6.0	5.6	6/12	焼成良	C	189
460	7W 旧河北断割内・1116	土師器	椀	15.0		6.0	9/12	焼成良	C	232
461	8W 河上層・1102	土師器	椀	15.4	5.6	5.1	3/12	焼成良	C	272
462	旧河 6W 上層・1029	土師器	椀	15.2		5.4	口縁 6/12	焼成良	C	201
463	6W 河上層・1027	土師器	椀	12.0		4.6	口縁 11/12	焼成良	C	247
464	7W 河上層・1028	土師器	椀	12.6	6.0	4.2	口縁 1/12　底部 3/12	焼成良	C	246
465	旧河 6W 上層・1029	土師器	椀	11.8		4.2	口縁 1/12	焼成良	C	202
466	旧河 E-W あぜ 1 層・1210	土師器	椀	13.3		(4.9)	口縁 1/12	焼成良	C	283
467	河上層・1029	土師器	椀	14.4	5.0	5.3	2/12	焼成良	C	254
468	旧河 7W 上層・1030	土師器	椀	13.8	4.0	5.6		焼成良	C	228
469	旧河 7W 上層（断割あぜ内）・1116	土師器	椀	14.0	3.8	6.1	10/12	焼成良　成形時の接合痕あり	C	187
470	6W 河上層・1027	土師器	椀	15.0		5.8	口縁 3/12	焼成良	C	249
471	旧河 6W 上層・1104	土師器	椀	15.0		(4.1)	口縁 4/12	焼成良	C	275
472	8W 河上層・1102	土師器	高坏	15.7		(5.9)	6/12	焼成良	C	265
473	旧河 7W 上層・1116	土師器	内黒椀	14.6	6.0	4.9	4/12	焼成良	C	188
474	7W 河上層・1102	土師器	内黒有台椀	14.7	9.9	8.2	口縁 1/12　脚部完形	焼成良　内黒　内黒がはみ出している	C	240
475	7W 河上層・1102	土師器	有台椀	13.0	7.9	7.2	11/12（ほぼ完形）	焼成良	C	243
476	6W 河上層・1027	土師器	有台椀か		8.2	(7.2)	底部完形	焼成良	C	248
477	旧河 7W 上層・1104　旧河 7W 上層北断割・1116	土師器	有台椀	15.2		(6.8)	坏部 8/12	焼成良	C	235
478	旧河 7W 上層・1030	土師器	（脚台）		9.0	(4.3)		焼成良	C	229
479	8W 旧河 E-W あぜ上層・1210	土師器	有台椀か		9.3	(3.5)	底部 10/12	焼成良　ゆがみあり	C	285
480	旧河 10W 上層・1106	土師器	高坏		10.3	(4.3)	8/12	焼成良	C	299
481	8W 河上層・1102	土師器	有台椀か		10.4	(7.0)	底部 6/12	焼成良　内黒	C	274
482	旧河 10W 上層・1106	弥生	蓋	2.7（つまみ）		(3.7)		焼成良　外面赤彩	C	345
483	旧河 10W 上層・1106	弥生	蓋	2.9（つまみ）	13.6	4.6	3/12	焼成良	C	301
484	9W 河上層・1109	弥生	蓋	3.5（つまみ）	15.1	6.1	つまみ 11/12　底部 2/12	焼成良	C	256
485	旧河 9W 上層・1105	弥生	壺			(10.7)		焼成良　外面赤彩　胴径 16.9cm	C	307
486	旧河 8W 上層・1106	弥生	壺	12.6		(5.9)	3/12	焼成良　外面黒斑あり	C	276
487	旧河 9W 上層・1105	弥生	壺	14.1	4.8	21.2	口縁 11/12　底部 11/12	焼成良　ゆがみあり	C	306
488	8W 旧河 E-W あぜ上層・1210	弥生	壺	10.8		(5.4)	口縁 5/12	焼成良	C	282
489	旧河 10W 上層・1106	弥生	鉢	約 28.0		(8.5)	1/12	焼成良	C	302
490	6E 河上層・1027	弥生	甕	13.3	2.1	12.1	口縁 5/12　底部完形	焼成良　外面スス付着	C	253

第２表 -6　土器一覧

報告番号	出土地点	種別	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	遺存度	その他	実測番号	
491	旧河 10W 上層・1106	弥生	甕	18.7		(4.4)	2/12	焼成良　外面黒斑あり	C	305
492	8E 河上層・1102	弥生	甕	21.0		(8.0)	口縁 2/12	焼成良	C	264
493	旧河 9W 上層・1105	弥生	甕	14.6		(8.3)	口縁 2/12	焼成良	C	308
494	旧河 9W 上層・1105	弥生	甕	17.0		(8.4)		焼成良	C	309
495	旧河 9W 上層・1105	弥生	鉢	(34.0)		(14.8)	4/12	焼成良	C	312
496	8E 河上層・1102	弥生	有孔鉢	22.4	2.8	14.7	口縁 5/12　底部 6/12	焼成良　底の穿孔は 0.8cm　外面黒斑あり	C	261
497	旧河 9W 上層・1105	弥生	鉢	11.7	9.0	4.5	口縁 2/12	焼成良　外面赤彩	C	310
498	旧河 8W 上層・1104	弥生	埦	12.5	4.0	5.7	口縁 1/12　底部 10/12	焼成良	C	278
499	8E 旧河上層・1105	弥生	高坏			(4.8)		焼成並	C	313
500	8E 河上層・1102	弥生	器台		12.2	(7.2)	底部 5/12	焼成良　透孔 3 方向	C	373
501	9W 河上層・1109	弥生	高坏	22.6		(8.2)	口縁 4/12	焼成良　内外面赤彩	C	259
502	6W 河上層・1027	弥生	高坏	27.1		(5.8)	口縁 2/12	焼成良	C	252
503	旧河 10W 上層・1106	弥生	器台	18.7		(6.5)	4/12	焼成良　赤彩	C	292
504	旧河 10W 上層・1106	弥生	器台	17.3	10.1	11.7	口縁 2/12　底部 7/12	焼成良	C	298
505	旧河 6W 下層 1 土器群 4・1125	弥生	蓋	2.2（つまみ）	8.2	3.0	つまみ完形	焼成並　外面赤彩	C	210
506	旧河 6W 下層 1 土器群付近・1125	弥生	蓋	3.2（つまみ）		(4.2)	つまみ 9/12	焼成並　外面赤彩	C	366
507	旧河 6W 上層（下層との境）・1105	弥生	蓋	2.6（つまみ）	11.0	4.0	つまみ完形　底部 1/12	焼成並	C	242
508	旧河 6W 下層 1 土器群 5・1125	弥生	壺	9.2		12.5	口縁完形	焼成良　外面・内面口縁部赤彩　外面黒斑あり　胴径 14.3cm	C	206
509	旧河 6W 下層 1 土器群 11・1125	弥生	壺	8.5		12.4	ほぼ完形	焼成良　外面黒斑あり　541 に乗って出土	C	218
510	旧河断割北下層（下）・1030	弥生	壺 or 甕			(6.8)		焼成並	C	342
511	8W 河道断割下層・1022	弥生	壺	9.0		(6.7)	口縁付近 5/12	焼成良	C	327
512	8-10W 河下層 1・1110	弥生	壺	16.6		(6.4)	口縁 9/12	焼成並	C	268
513	旧河 6-7W 下層 1・1126	弥生	壺	15.2		(7.6)	口縁 1/12 以下	焼成良	C	371
514	旧河 6W 下層 1 土器群 7・1125	弥生	甕	22.2	4.2	30.8	口縁 9/12　底部完形	焼成良　胴径 27.8cm　被熱により器面のハクリが目立つ　外面スス付着	C	219
515	旧河 6-7W 下層 1・1124　旧河 6-7E 下層 1・1124　旧河 6-7W 下層 1・1125	弥生	甕	18.5	5.0	25.4	口縁 8/12　底部完形	焼成良	C	225
516	旧河 6-7W 下層 1・1124	弥生	甕	17.6		(4.6)	口縁 6/12	焼成良　外面スス付着	C	220
517	旧河 6W 下層 1 土器群付近・1125　6-7W 下層 1	弥生	甕	16.0		(8.4)	口縁 2/12	焼成並	C	368
518	旧河 6W 下層 1-12 土器群・1125	弥生	甕	14.6		(7.7)	口縁 5/12	焼成並　外面黒斑あり　口縁にゆがみあり	C	214
519	旧河 6W 下層 1 土器群 10 ～ 15 付近・1125	弥生	甕	15.8		(11.7)	口縁 3/12	焼成並　外面スス付着	C	215
520	旧河 6W 下層 1 土器群付近・1125	弥生	甕	15.6		(7.4)	口縁 1/12	焼成並	C	212
521	旧河 7-8E 下層 1・1120	弥生	甕	19.8		(10.0)	口縁 3/12	焼成良　外面スス付着	C	287
522	旧河 6-7W 下層 1・1124	弥生	甕	17.8		(15.7)	口縁～胴部 3/12	焼成良　外面スス付着　端部赤彩	C	227
523	旧河道 7-8W 下層 1・1116	土師器	甕	17.7		(5.6)	口縁 3/12	焼成良	C	289
524	旧河 6W 下層 1 土器群 13・1123　旧河 6-7W 下層 1・1124	弥生	甕	15.0		(13.3)		焼成良　外面スス付着	C	216
525	旧河 6W 上層（下層との境）・1105	弥生	有孔鉢	16.7		13.2	口縁 11/12	焼成良	C	205
526	旧河 6W 下層 1 土器群付近・1125	弥生	鉢	12.0	2.4	6.1	口縁 4/12　底部完形	焼成良　外面赤彩	C	208
527	8-10W 河下層 1・1110	弥生	小鉢	10.7	4.0	5.6	口縁 3/12　底部完形	焼成並	C	258
528	旧河 6W 下層 1 土器群 15・1125　旧河 6-7W 下層 1・1124　6-7E 下層 1・1124	弥生	台付鉢		12.5	(9.5)	底部 11/12	焼成良　内面赤彩	C	217
529	旧河 6-7W 下層 1・1124	弥生	高坏	22.4		(6.5)	口縁 5/12	焼成良	C	222
530	旧河 6-7W 下層 1・1126	弥生	高坏			(8.3)		焼成良	C	221
531	旧河 6W 下層 1 土器群 3・1125	弥生	高坏	18.4	9.2	14.2	口縁完形　底部完形	焼成良　外面黒斑あり	C	207
532	旧河 6W 下層 1 土器群 2・1125	弥生	高坏	19.3	9.6	14.6	口縁完形　底部完形	焼成良　外面黒斑あり	C	211
533	旧河 6-7W 下層 1・1126　　7W 河道断割・1021	弥生	高坏	18.0		(8.9)	5/12	焼成良　内外ともに赤彩	C	331
534	8-10W 河下層 1・1110	弥生	高坏			(9.7)		焼成並	C	267
535	旧河断割北下層（下）・1103	弥生	高坏			(5.4)		焼成並　内外面赤彩	C	341
536	旧河 6W 下層 1 土器群付近・1125	弥生	高坏		7.2	(5.4)	底部 3/12	焼成並	C	367
537	8-10W 河下層 1・1110	弥生	高坏		11.2	(6.0)	底部 6/12	焼成並　孔 4 ヶ所	C	257
538	旧河 7-8W 下層・1125	弥生	高坏		10.5	(7.1)	脚部完形	焼成良　内外面赤彩　一部赤釉	C	296
539	旧河 7-8E 下層・1116	弥生	高坏	29.1		(5.9)	口縁 1/12	焼成良　内外面赤彩（にぶい赤褐色）	C	288
540	旧河 6-7E 下層 1・1124	弥生	高坏	(27.8)		(4.9)	坏部 1/12	焼成並	C	226
541	旧河 6W 下層 1 土器群 10・1125	弥生	器台	16.8	8.3	10.4	口縁ほぼ完形　底部 11/12	焼成良　509 の台	C	213
542	旧河 6W 下層 1 土器群 1・1125	弥生	器台	20.4	9.8	12.1	完形	焼成並　口縁の一部にぶい赤橙	C	209
543	旧河 6-7W 下層 1・1126	弥生	器台		8.5	(7.1)	底部 1/12	焼成良	C	370
544	8W 旧河 E-W あぜ下層 1-2・1210	土師器	埦	14.5		(5.3)	口縁 2/12	焼成良	C	286
545	旧河 7W 下層 1 ～ 2・1126　6 ～ 7W 下層 1・1124	弥生	壺		5.0	(9.0)	底部 5/12	焼成良	C	223

第２表 -7　土器一覧

報告番号	出土地点	種別	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	遺存度	その他	実測番号	
546	旧河 7W 下層１～２・1126	弥生	器台		8.9	(8.6)	底部 3/12	焼成良	C	234
547	旧河 7W 下層１～２・1126	弥生	甕	16.4	2.8	24.9	口縁完形 底部完形	焼成良　胴径 19.8cm　外面スス付着　ゆがみあり	C	233
548	旧河 7-8W 下層２・1125	弥生	壺	13.8		(5.2)	口縁 2/12	焼成良	C	293
549	旧河 6-7W 下層２・1126	弥生	壺	10.3		(7.9)	口縁 2/12	焼成良	C	224
550	8 － 10 河下層２・1112	弥生	小壺	5.8	(4.7)	(6.4)	口縁 9/12	焼成良　胴径 9.8cm　外面赤彩 内面炭化物あり？	C	255
551	旧河 7-8W 下層２・1126　7W 河上層・1027　不明	弥生	甕	15.5		(4.2)	口縁 4/12	焼成良	C	290
552	旧河 7-8W 下層２・1125　旧河 8W カタ上 - 下・1104　8E 河上層・1102	弥生	甕	28.6		(12.8)	5/12	焼成良　外面スス付着	C	260
553	旧河 7-8W 下層２・1125	弥生	蓋	3.2 （つまみ）		(2.5)	底部完形	焼成良　内面・外面の一部赤彩 （淡赤橙色）	C	297
554	8-10W 河下層２・1112	弥生	蓋	1.1 （つまみ）	6.8	2.2	底部 7/12	焼成並　孔２ヶ所	C	266
555	旧河 7-8W 下層２・1125	弥生	鉢か	19.6		(4.1)	口縁 1/12	焼成良　外面スス付着	C	291
556	旧河 7-8W 下層２・1125	弥生	鉢か	17.2		(5.3)	口縁 1/12	焼成良　内外面赤彩	C	294
557	旧河 7-8W 下層２・1125　旧河 7-8E 下層１・1116	弥生	高坏	19.6		(10.3)	口縁 4/12	焼成良	C	295
558	8-10W 河下層１・1110　旧河 SE 下層２・1126	弥生	高坏	16.7	10.0	12.6	口縁 6/12　底部 7/12	焼成良　内外面赤彩	C	317
559	8W 河下層２・1112	弥生	器台	17.3	9.3	11.1	ほぼ完形	焼成良　外面スス付着　内面の一部にスス付着　内面の一部に赤彩か？　ゆがみあり	C	263
560	河 6-7 区下層４・1130	弥生	壺	20.0		(11.3)	口縁 1/12	焼成良	C	251
561	河 6-7 区下層４・1130	弥生	甕	13.4		(4.6)	口縁 2/12	焼成良　外面スス付着　口縁部に刻み	C	250
562	8W 河道断割・1021	須恵器	坏身	12.0	6.6	3.7	口縁 5/12　底部 5/12	焼成良（なまやけ）	D	66
563	7W 河道断割・1020　8W 河道断割・1021	須恵器	高坏	13.4	15.5	17.8	口縁 9/12　底部 6/12	焼成良　透かし穴２ヶ所	D	50
564	8W 河道断割・1021	土師器	坏身	16.8	13.0	4.6	口縁 1/12	焼成並	C	324
565	7W 河道断割・1021	土師器	椀	14.8	3.0	5.5	6/12	焼成良	C	330
566	7W 河道断割・1021	土師器	有台椀		8.1	(6.4)	坏部 2/12　底部完形	焼成良	C	328
567	8W 河道断割・1021	土師器	有台椀か		9.4	(7.1)	底部 6/12	焼成並	C	326
568	8W 河道断割・1021	土師器	甕	21.2		(12.2)	口縁 1/12	焼成並	C	323
569	7W 河道断割・1021	土師器	甕	17.4		(10.0)	口縁 3/12	焼成良	C	329
570	8W 河道断割・1021	土師器	甕	18.0		(8.7)	口縁 2/12	焼成並	C	322
571	8W 河道断割・1021	土師器	壺 or 甕		4.6	(5.4)	底部完形	焼成並　外面黒斑あり	C	372
572	旧河 8WE-W あぜ・1210	弥生	壺	20.3		(7.5)	口縁 7/12	焼成良	C	284
573	8W 河道断割・1021	弥生	壺	14.4	7.0	30.7	口縁 1/12　底部完形	焼成並　内面黒斑あり	C	321
574	出土地点不明・1210	須恵器	蓋		13.2	(1.0)	2/12	焼成良	D	53
575	不明・1210	弥生	器台脚部			(8.8)	2/12	焼成良　脚部径（4.4cm）	C	332
601	A 区 P69（掘方内）・0524	土師器	椀	15.0	4.1	5.4	ほぼ完形	焼成良　外面の一部にミガキと赤彩が残る	C	336
602	A 区 P68（掘方内）・0524	土師器	甕		7.2	(21.1)	底部完形	焼成並　外面黒斑あり	C	337
603	A 区 SD11 東・0525	弥生	壺	13.0		(17.4)	口縁完形	焼成良　胴径 21.9cm　外面黒斑あり	C	340
604	A 区 SD11 東・0524	弥生	器台		8.8	(10.9)	3/12	焼成並　孔３ヶ所	C	339
605	A 区 SD11 東・0525	弥生	高坏 or 器台		15.0	(3.6)	底部 4/12	焼成並　孔３ヶ所	C	338
606	B 区 SK01・0525	土師器	椀（高台部）		6.0	(1.7)	高台部 11/12	焼成良	D	52
607	B 区 SD07・0525	須恵器	椀（高台部）		6.2	(1.1)	高台部 3/12	焼成良	D	57
608	B 区 SD07・0525	弥生	器台か			(5.5)	頸部 10/12	焼成良	D	58
609	B 区東排水溝・0423	須恵器	甕			(7.5)		焼成良（なまやけ）	D	68
610	C 区 P03・0513	弥生	甕	16.8		(7.8)	口縁 1/12	焼成良	C	334
611	C 区 P03・0513	弥生	高坏			(14.7)	支脚部ほぼ完形	焼成良　C335 と同一個体	C	333
611	C 区 P03・0513	弥生	高坏	27.4		(4.2)	口縁 1/12	焼成良　C333 と同一個体	C	335
612	C 区 SD03・0513	須恵器	（脚台）		11.0	(2.9)	脚部 3/12	焼成並	D	54
613	C 区 SD01・0531	須恵器	壺			(3.8)	口縁 1/12	焼成並	D	56
614	C 区 SD03・0513	須恵器	坏身	11.7	4.0	4.3	口縁 1/12　底部 7/12	焼成並	D	55
615	C 区 SD03・0513	須恵器	坏身	15.0		(3.8)	口縁 1/12	焼成良（なまやけ）	D	67
616	C 区 SD02・0525	弥生	壺	18.1		(3.1)	口縁 1/12	焼成良	C	343
617	C 区 SD02・0503	弥生	台付鉢		8.8	(4.8)	底部 3/12	焼成並	C	344

第２表 -8　土器一覧

報告番号	出土年度	出土地点	器種	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	その他	実測番号
238	1996	4 溝（A- 中北）炭化物混入粘土層・1122	水晶塊	3.5	2.0	1.7	12.8		石 3
234	1996	4 溝（B- 北）上層・1115	敲石	6.8	5.2	4.3	221.4		石 4
233	1996	4 溝（B- 中）炭化物混入粘土層・1125	敲石	11.3	9.9	6.1	774.4		石 5
236	1996	4 溝（E-1 群）S2・1204	敲石	11.4	7.0	6.3	737.3		石 12
237	1996	4 溝（E-1 群）S2・1204	敲石	11.7	9.6	7.4	1287.0	磨石としても使用	石 1
232	1996	4 溝（C 区）炭化粘土上面・1120	剥片石器	9.1	18.0	2.2	301.3		石 2
235	1996	5 溝（西）・1209	敲石	15.1	12.0	4.4	922.9	台石か片面敲打痕顕著	石 6
576	1998	8W 旧河上層・1106	石斧	7.1	6.2	1.7	99.2		石 18
577	1998	6ESD02・1027	打製石斧	(10.8)	9.6	(3.2)	286.7		石 7
578	1998	7W 河上層・1027	剥片石器	6.0	11.8	1.4	110.7	石包丁か	石 8
579	1998	8W 河上層・1102	磨製石斧	9.7	5.6	2.5	259.2		石 9
580	1998	5ESK03・1118	砥石	7.6	7.8	4.6	349.0	敲石に転用	石 14
581	1998	6W 旧河下層 1 土器群 9・1125	敲石	8.6	7.2	6.1	554.9	敲打にも使用	石 16
582	1998	9W 旧河上層・1105	砥石	9.2	4.5	3.7	156.6		石 17
583	1998	6W 旧河下層 1 土器群付近・1125	磨石	13.5	6.0	4.5	484.0	棒状礫敲打にも使用	石 15
584	1998	0EP45・1210	磨石	12.2	8.6	7.5	1041.3		石 13
585	1998	1E 排水溝・1020	鉄釘	5.50 (鉄 5.40)	1.75 (鉄 0.40)	1.35 (鉄 0.60)	12.67	断面方形釘先曲がりあり	金 1
618	1999	C 区・05	磨石	13.4	7.5	6.2	960.8		石 10
619	1999	A 区 P68・0524	砥石	4.4	2.1	1.8	20.5		石 11

第３表　石製品など一覧

報告番号	出土年度	出土地点	器種	形状など	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	針葉樹 / 広葉樹の別	その他	実測番号
240	1996	4 溝 B 南半炭化物混入粘土層	不明	棒状四角～扁平	91.9	1.45	1.35	針葉樹	樹種未鑑定	木 1
588	1998	6w 旧河下層 4	不明	追柾目板材	45.7	28.3	3.0	針葉樹		木 2
586	1998	6w 旧河下層 4	不明	棒状の角材圭頭	67.8 13.6	4.9	2.9	針葉樹		木 3
239	1996	4 溝 BC 境アゼ内	建築部材か	みかん割り材孔あり	51.5	16.4	8.7	針葉樹		木 4
589	1998	6w 旧河下層 4	不明	柾目板材	51.8	11.7	1.6	針葉樹		木 5
587	1998	6w 旧河下層 4	不明	角材	40.9	3.9	3.5	針葉樹		木 6

第４表　木製品一覧

	報告番号	出土年度	出土地点	直径(mm)	孔径(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	色調	側面	狭端	広端
玉	241	1996	4溝(D-1群)P4	3.9	1.8	2.4	0.05	青灰・黄褐系			
玉	242	1996	4溝(D-1群)P4	4.0	1.7	2.3	0.04	暗青灰系			
玉	243	1996	4溝(D-1群)P4	4.0	1.5	2.5	0.06	暗青灰系			
玉	244	1996	4溝(D-1群)P4	3.8	1.7	2.0	0.04	青灰・黄褐系			
玉	245	1996	4溝(D-1群)P4	3.9	1.6	2.1	0.04	青灰・黄褐系			
玉	246	1996	4溝(D-1群)P4	3.9	1.5	2.4	0.05	暗青灰系			
玉	247	1996	4溝(D-1群)P4	3.8	1.7	2.4	0.06	暗青灰系			
玉	248	1996	4溝(D-1群)P4	4.0	1.5	2.3	0.06	青灰・黄褐系			

		出土年度	出土地点	直径(mm)	孔径(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	色調	側面	狭端	広端
玉	249	1996	4溝(D-1群)P4	4.6	1.5	2.4	0.08	青灰・黄褐系			
玉	250	1996	4溝(D-1群)P4	3.8	1.4	2.2	0.05	青灰・黄褐系			
玉	251	1996	4溝(D-1群)P4	4.0	1.4	2.4	0.06	暗青灰系			
玉	252	1996	4溝(D-1群)P4	3.6	1.5	2.5	0.06	青灰・黄褐系			
玉	253	1996	4溝(D-1群)P4	3.9	1.4	2.3	0.05	青灰・黄褐系			
玉	254	1996	4溝(D-1群)P4	3.7	1.7	2.3	0.05	青灰・黄褐系			
玉	255	1996	4溝(D-1群)P4	4.0	1.5	2.2	0.07	青灰・黄褐系			
法量の平均値				3.93	1.56	2.31	0.055				

第５表　臼玉一覧

重量 g ＼ 直径 mm	2.4～2.5	2.8～2.9	2.9～3.0	3.0～3.1	3.1～3.2	3.2～3.3	3.3～3.4	3.4～3.5	3.5～3.6	3.6～3.7	3.7～3.8	3.8～3.9	3.9～4.0	4.0～4.1	4.1～4.2	4.2～4.3	4.3～4.4	4.4～4.5	4.5～4.6	4.6～4.7	4.7～4.8	4.8～4.9	4.9～5.0	5.0～5.1	5.1～5.2	5.2～5.3	5.3～5.4	5.4～5.5	5.5～5.6	5.6～5.7	5.7～5.8	5.8～5.9	5.9～6.0	6.0～6.1	6.4～6.5	6.5～6.6	6.6～6.7	合計
0.00 <	1				2	2							1																								6
0.01 <				1	3	2	4	2	1	1		2	2	2		1	1																				22
0.02 <						12	3	5	4	7	6	9	5	1	1	2		2																			57
0.03 <					2	3	7	8	9	10	11	19	12	9	7	5	3	4		1																	110
0.04 <							4	1	8	12	9	① 12	① 18	① 18	15	10	5	4	2	1	1	1		1	1												③ 123
0.05 <		1					1		3	10	① 7	① 13	③ 23	12	17	13	15	11	5	7	3	2	2														⑤ 145
0.06 <								1	2	① 5	4	① 9	14	③ 21	26	21	14	9	12	10	3	2	5		1												⑤ 159
0.07 <												2	4	① 3	18	16	22	17	6	13	6	3	4	5	2		1										① 122
0.08 <													1	1	14	5	10	10	12	① 16	7	7	7	2	4			3									① 99
0.09 <														1	2	4	12	5	11	9	7	7	5	2	1		1	1									68
0.10 <															4	1	1	4	7	7	9	6	3	8	3	2	1			1							57
0.11 <															1	1		1	3	8	4	1	6	4	2	2	1							1			35
0.12 <																		1	4	3	4	5	1	3	4	2	2	2			1						32
0.13 <																			1		1	2	3	2	4		1										14
0.14 <																		1		1	1	1	1		1	1	1	2								1		11
0.15 <																					1	1		1					2	1		1						7
0.16 <																									3	1								1	1			6
0.17 <																									1								2	1			1	5
0.18 <																									1					1								2
0.19 <																								1														1
0.20 <																										1												1
0.21 <																														1								1
合計	1	1	0	1	7	19	19	17	27	① 45	① 37	③ 66	④ 80	⑤ 68	105	79	83	69	63	① 76	47	38	37	29	28	9	8	8	2	4	1	1	2	3	1	1	1	⑮ 1083

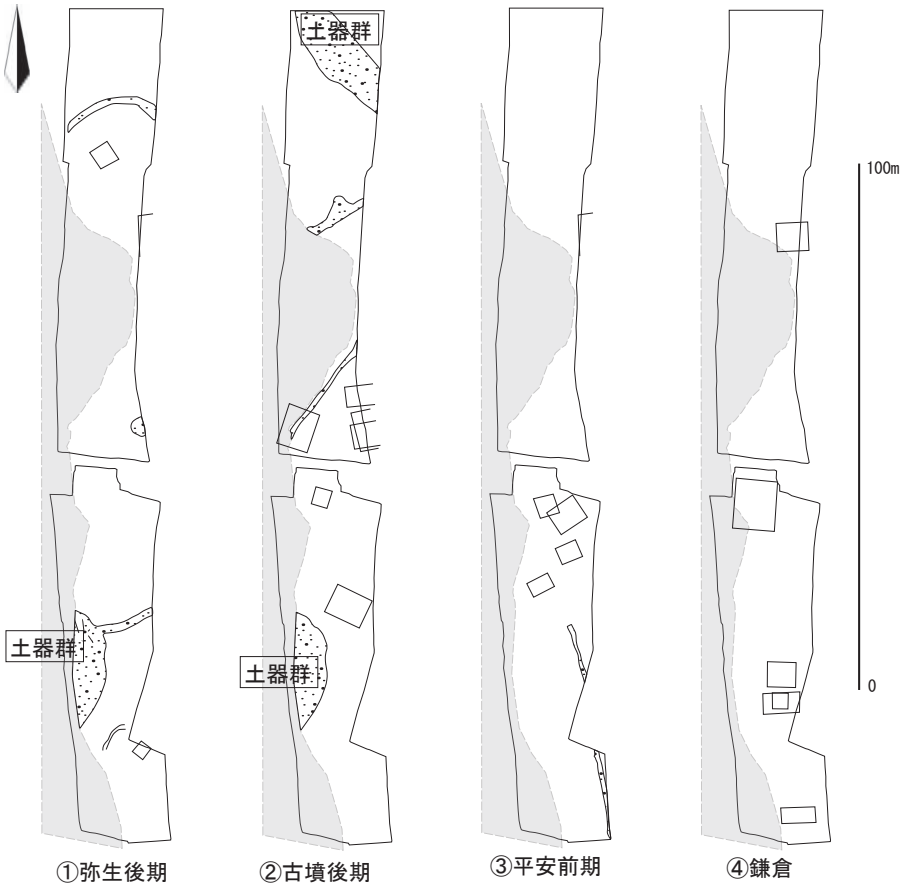
第６表　臼玉の法量分布（データ欄の数値は点数 ○囲みが国分遺跡 背景は金沢市畝田・寺中遺跡出土資料）

第４章　総　　括

国分遺跡の発掘調査では、①弥生時代後期後半、②古墳時代後期、③平安時代前期、④鎌倉時代といった４つの時期についてそれぞれ、当地における集落遺跡の様相を窺い知ることができた。①と②の時期には河川あるいは大溝への土器の集中廃棄が認められた。この点は当遺跡を特徴付けるとともに、一連の調査区が各時期の集落の縁辺寄りに位置したであろうことを物語っている。

調査で検出された土器廃棄地点は第１次調査４号溝と第３次調査旧河川であり、前者からは古墳時代後期（６世紀頃）の、後者からは弥生時代後期（１世紀頃）と古墳時代後期（６世紀代）の土器類が大量に出土した。本書に掲載した実測土器は全部で 439 点を数えるが、４号溝と旧河川をあわせた分で全体の 87％（384 点）を占めている。弥生時代後期後半の当地近辺では、東方約 2km の市内矢田遺跡で溝への集中廃棄例が知られる。これは吉岡康暢氏によれば「祭礼執行後の“かたづけ”の可能性を残す」「川溝（辺）祭祀」の一例であり、本遺跡第３次調査旧河川例も同様に理解しうる。また、古墳時代後期における大量出土についても、近似の意味合いで理解できる可能性があろう。

総括にあたり主な検出遺構について分期して掲載するが、時期決定の根拠が薄弱な建物も多く、今後の再検討にまつ部分が大きいことを申し添えておきたい。



第 55 図　遺構変遷案

引用・参考文献

木立雅朗　　1992 『藤橋遺跡』石川県立埋蔵文化財センター

沢辺利明　　2007 『七尾市国分尼塚遺跡』（財）石川県埋蔵文化財センター

善端　直・北林雅康ほか　　2003 『石川県万行遺跡発掘調査概報』七尾市教育委員会

土肥富士夫ほか　1986 『矢田遺跡』七尾市教育委員会

橋本澄夫ほか　2002 『新修七尾市史 1 考古編』七尾市史編さん専門委員会

松尾　実　　2006 「臼玉」『金沢市畝田西遺跡群Ⅳ』（財）石川県埋蔵文化財センター

向井裕知　　2004 「加賀・能登（石川県）の様相」『掘立柱建物から礎石建物へ』北陸中世考古学研究会

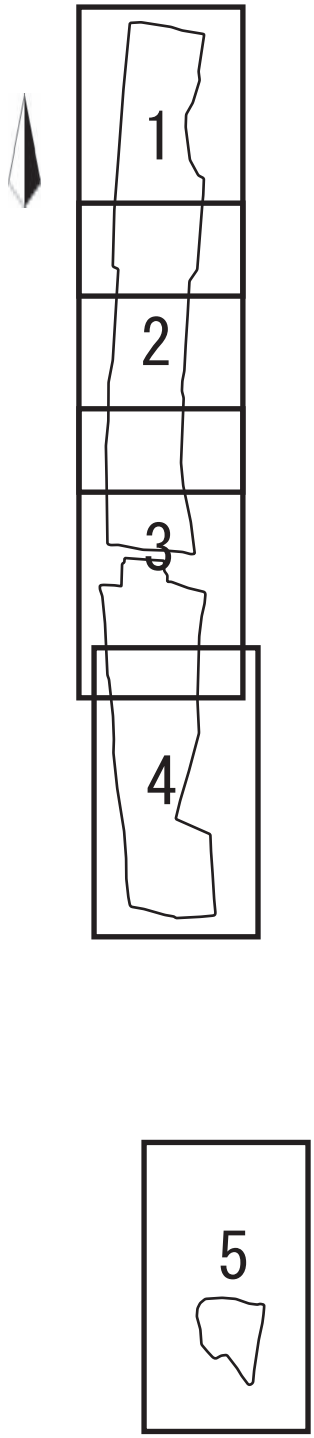
吉岡康暢　　1991 「弥生―古墳転換期の土器祭祀」『日本海域の土器・陶磁〔古代編〕』六興出版　392 － 463 頁

類型	時期	器種組成	土器量
I	?～古墳前Ⅱ	甕・高坏多，壺他少	多数～相当数
Ⅱ	弥生Ⅱ～Ⅳ	壺主，甕比較的少（甕主あり）	一定数～少数
Ⅲ	弥生Ⅴ	壺多，甕少，高坏あり	一定数～少数
Ⅳ	弥生Ⅵ	供膳・貯蔵器主体の祭式土器	一定数
Ⅴ	古墳前Ⅰ	有段壺	一定数
Ⅵ	古墳前Ⅱ	有段壺＋直口壺・小形三種	一定数

類型	場所	性格	器種組成	土器量	墳墓祭祀
Ba	溝（村落内）	治水他	煮沸・貯蔵器主体	相当数	I
Bb	配石	祈年・収穫？	煮沸・貯蔵器主体	相当数	
Bc	特殊土壙	治水	煮沸・貯蔵器主体	相当数～一定数	
C	溝（村落外）		煮沸・貯蔵器主体	多数	
Aa	大形住居	廃棄・再生	供膳・貯蔵器主体	相当数～一定数	Ⅳ
c	一般住居	廃棄・再生	供膳・貯蔵器主体（小形粗製土器併用あり）	少数	
Ab	円（方）筒形土壙	廃棄・再生？	供膳・貯蔵器主体	一定数～少数	
Bd	井戸	廃棄・再生		一定数	
Be					Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ

参考　村落祭祀（左）と墳墓祭祀（右）の類型（上掲吉岡 1991 447 頁による）

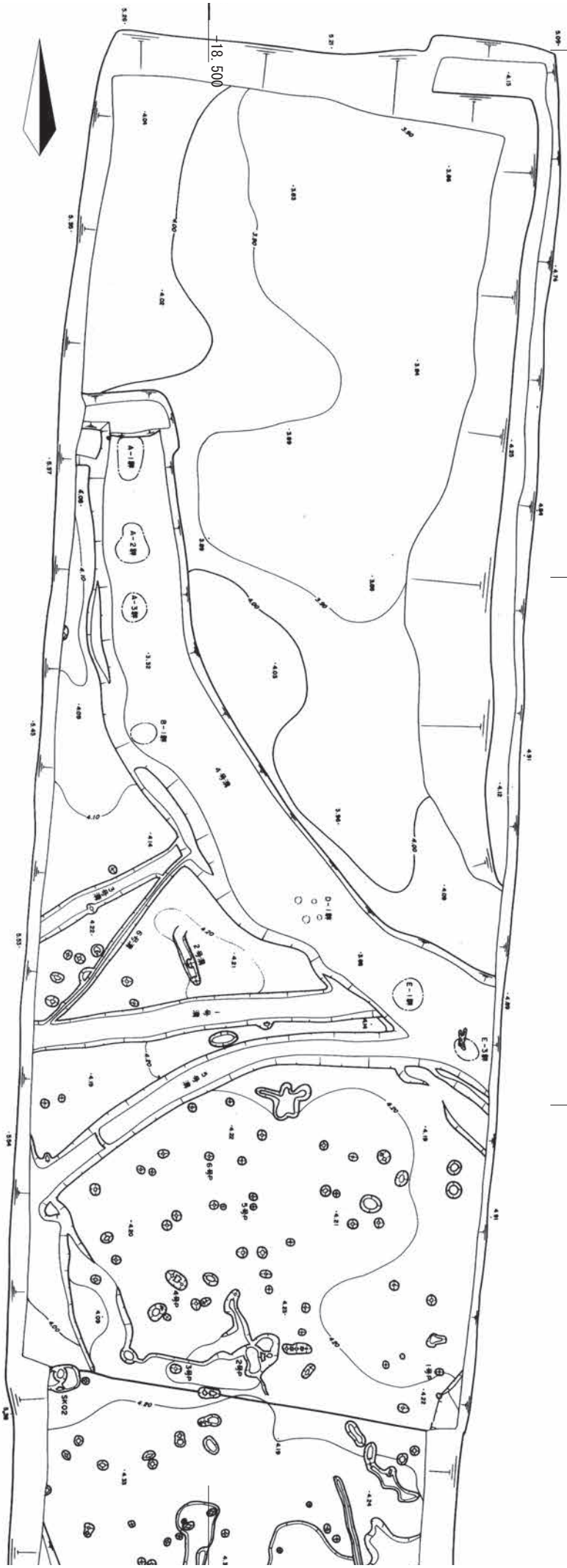
国分遺跡（第１次～第４次）平面図 1/200



+114.600

+114.580

+114.560

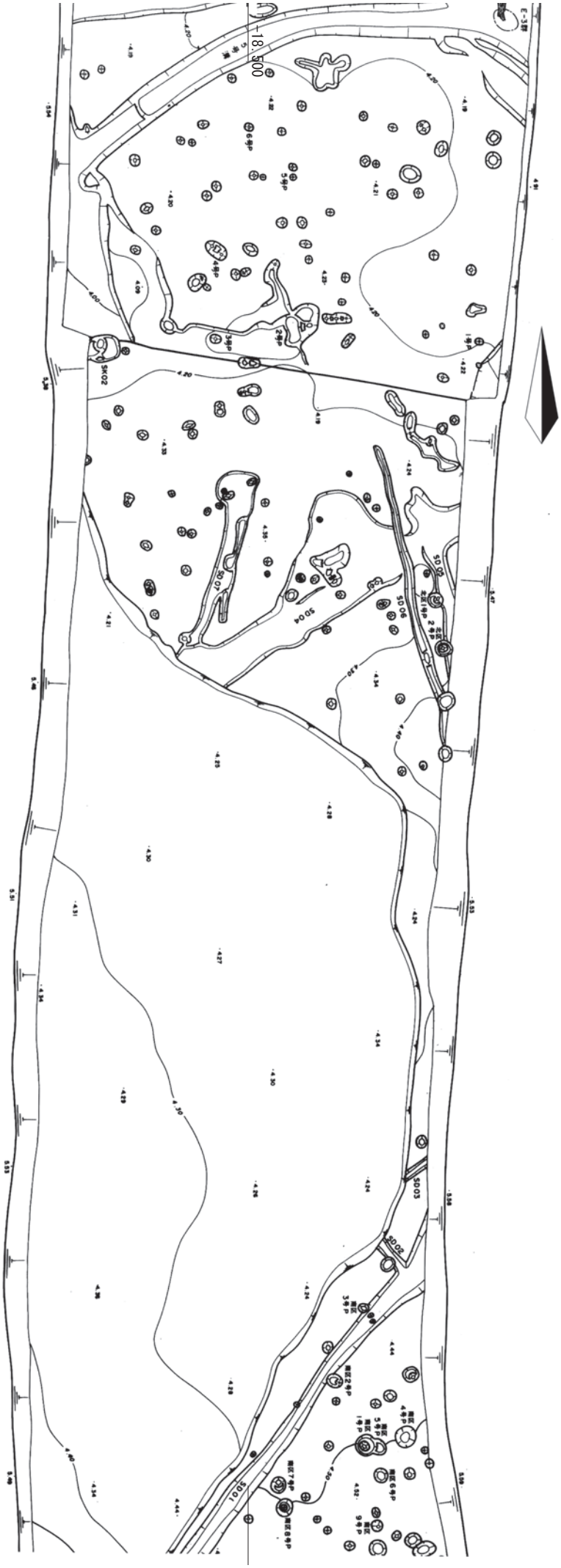


国分遺跡平面図　No.1

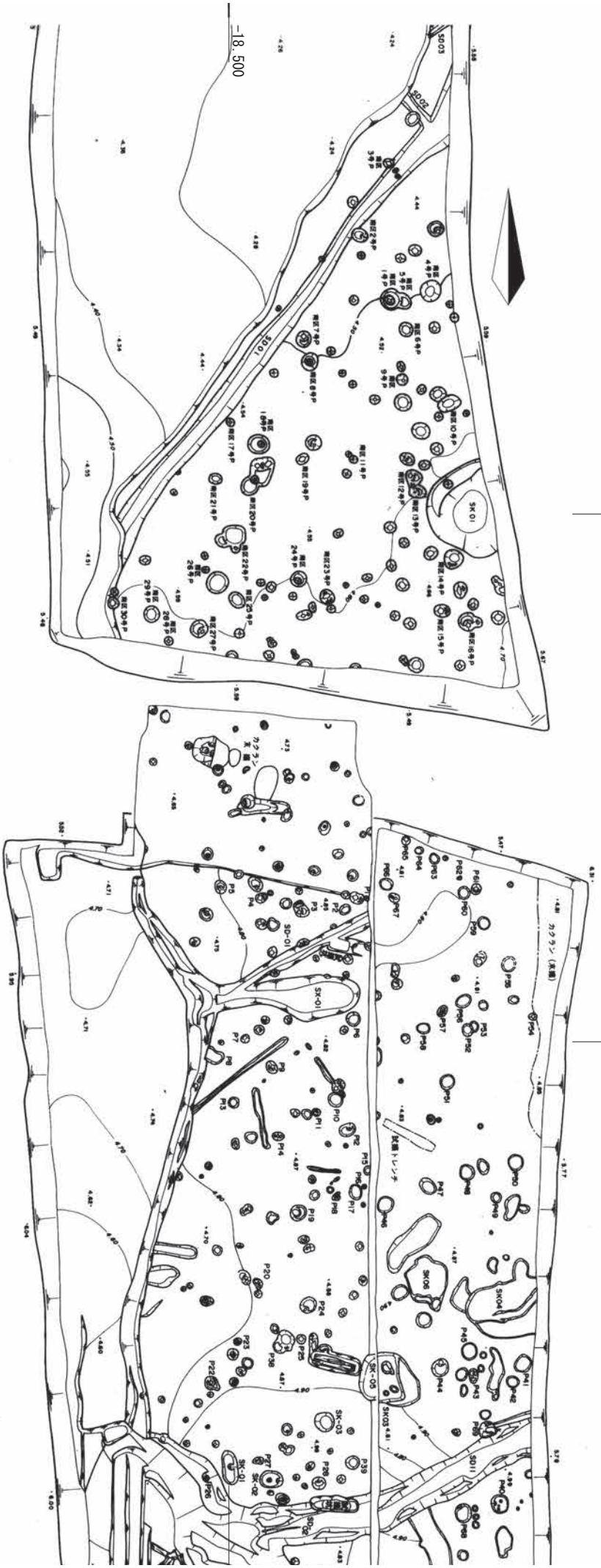
+114.560

+114.540

+114.520



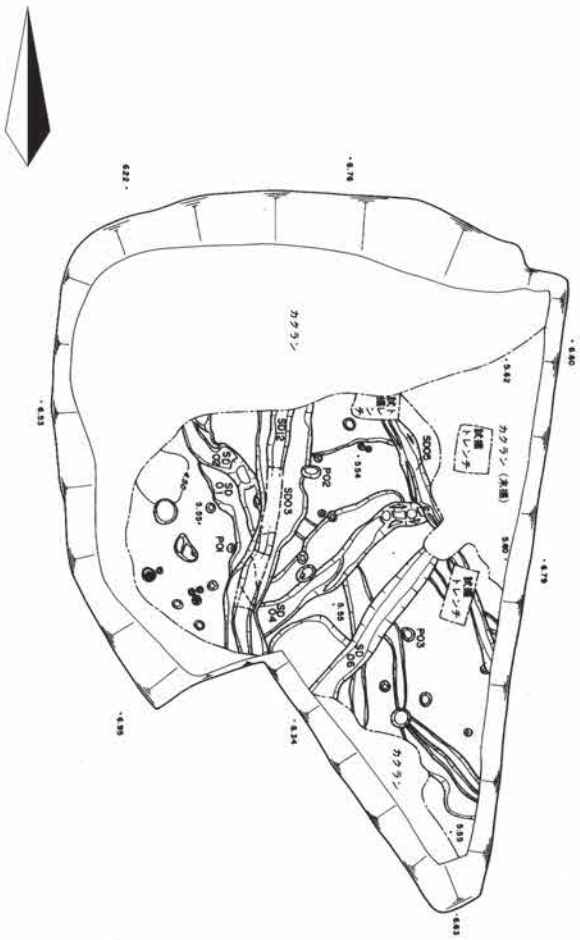
国分遺跡平面図　No.2


+114.500
+114.480
-18.500
SD03
SD02
SD01
SK01
SK-01
SK-02
SK-03
SK-05
SK05
SK04
SD-01
SD-02
SD11
カクラン
大溝トレンチ

国分遺跡平面図　No.3

+114.460
+114.440
+114.420
-18,500
SK-01
SK-02
SK-03
SK-04
SK-05
SK-06
SK-07
SK-08
SK-09
SK-10
SD-01
SD-02
SD-03
SD-04
SD-05
SD-06
SD-07
SD-08
SD-09
SD-10
SD-11
SD-12
SD-13
SD-14
SD-15
SD-16
SD-17
SD-18
SD-19
SD-20
SD-21
SD-22
SD-23
SD-24
SD-25
SD-26
SD-27
SD-28
SD-29
SD-30
SD-31
SD-32
SD-33
SD-34
SD-35
SD-36
SD-37
SD-38
SD-39
SD-40
SD-41
SD-42
SD-43
SD-44
SD-45
SD-46
SD-47
SD-48
SD-49
SD-50
SD-51
SD-52
SD-53
SD-54
SD-55
SD-56
SD-57
SD-58
SD-59
SD-60
SD-61
SD-62
SD-63
SD-64
SD-65
SD-66
SD-67
SD-68
SD-69
SD-70
SD-71
SD-72
SD-73
SD-74
SD-75
SD-76
SD-77
SD-78
SD-79
SD-80
SD-81
SD-82
SD-83
SD-84
SD-85
SD-86
SD-87
SD-88
SD-89
SD-90
SD-91
SD-92
SD-93
SD-94
SD-95
SD-96
SD-97
SD-98
SD-99
SD-100
SD-101
SD-102
SD-103
SD-104
SD-105
SD-106
SD-107
SD-108
SD-109
SD-110
SD-111
SD-112
SD-113
SD-114
SD-115
SD-116
SD-117
SD-118
SD-119
SD-120
SD-121
SD-122
SD-123
SD-124
SD-125
SD-126
SD-127
SD-128
SD-129
SD-130
SD-131
SD-132
SD-133
SD-134
SD-135
SD-136
SD-137
SD-138
SD-139
SD-140
SD-141
SD-142
SD-143
SD-144
SD-145
SD-146
SD-147
SD-148
SD-149
SD-150
SD-151
SD-152
SD-153
SD-154
SD-155
SD-156
SD-157
SD-158
SD-159
SD-160
SD-161
SD-162
SD-163
SD-164
SD-165
SD-166
SD-167
SD-168
SD-169
SD-170
SD-171
SD-172
SD-173
SD-174
SD-175
SD-176
SD-177
SD-178
SD-179
SD-180
SD-181
SD-182
SD-183
SD-184
SD-185
SD-186
SD-187
SD-188
SD-189
SD-190
SD-191
SD-192
SD-193
SD-194
SD-195
SD-196
SD-197
SD-198
SD-199
SD-200
SD-201
SD-202
SD-203
SD-204
SD-205
SD-206
SD-207
SD-208
SD-209
SD-210
SD-211
SD-212
SD-213
SD-214
SD-215
SD-216
SD-217
SD-218
SD-219
SD-220
SD-221
SD-222
SD-223
SD-224
SD-225
SD-226
SD-227
SD-228
SD-229
SD-230
SD-231
SD-232
SD-233
SD-234
SD-235
SD-236
SD-237
SD-238
SD-239
SD-240
SD-241
SD-242
SD-243
SD-244
SD-245
SD-246
SD-247
SD-248
SD-249
SD-250
SD-251
SD-252
SD-253
SD-254
SD-255
SD-256
SD-257
SD-258
SD-259
SD-260
SD-261
SD-262
SD-263
SD-264
SD-265
SD-266
SD-267
SD-268
SD-269
SD-270
SD-271
SD-272
SD-273
SD-274
SD-275
SD-276
SD-277
SD-278
SD-279
SD-280
SD-281
SD-282
SD-283
SD-284
SD-285
SD-286
SD-287
SD-288
SD-289
SD-290
SD-291
SD-292
SD-293
SD-294
SD-295
SD-296
SD-297
SD-298
SD-299
SD-300
SD-301
SD-302
SD-303
SD-304
SD-305
SD-306
SD-307
SD-308
SD-309
SD-310
SD-311
SD-312
SD-313
SD-314
SD-315
SD-316
SD-317
SD-318
SD-319
SD-320
SD-321
SD-322
SD-323
SD-324
SD-325
SD-326
SD-327
SD-328
SD-329
SD-330
SD-331
SD-332
SD-333
SD-334
SD-335
SD-336
SD-337
SD-338
SD-339
SD-340
SD-341
SD-342
SD-343
SD-344
SD-345
SD-346
SD-347
SD-348
SD-349
SD-350
SD-351
SD-352
SD-353
SD-354
SD-355
SD-356
SD-357
SD-358
SD-359
SD-360
SD-361
SD-362
SD-363
SD-364
SD-365
SD-366
SD-367
SD-368
SD-369
SD-370
SD-371
SD-372
SD-373
SD-374
SD-375
SD-376
SD-377
SD-378
SD-379
SD-380
SD-381
SD-382
SD-383
SD-384
SD-385
SD-386
SD-387
SD-388
SD-389
SD-390
SD-391
SD-392
SD-393
SD-394
SD-395
SD-396
SD-397
SD-398
SD-399
SD-400
SD-401
SD-402
SD-403
SD-404
SD-405
SD-406
SD-407
SD-408
SD-409
SD-410
SD-411
SD-412
SD-413
SD-414
SD-415
SD-416
SD-417
SD-418
SD-419
SD-420
SD-421
SD-422
SD-423
SD-424
SD-425
SD-426
SD-427
SD-428
SD-429
SD-430
SD-431
SD-432
SD-433
SD-434
SD-435
SD-436
SD-437
SD-438
SD-439
SD-440
SD-441
SD-442
SD-443
SD-444
SD-445
SD-446
SD-447
SD-448
SD-449
SD-450
SD-451
SD-452
SD-453
SD-454
SD-455
SD-456
SD-457
SD-458
SD-459
SD-460
SD-461
SD-462
SD-463
SD-464
SD-465
SD-466
SD-467
SD-468
SD-469
SD-470
SD-471
SD-472
SD-473
SD-474
SD-475
SD-476
SD-477
SD-478
SD-479
SD-480
SD-481
SD-482
SD-483
SD-484
SD-485
SD-486
SD-487
SD-488
SD-489
SD-490
SD-491
SD-492
SD-493
SD-494
SD-495
SD-496
SD-497
SD-498
SD-499
SD-500
SD-501
SD-502
SD-503
SD-504
SD-505
SD-506
SD-507
SD-508
SD-509
SD-510
SD-511
SD-512
SD-513
SD-514
SD-515
SD-516
SD-517
SD-518
SD-519
SD-520
SD-521
SD-522
SD-523
SD-524
SD-525
SD-526
SD-527
SD-528
SD-529
SD-530
SD-531
SD-532
SD-533
SD-534
SD-535
SD-536
SD-537
SD-538
SD-539
SD-540
SD-541
SD-542
SD-543
SD-544
SD-545
SD-546
SD-547
SD-548
SD-549
SD-550
SD-551
SD-552
SD-553
SD-554
SD-555
SD-556
SD-557
SD-558
SD-559
SD-560
SD-561
SD-562
SD-563
SD-564
SD-565
SD-566
SD-567
SD-568
SD-569
SD-570
SD-571
SD-572
SD-573
SD-574
SD-575
SD-576
SD-577
SD-578
SD-579
SD-580
SD-581
SD-582
SD-583
SD-584
SD-585
SD-586
SD-587
SD-588
SD-589
SD-590
SD-591
SD-592
SD-593
SD-594
SD-595
SD-596
SD-597
SD-598
SD-599
SD-600
SD-601
SD-602
SD-603
SD-604
SD-605
SD-606
SD-607
SD-608
SD-609
SD-610
SD-611
SD-612
SD-613
SD-614
SD-615
SD-616
SD-617
SD-618
SD-619
SD-620
SD-621
SD-622
SD-623
SD-624
SD-625
SD-626
SD-627
SD-628
SD-629
SD-630
SD-631
SD-632
SD-633
SD-634
SD-635
SD-636
SD-637
SD-638
SD-639
SD-640
SD-641
SD-642
SD-643
SD-644
SD-645
SD-646
SD-647
SD-648
SD-649
SD-650
SD-651
SD-652
SD-653
SD-654
SD-655
SD-656
SD-657
SD-658
SD-659
SD-660
SD-661
SD-662
SD-663
SD-664
SD-665
SD-666
SD-667
SD-668
SD-669
SD-670
SD-671
SD-672
SD-673
SD-674
SD-675
SD-676
SD-677
SD-678
SD-679
SD-680
SD-681
SD-682
SD-683
SD-684
SD-685
SD-686
SD-687
SD-688
SD-689
SD-690
SD-691
SD-692
SD-693
SD-694
SD-695
SD-696
SD-697
SD-698
SD-699
SD-700
SD-701
SD-702
SD-703
SD-704
SD-705
SD-706
SD-707
SD-708
SD-709
SD-710
SD-711
SD-712
SD-713
SD-714
SD-715
SD-716
SD-717
SD-718
SD-719
SD-720
SD-721
SD-722
SD-723
SD-724
SD-725
SD-726
SD-727
SD-728
SD-729
SD-730
SD-731
SD-732
SD-733
SD-734
SD-735
SD-736
SD-737
SD-738
SD-739
SD-740
SD-741
SD-742
SD-743
SD-744
SD-745
SD-746
SD-747
SD-748
SD-749
SD-750
SD-751
SD-752
SD-753
SD-754
SD-755
SD-756
SD-757
SD-758
SD-759
SD-760
SD-761
SD-762
SD-763
SD-764
SD-765
SD-766
SD-767
SD-768
SD-769
SD-770
SD-771
SD-772
SD-773
SD-774
SD-775
SD-776
SD-777
SD-778
SD-779
SD-780
SD-781
SD-782
SD-783
SD-784
SD-785
SD-786
SD-787
SD-788
SD-789
SD-790
SD-791
SD-792
SD-793
SD-794
SD-795
SD-796
SD-797
SD-798
SD-799
SD-800
SD-801
SD-802
SD-803
SD-804
SD-805
SD-806
SD-807
SD-808
SD-809
SD-810
SD-811
SD-812
SD-813
SD-814
SD-815
SD-816
SD-817
SD-818
SD-819
SD-820
SD-821
SD-822
SD-823
SD-824
SD-825
SD-826
SD-827
SD-828
SD-829
SD-830
SD-831
SD-832
SD-833
SD-834
SD-835
SD-836
SD-837
SD-838
SD-839
SD-840
SD-841
SD-842
SD-843
SD-844
SD-845
SD-846
SD-847
SD-848
SD-849
SD-850
SD-851
SD-852
SD-853
SD-854
SD-855
SD-856
SD-857
SD-858
SD-859
SD-860
SD-861
SD-862
SD-863
SD-864
SD-865
SD-866
SD-867
SD-868
SD-869
SD-870
SD-871
SD-872
SD-873
SD-874
SD-875
SD-876
SD-877
SD-878
SD-879
SD-880
SD-881
SD-882
SD-883
SD-884
SD-885
SD-886
SD-887
SD-888
SD-889
SD-890
SD-891
SD-892
SD-893
SD-894
SD-895
SD-896
SD-897
SD-898
SD-899
SD-900
SD-901
SD-902
SD-903
SD-904
SD-905
SD-906
SD-907
SD-908
SD-909
SD-910
SD-911
SD-912
SD-913
SD-914
SD-915
SD-916
SD-917
SD-918
SD-919
SD-920
SD-921
SD-922
SD-923
SD-924
SD-925
SD-926
SD-927
SD-928
SD-929
SD-930
SD-931
SD-932
SD-933
SD-934
SD-935
SD-936
SD-937
SD-938
SD-939
SD-940
SD-941
SD-942
SD-943
SD-944
SD-945
SD-946
SD-947
SD-948
SD-949
SD-950
SD-951
SD-952
SD-953
SD-954
SD-955
SD-956
SD-957
SD-958
SD-959
SD-960
SD-961
SD-962
SD-963
SD-964
SD-965
SD-966
SD-967
SD-968
SD-969
SD-970
SD-971
SD-972
SD-973
SD-974
SD-975
SD-976
SD-977
SD-978
SD-979
SD-980
SD-981
SD-982
SD-983
SD-984
SD-985
SD-986
SD-987
SD-988
SD-989
SD-990
SD-991
SD-992
SD-993
SD-994
SD-995
SD-996
SD-997
SD-998
SD-999
SD-1000

国分遺跡平面図　No.4


-18.480
-18.500
+114.360
+114.340
カクラン
カクラン（未発掘）
未発掘トレンチ
未発掘トレンチ
カクラン
カクラン
S003
S004
S005
S006
S007
S008
S009
S010
S011
S012
P001
P002
P003
P004
P005
P006
P007
P008
P009
P010
P011
P012
P013
P014
P015
P016
P017
P018
P019
P020
P021
P022
P023
P024
P025
P026
P027
P028
P029
P030
P031
P032
P033
P034
P035
P036
P037
P038
P039
P040
P041
P042
P043
P044
P045
P046
P047
P048
P049
P050
P051
P052
P053
P054
P055
P056
P057
P058
P059
P060
P061
P062
P063
P064
P065
P066
P067
P068
P069
P070
P071
P072
P073
P074
P075
P076
P077
P078
P079
P080
P081
P082
P083
P084
P085
P086
P087
P088
P089
P090
P091
P092
P093
P094
P095
P096
P097
P098
P099
P100
P101
P102
P103
P104
P105
P106
P107
P108
P109
P110
P111
P112
P113
P114
P115
P116
P117
P118
P119
P120
P121
P122
P123
P124
P125
P126
P127
P128
P129
P130
P131
P132
P133
P134
P135
P136
P137
P138
P139
P140
P141
P142
P143
P144
P145
P146
P147
P148
P149
P150
P151
P152
P153
P154
P155
P156
P157
P158
P159
P160
P161
P162
P163
P164
P165
P166
P167
P168
P169
P170
P171
P172
P173
P174
P175
P176
P177
P178
P179
P180
P181
P182
P183
P184
P185
P186
P187
P188
P189
P190
P191
P192
P193
P194
P195
P196
P197
P198
P199
P200
P201
P202
P203
P204
P205
P206
P207
P208
P209
P210
P211
P212
P213
P214
P215
P216
P217
P218
P219
P220
P221
P222
P223
P224
P225
P226
P227
P228
P229
P230
P231
P232
P233
P234
P235
P236
P237
P238
P239
P240
P241
P242
P243
P244
P245
P246
P247
P248
P249
P250
P251
P252
P253
P254
P255
P256
P257
P258
P259
P260
P261
P262
P263
P264
P265
P266
P267
P268
P269
P270
P271
P272
P273
P274
P275
P276
P277
P278
P279
P280
P281
P282
P283
P284
P285
P286
P287
P288
P289
P290
P291
P292
P293
P294
P295
P296
P297
P298
P299
P300
P301
P302
P303
P304
P305
P306
P307
P308
P309
P310
P311
P312
P313
P314
P315
P316
P317
P318
P319
P320
P321
P322
P323
P324
P325
P326
P327
P328
P329
P330
P331
P332
P333
P334
P335
P336
P337
P338
P339
P340
P341
P342
P343
P344
P345
P346
P347
P348
P349
P350
P351
P352
P353
P354
P355
P356
P357
P358
P359
P360
P361
P362
P363
P364
P365
P366
P367
P368
P369
P370
P371
P372
P373
P374
P375
P376
P377
P378
P379
P380
P381
P382
P383
P384
P385
P386
P387
P388
P389
P390
P391
P392
P393
P394
P395
P396
P397
P398
P399
P400
P401
P402
P403
P404
P405
P406
P407
P408
P409
P410
P411
P412
P413
P414
P415
P416
P417
P418
P419
P420
P421
P422
P423
P424
P425
P426
P427
P428
P429
P430
P431
P432
P433
P434
P435
P436
P437
P438
P439
P440
P441
P442
P443
P444
P445
P446
P447
P448
P449
P450
P451
P452
P453
P454
P455
P456
P457
P458
P459
P460
P461
P462
P463
P464
P465
P466
P467
P468
P469
P470
P471
P472
P473
P474
P475
P476
P477
P478
P479
P480
P481
P482
P483
P484
P485
P486
P487
P488
P489
P490
P491
P492
P493
P494
P495
P496
P497
P498
P499
P500
P501
P502
P503
P504
P505
P506
P507
P508
P509
P510
P511
P512
P513
P514
P515
P516
P517
P518
P519
P520
P521
P522
P523
P524
P525
P526
P527
P528
P529
P530
P531
P532
P533
P534
P535
P536
P537
P538
P539
P540
P541
P542
P543
P544
P545
P546
P547
P548
P549
P550
P551
P552
P553
P554
P555
P556
P557
P558
P559
P560
P561
P562
P563
P564
P565
P566
P567
P568
P569
P570
P571
P572
P573
P574
P575
P576
P577
P578
P579
P580
P581
P582
P583
P584
P585
P586
P587
P588
P589
P590
P591
P592
P593
P594
P595
P596
P597
P598
P599
P600
P601
P602
P603
P604
P605
P606
P607
P608
P609
P610
P611
P612
P613
P614
P615
P616
P617
P618
P619
P620
P621
P622
P623
P624
P625
P626
P627
P628
P629
P630
P631
P632
P633
P634
P635
P636
P637
P638
P639
P640
P641
P642
P643
P644
P645
P646
P647
P648
P649
P650
P651
P652
P653
P654
P655
P656
P657
P658
P659
P660
P661
P662
P663
P664
P665
P666
P667
P668
P669
P670
P671
P672
P673
P674
P675
P676
P677
P678
P679
P680
P681
P682
P683
P684
P685
P686
P687
P688
P689
P690
P691
P692
P693
P694
P695
P696
P697
P698
P699
P700
P701
P702
P703
P704
P705
P706
P707
P708
P709
P710
P711
P712
P713
P714
P715
P716
P717
P718
P719
P720
P721
P722
P723
P724
P725
P726
P727
P728
P729
P730
P731
P732
P733
P734
P735
P736
P737
P738
P739
P740
P741
P742
P743
P744
P745
P746
P747
P748
P749
P750
P751
P752
P753
P754
P755
P756
P757
P758
P759
P760
P761
P762
P763
P764
P765
P766
P767
P768
P769
P770
P771
P772
P773
P774
P775
P776
P777
P778
P779
P780
P781
P782
P783
P784
P785
P786
P787
P788
P789
P790
P791
P792
P793
P794
P795
P796
P797
P798
P799
P800
P801
P802
P803
P804
P805
P806
P807
P808
P809
P810
P811
P812
P813
P814
P815
P816
P817
P818
P819
P820
P821
P822
P823
P824
P825
P826
P827
P828
P829
P830
P831
P832
P833
P834
P835
P836
P837
P838
P839
P840
P841
P842
P843
P844
P845
P846
P847
P848
P849
P850
P851
P852
P853
P854
P855
P856
P857
P858
P859
P860
P861
P862
P863
P864
P865
P866
P867
P868
P869
P870
P871
P872
P873
P874
P875
P876
P877
P878
P879
P880
P881
P882
P883
P884
P885
P886
P887
P888
P889
P890
P891
P892
P893
P894
P895
P896
P897
P898
P899
P900
P901
P902
P903
P904
P905
P906
P907
P908
P909
P910
P911
P912
P913
P914
P915
P916
P917
P918
P919
P920
P921
P922
P923
P924
P925
P926
P927
P928
P929
P930
P931
P932
P933
P934
P935
P936
P937
P938
P939
P940
P941
P942
P943
P944
P945
P946
P947
P948
P949
P950
P951
P952
P953
P954
P955
P956
P957
P958
P959
P960
P961
P962
P963
P964
P965
P966
P967
P968
P969
P970
P971
P972
P973
P974
P975
P976
P977
P978
P979
P980
P981
P982
P983
P984
P985
P986
P987
P988
P989
P990
P991
P992
P993
P994
P995
P996
P997
P998
P999
P1000

国分遺跡平面図　No.5

調査区遠景（南西　国分尼塚古墳群から撮影）

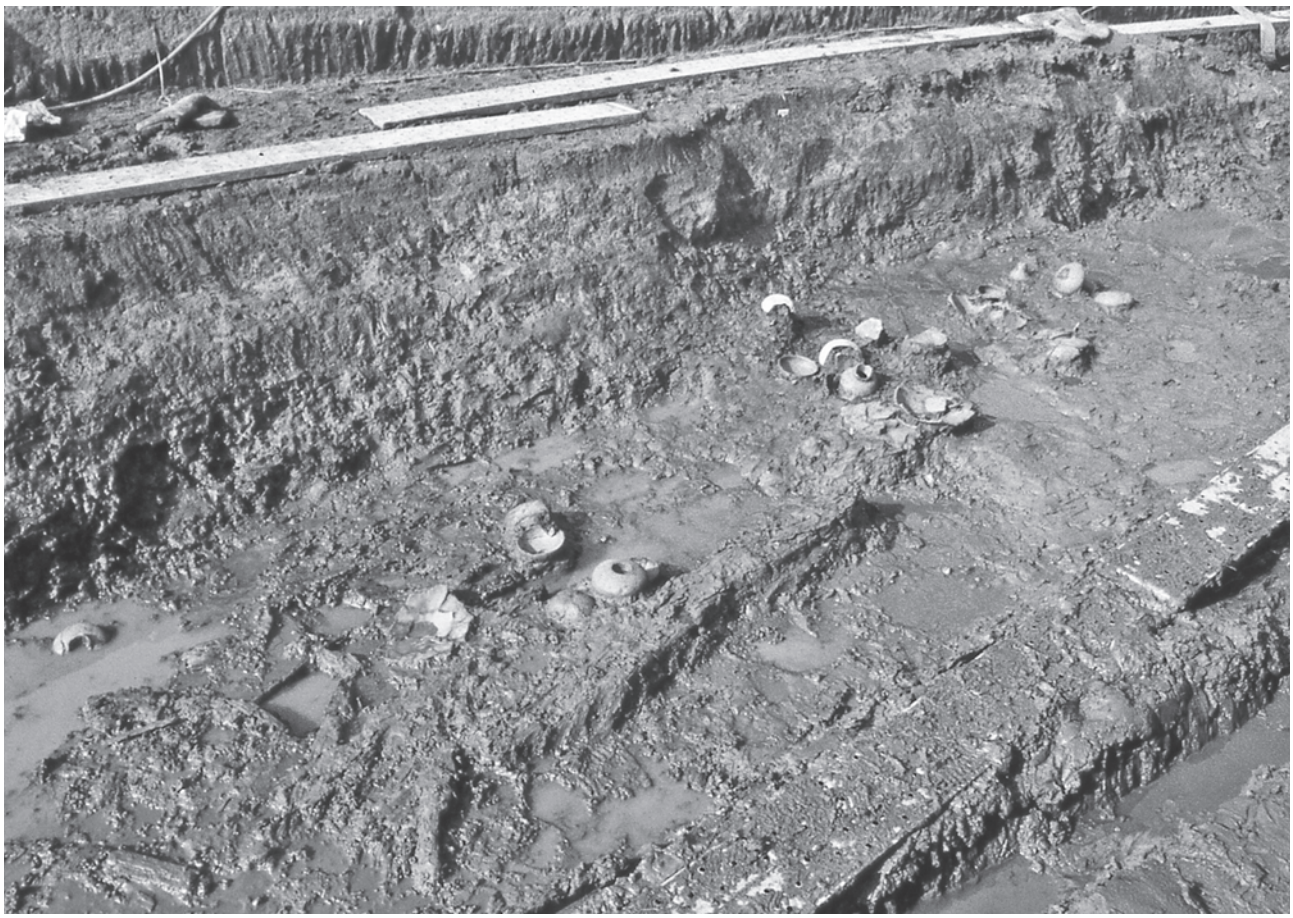
調査区全景（北東から）

表土除去作業（南から）

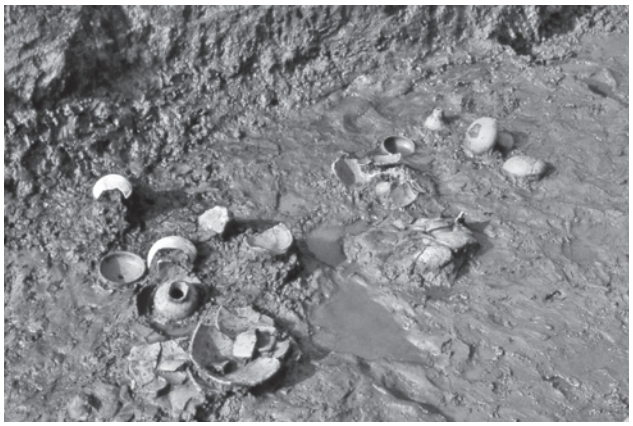
１号溝　完掘状況（西から）

３・６号溝　完掘状況（南西から）

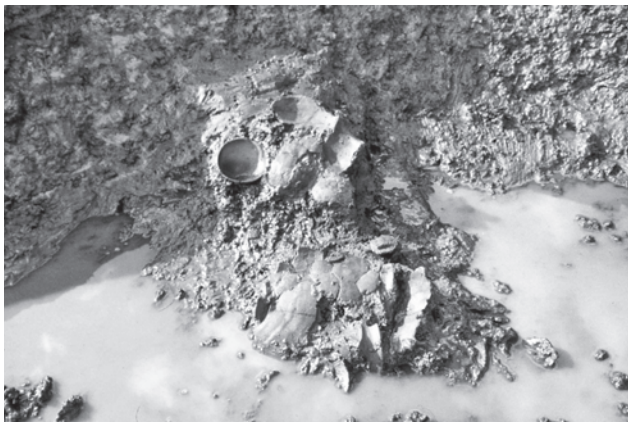
図版 2



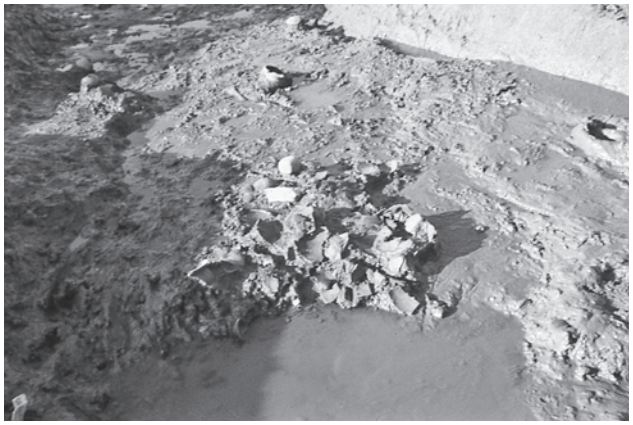
４号溝　土器（A-3 群・A-2 群）出土状況（南東から）



４号溝　土器（A-2 群）出土状況（東から）



４号溝　土器（C 群）出土状況（北東から）



４号溝　土器（E 群）出土状況（南東から）

４号溝　土層断面（南東から）

４号溝　土器（D 群）出土状況（東から）（中央 甕 180）

調査区完掘状況全景（南から）

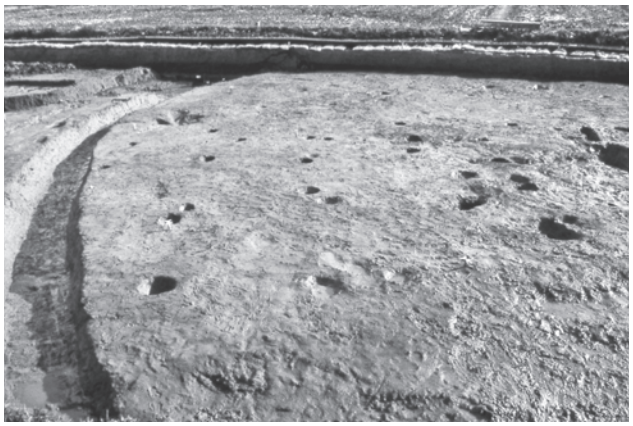
図版４

４号溝　完掘状況（南東から）

４号溝　掘削作業（北西から）

１・３・４・５・６号溝　完掘状況（東から）

５号溝　完掘状況（南西から）

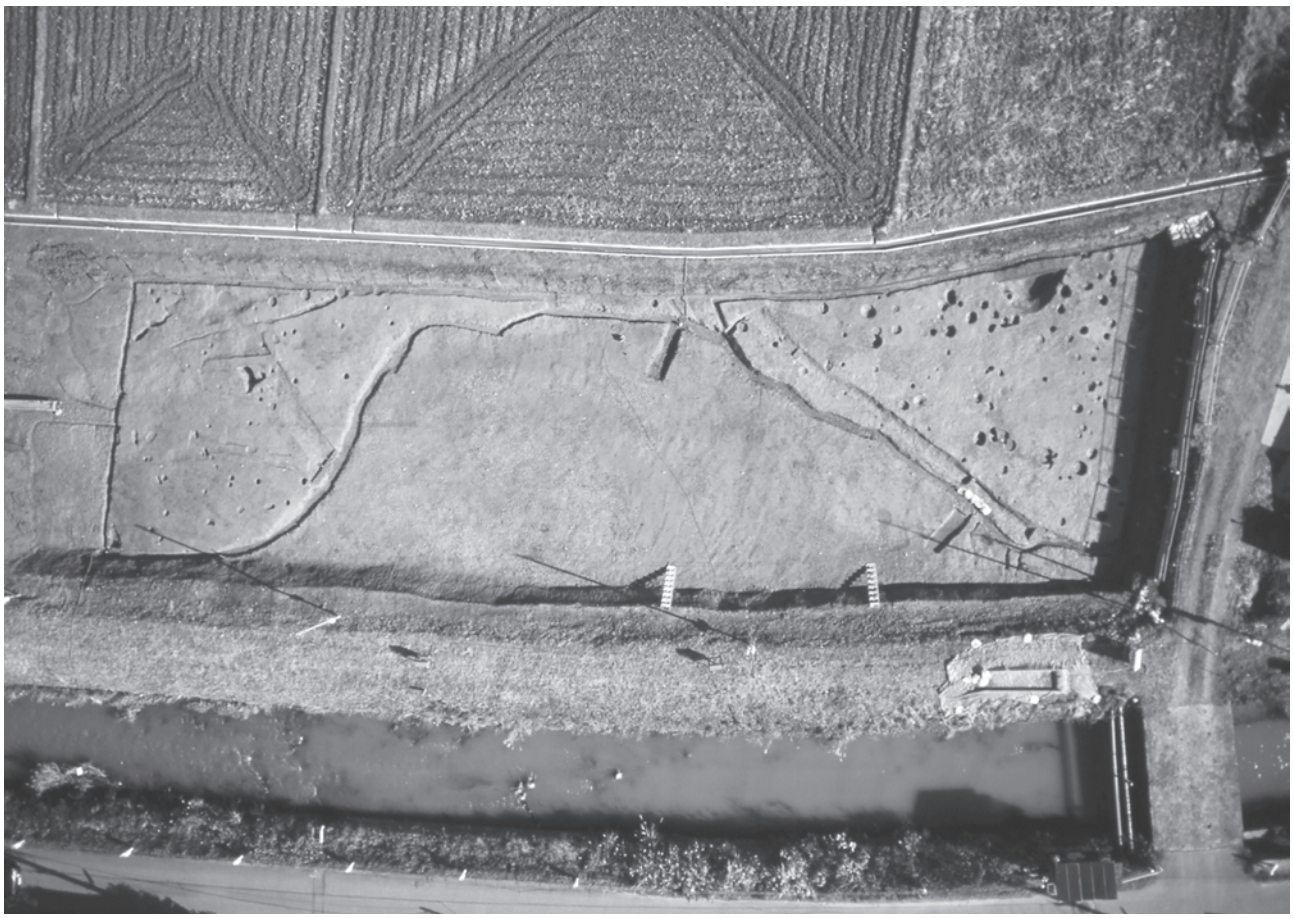


５号溝以南　ピット群（西から）

遺構掘削作業（南西から）

調査区完掘状況全景（南西から）

調査区埋め戻し作業（南西から）



完掘状況　全景（写真上が東）

完掘状況　北区（写真上が東）

図版 6

完掘状況　南区（写真上が東）

完掘状況　全景（南東から）

完掘状況　北区（北東から）

完掘状況　北区（西から）

完掘状況　南区（北東から）

完掘状況　SD01（南西から）

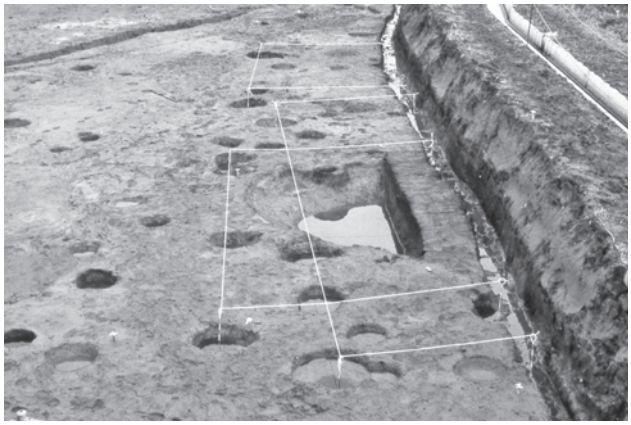
完掘状況　SD04・SD07（南西から）

完掘状況　SK01（東から）

SK01　土師器小壺（308）　出土状況（西から）

P1　高坏（304）　出土状況

SB1　検出状況（南から）



SB2・SB3・SB4　検出状況（南から）

SB5・SB6　検出状況（北東から）

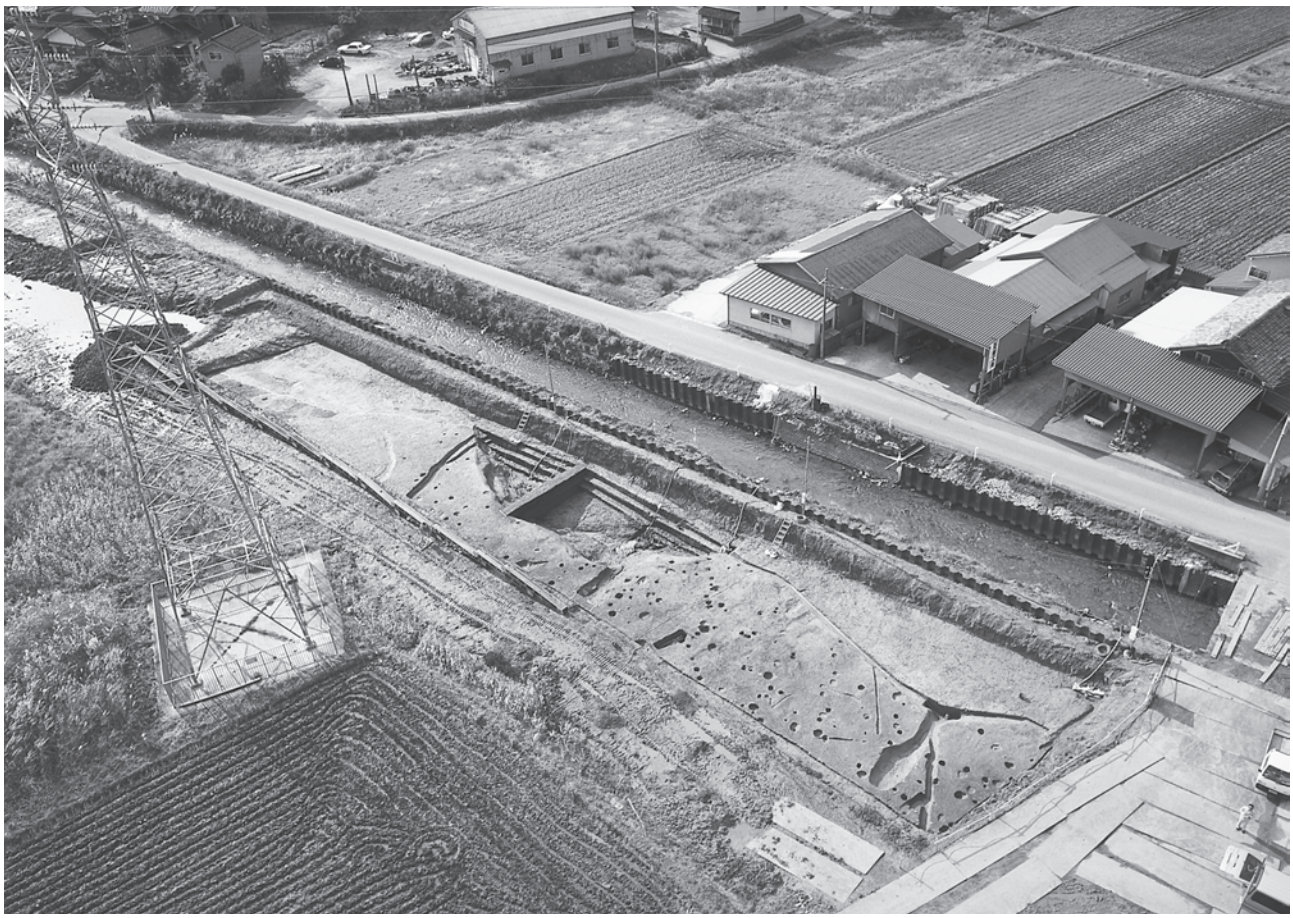
調査区遠景（南西から）

調査区遠景（東から）

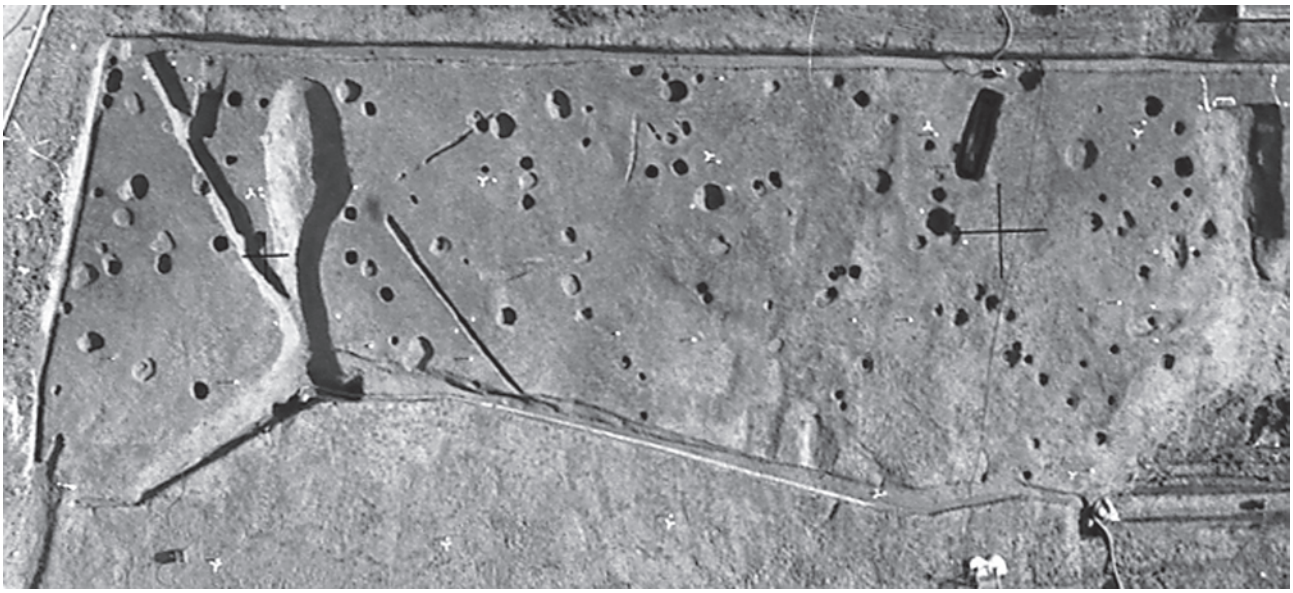
遺構検出状況（北から）

SB11 付近　完掘状況（北東から）

SD02 付近　完掘状況（西から）



調査区完掘状況全景（北東から）



完掘状況北側（写真上が東）

図版 10

旧河道　完掘状況（北から）

SB7・11 周辺　完掘状況（東から）

調査区完掘状況全景（北から）

調査区完掘状況全景（南から）

基本土層断面

旧河道　土層断面（北から）

旧河道上層　遺物出土状況

旧河道　下層１　土器群出土状況（南東から）

旧河道　下層１　531・532・542 出土状況（東から）

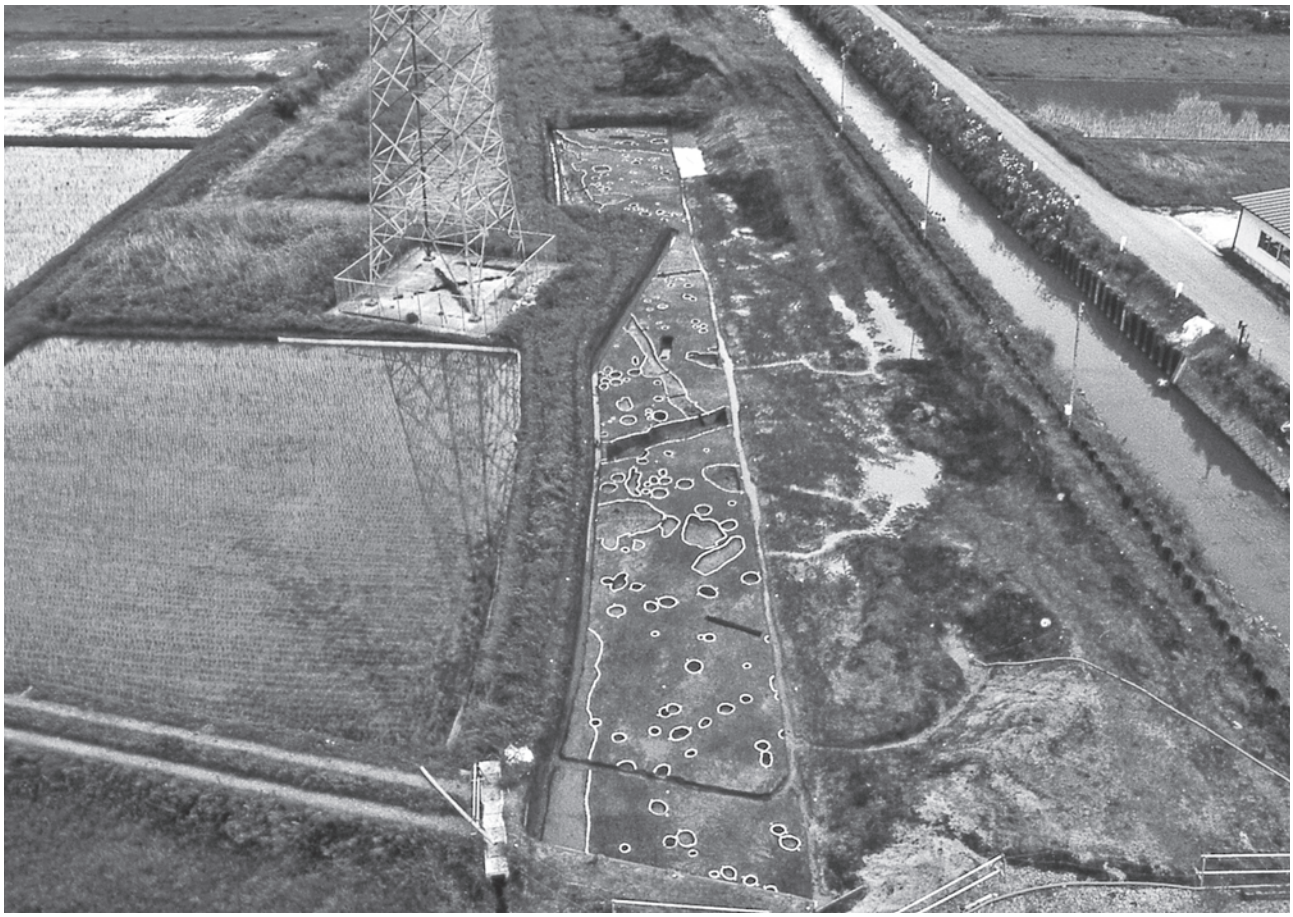
旧河道　下層１　509・541 出土状況（東から）

３区細溝　土層断面（南西から）

SD02　土層断面（西から）

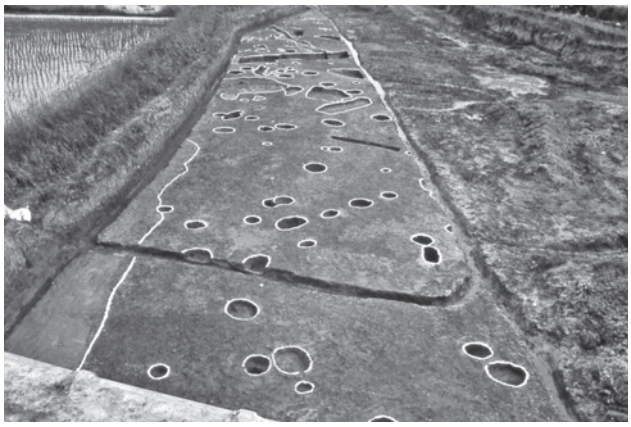
SD03　土層断面（東から）

A・B区　全景（写真上が西）

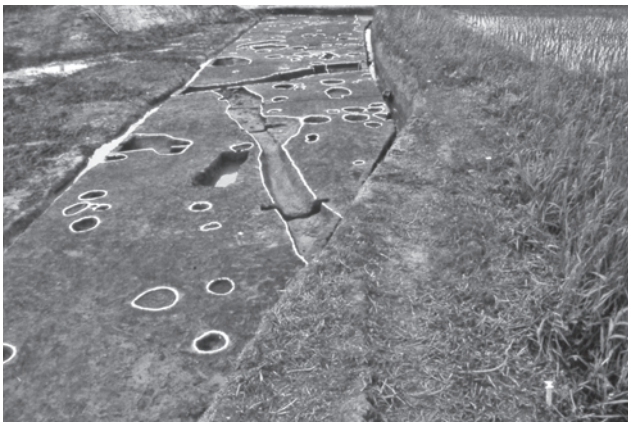


A・B区　全景（北から）

C区　完掘状況（南西から）



A区　完掘状況（北から）

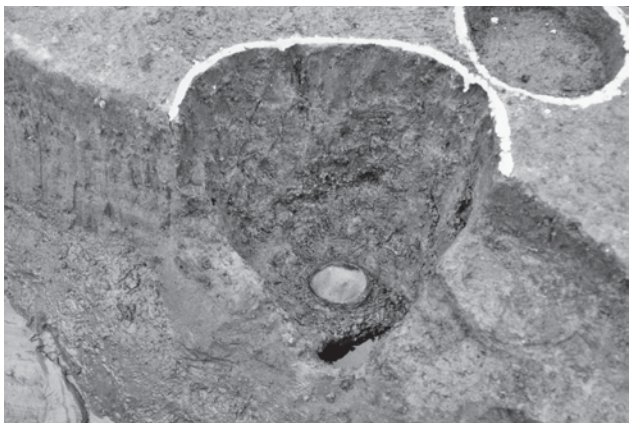


A区　完掘状況（南から）

B区　完掘状況（南から）

A区 P68　遺物（602）出土状況（東から）

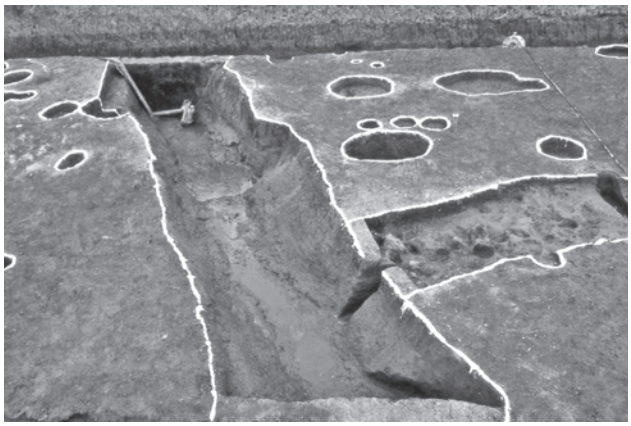
図版 14



A 区 P69　遺物（601）出土状況（東から）

A 区 SD09・SB12　（西から）

A 区 SD10　完掘状況（南から）



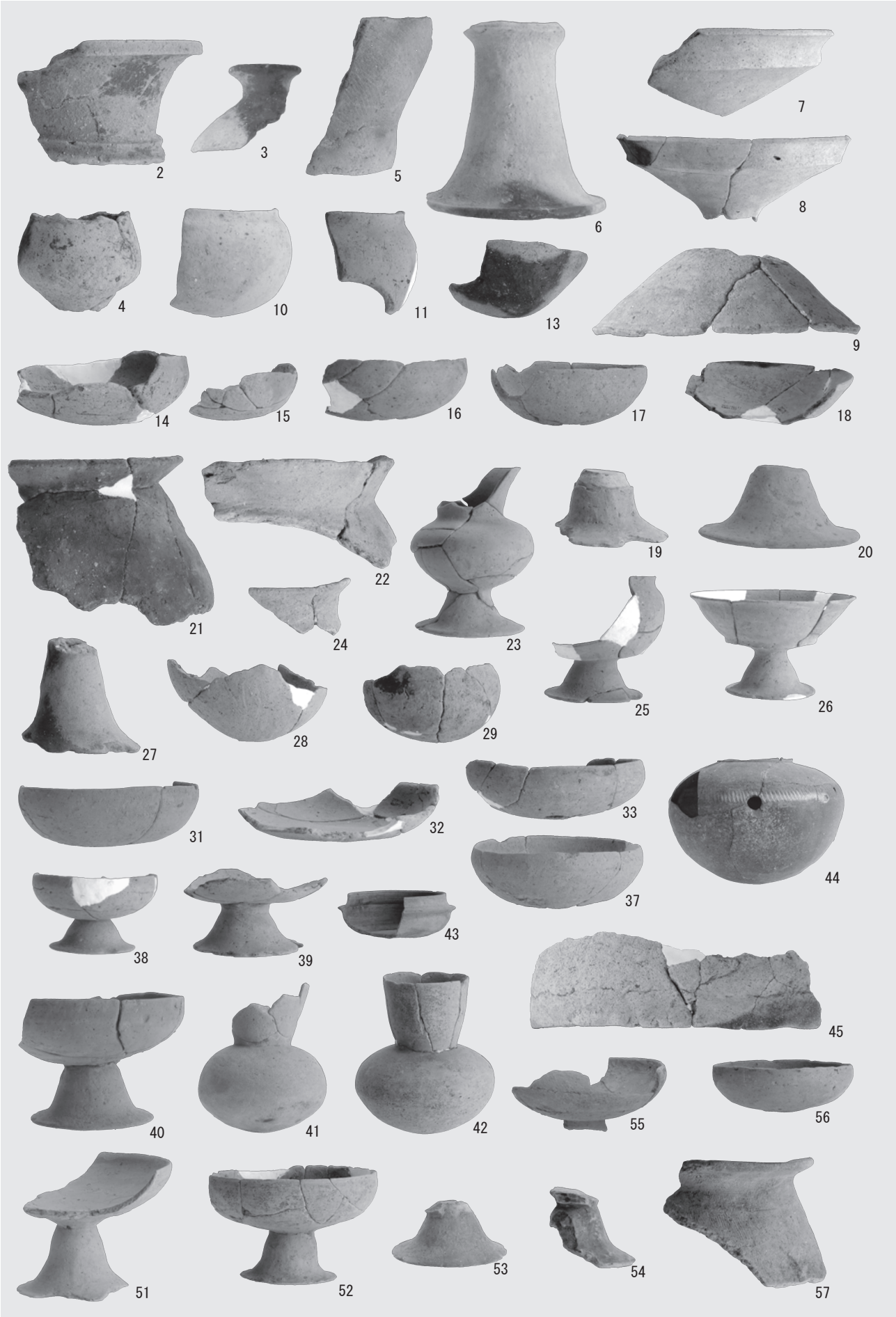
A 区 SD11　完掘状況（西から）

A 区 SK02　完掘状況（東から）

A 区 SK03　完掘状況（東から）

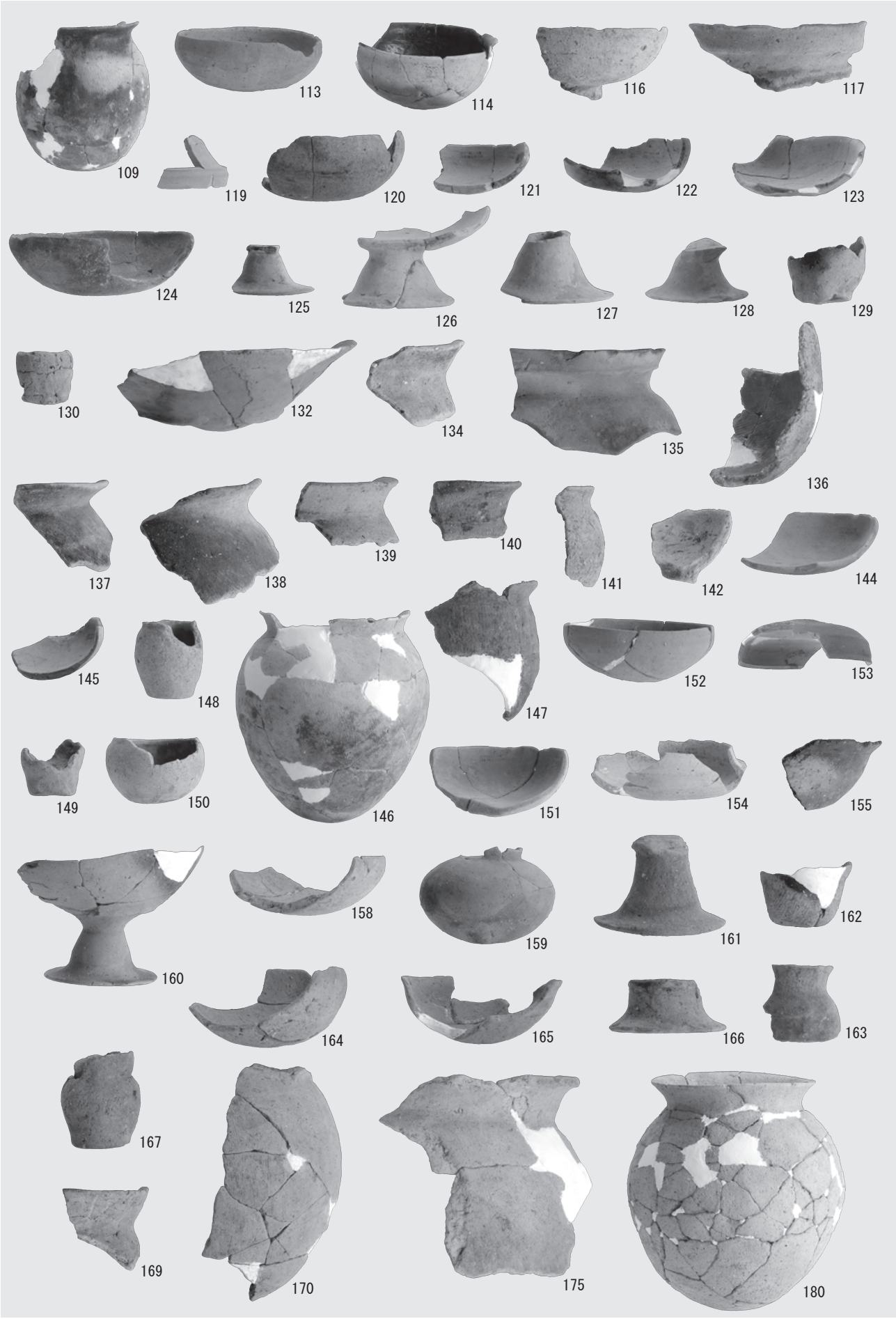
B 区 SD07・08　完掘状況（北から）

C 区 SD04・06 付近　完掘状況（東から）

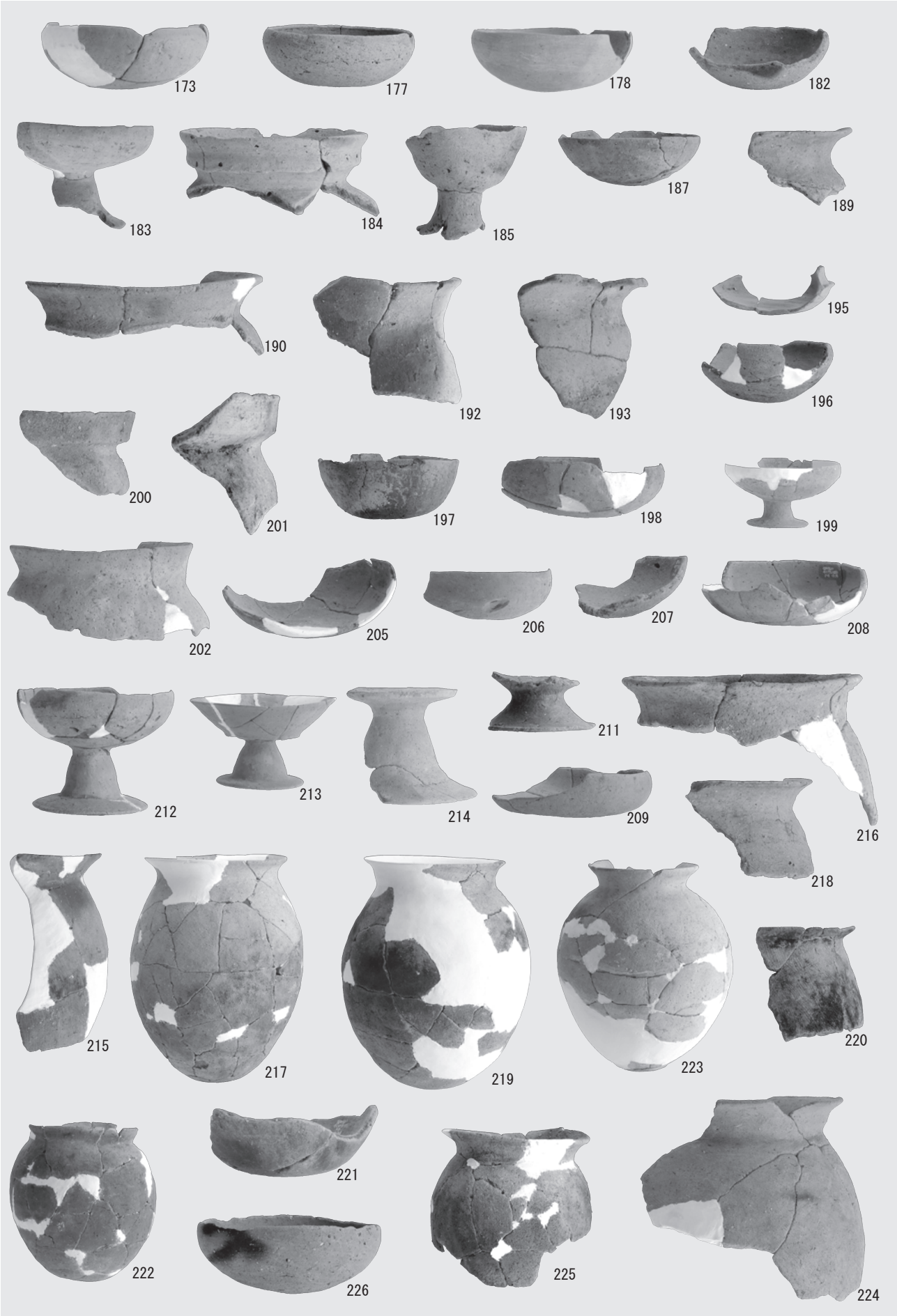

2
3
5
6
7
8
4
10
11
13
9
14
15
16
17
18
21
22
23
19
20
24
25
26
27
28
29
31
32
33
44
37
38
39
43
45
40
41
42
55
56
51
52
53
54
57

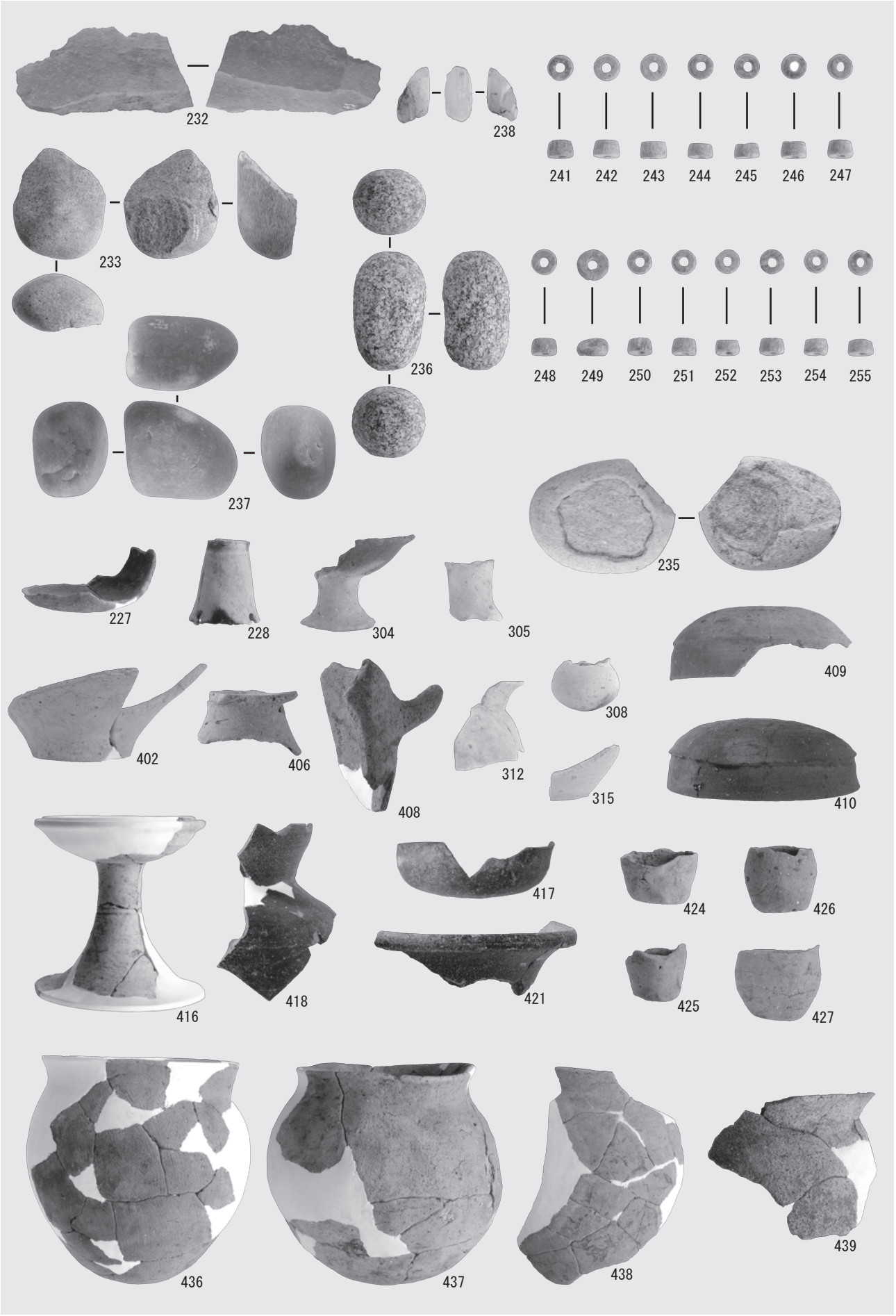
図版 16

46
47
49
50
58
59
62
70
72
63
64
65
66
67
68
71
73
69
74
76
81
75
82
83
78
79
80
84
89
85
86
90
92
93
94
96
97
98
100
101
102
105
103
104
107
106
108
111
112

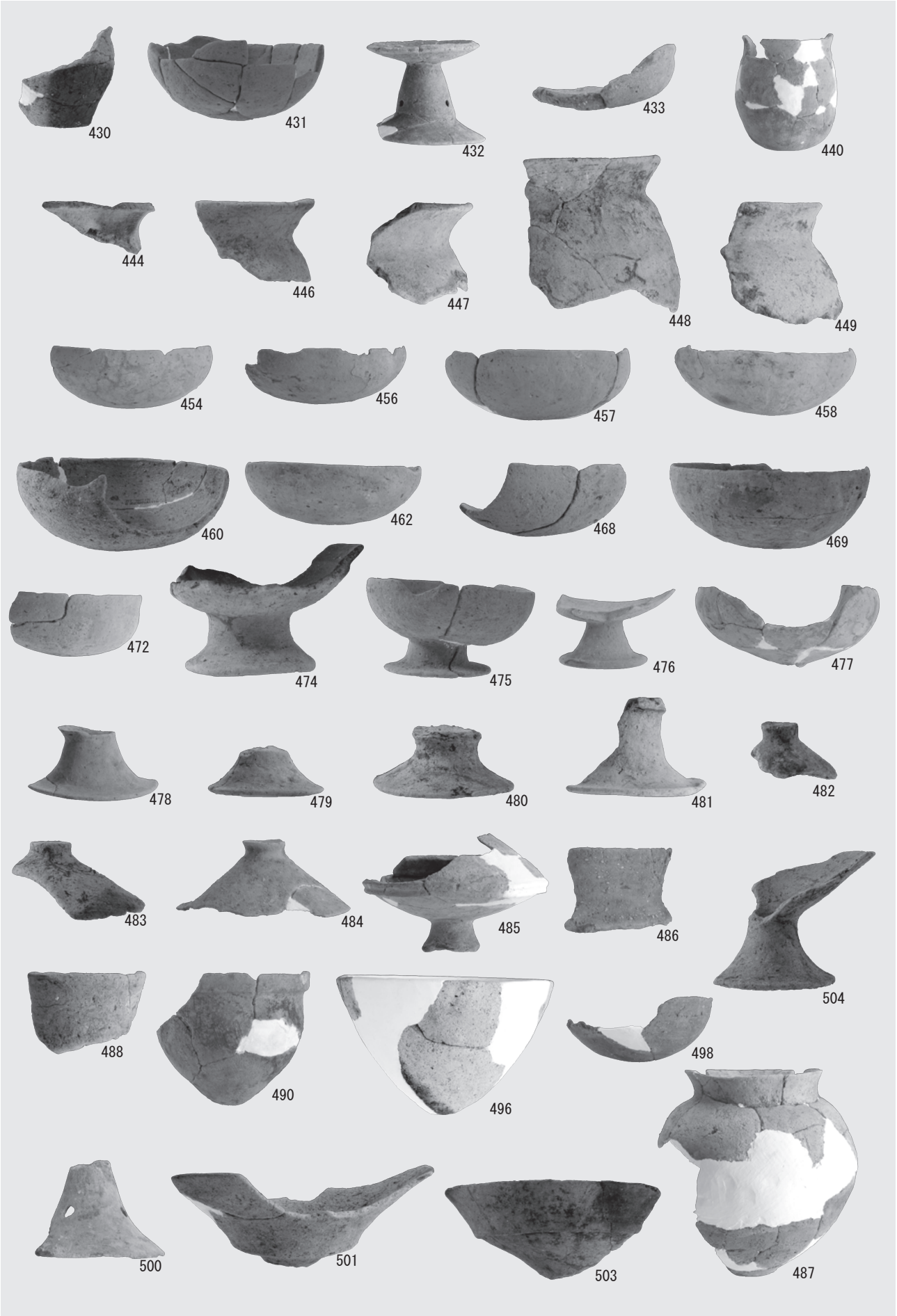

109
113
114
116
117
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
132
134
135
136
137
138
139
140
141
142
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
169
170
175
180

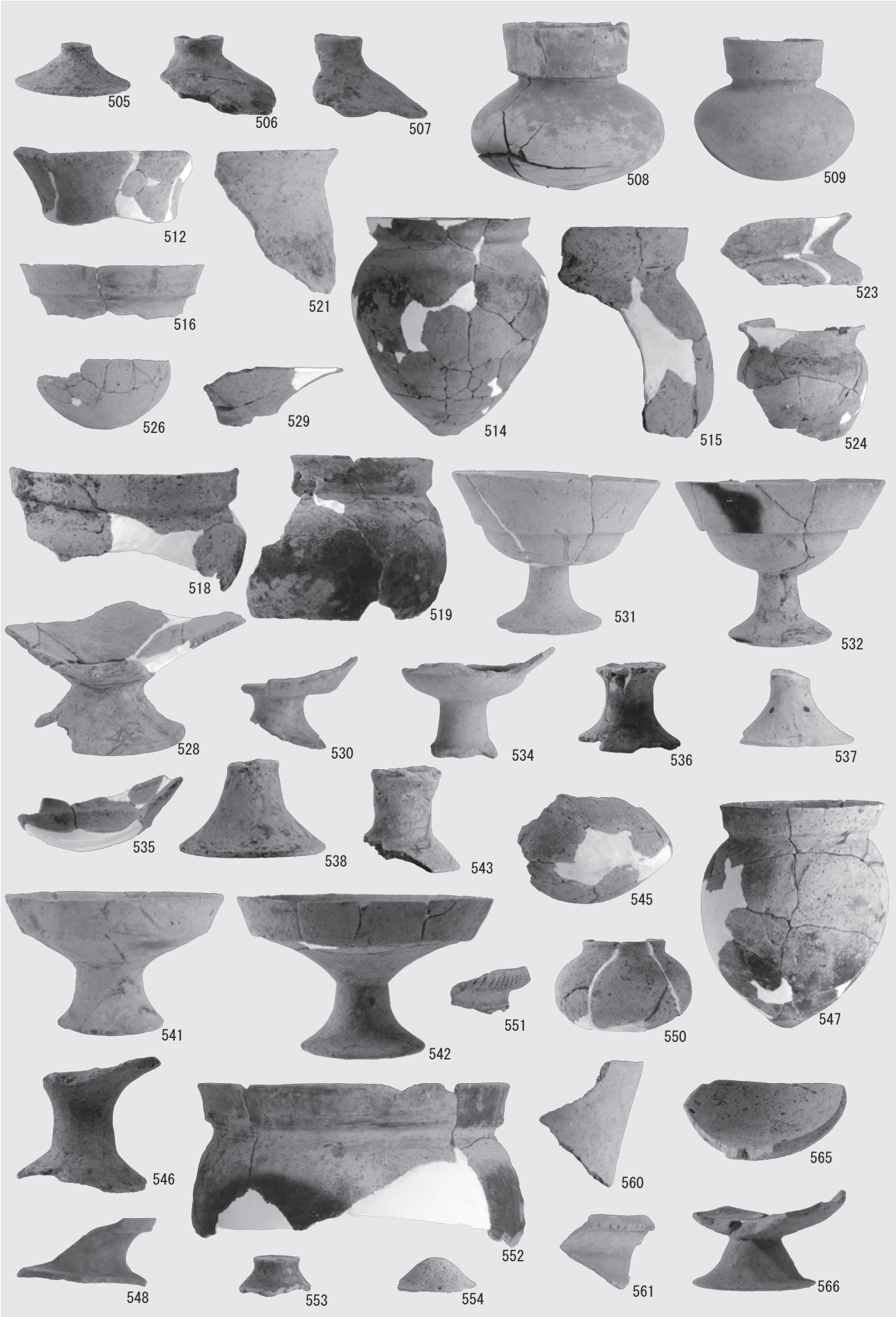
図版 18


173
177
178
182
183
184
185
187
189
190
192
193
195
196
200
201
197
198
199
202
205
206
207
208
212
213
214
211
209
216
218
215
217
219
223
220
222
221
226
225
224

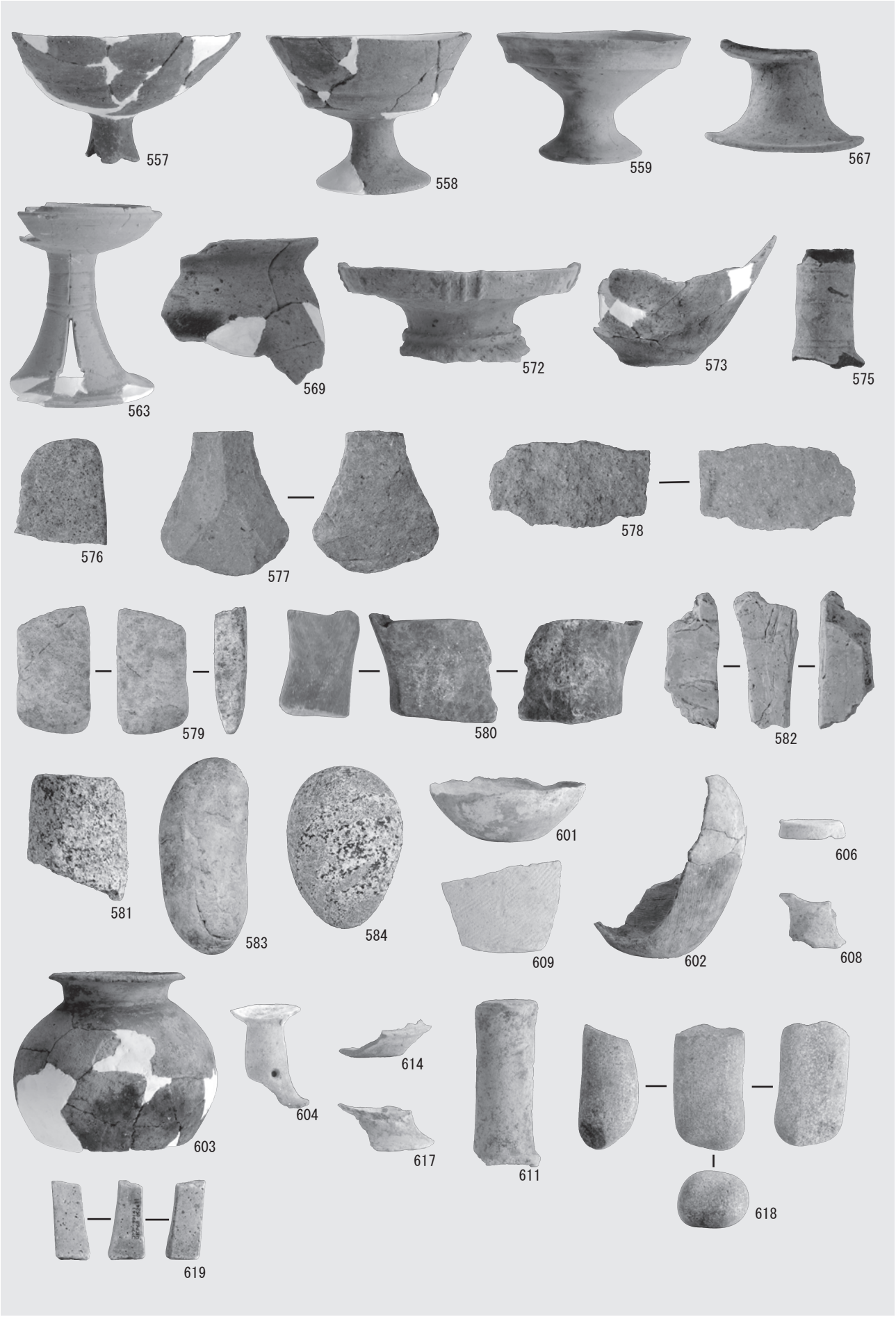

232
238
241
242
243
244
245
246
247
233
236
248
249
250
251
252
253
254
255
237
235
227
228
304
305
409
402
406
408
312
308
315
410
416
418
417
424
426
421
425
427
436
437
438
439

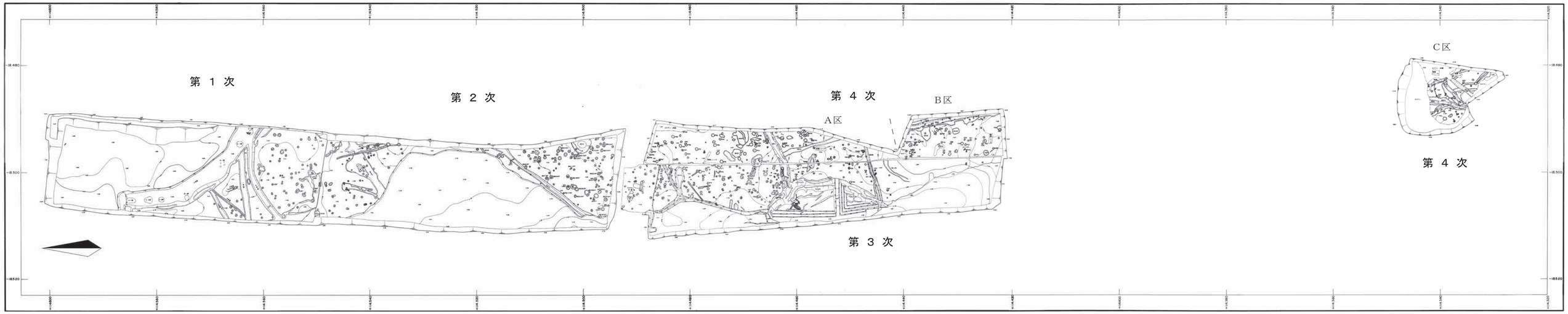
図版 20


430
431
432
433
440
444
446
447
448
449
454
456
457
458
460
462
468
469
472
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
504
488
490
496
498
500
501
503
487


505
506
507
508
509
512
521
516
514
515
523
524
526
529
518
519
531
532
528
530
534
536
537
535
538
543
545
541
542
551
550
547
546
552
560
565
548
553
554
561
566

図版 22


557
558
559
567
563
569
572
573
575
576
577
578
579
580
582
581
583
584
601
606
609
602
608
603
604
614
617
611
618
619



付図1 国分遺跡調査区（第1次～第４次）全体図（1/500）

付図2 国分遺跡平面図（部分・1/300）

報告書抄録

ふ り が な	ななおし　こくぶいせき
書　　名	七尾市　国分遺跡
副　書　名	広域河川改修工事二級河川御祓川に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	松山和彦、浜崎悟司、安中哲徳、加藤克郎、中泉絵美子
編 集 機 関	（財）石川県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒920-1336　石川県金沢市中戸町18番地１　TEL076-229-4477
発 行 機 関	石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター
発 行 年 月 日	2010年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 （新）	東経 （新）	調査期間	調査面積	調査原因
国分遺跡（こくぶいせき）	石川県七尾市（いしかわけんななおし）国分町（こくぶまち）	17202	02279	37度13分48秒	136度44分22秒	19961021～19970113	1,000㎡	河川
						19971013～19971204	1,200㎡	
						19981001～19981224	1,000㎡	
						19990413～19990531	860㎡	

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
国 分 遺 跡	集落跡	弥生時代、古墳時代、古代、中世	溝、土坑 掘立柱建物 旧河道	弥生土器、土師器、須恵器、珠洲焼、石製品、臼玉	

要　　約	遺跡は御祓川の下流域、七尾市国分町地内に所在する。標高５～６ｍの自然堤防上に立地している。御祓川は流路を変遷させており、第３次調査では弥生時代の旧河道を検出し、完形品を含む良好な土器群が出土している。第１次調査では、古墳時代の旧河道を検出し、大量の土師器が出土している。甕の内部から滑石製臼玉が出土した事例もあり、祭祀的使用と推定される。

七尾市　国分遺跡

発行日　平成22（2010）年3月31日

発行者　石川県教育委員会
〒920-8575　石川県金沢市鞍月1丁目1番地
電話　076-225-1842（文化財課）

（財）石川県埋蔵文化財センター
〒920-1336　石川県金沢市中戸町18番地1
電話　076-229-4477
E-mail address　mail@ishikawa-maibun.or.jp

印　刷　鵜川印刷株式会社
〒923-0053　石川県小松市河田町丁33番地